

松阪市

障がい福祉に関するアンケート調査
結果報告書
(障がい者対象)

令和2年3月

松 阪 市

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
3	回答者と対象者の属性	2
(1)	回答者	2
(2)	対象者の性別	2
(3)	対象者の年齢	3
(4)	対象者の居住地域	3
II	調査結果	4
1	障がい等の状況について	4
(1)	障がいの種類	4
(2)	初めて手帳を交付された年齢	5
(3)	障がい等の種類	6
(4)	日常生活における介助の必要性	7
(5)	主な介助者	18
(6)	介助者の属性	20
(7)	主な介助者が介助できなくなった場合の対処	24
(8)	介助する上で困っていること	26
(9)	在宅で介助を続けるために必要な支援	28
2	住まいや暮らしについて	30
(1)	現在の暮らし方	30
(2)	主な収入源	32
(3)	希望する暮らし方	34
(4)	地域で生活するために必要な支援	36
(5)	ボランティアに希望する支援	38
3	日中活動や就労について	40
(1)	外出の頻度	40
(2)	主な同伴者	42
(3)	外出の目的	44
(4)	外出の際に困ること	46
(5)	平日の日中の過ごし方	48
(6)	勤務形態	50
(7)	1か月の収入	52
(8)	仕事の悩み・困りごと	54

(9) 障がい者の就労に必要な環境.....	56
(10) 今後収入を得る仕事をしたいか.....	58
(11) 職業訓練を受けたいと思うか.....	60
4 余暇活動や地域での活動について.....	62
(1) 余暇活動としてしたいこと.....	62
(2) 地域活動や余暇活動に参加する際のさまたげ.....	64
5 障害福祉サービスなどの利用について.....	66
(1) 障害支援区分の認定を受けているか.....	66
(2) 利用しているサービス・利用したいサービス.....	68
(3) 要介護認定を受けているか.....	73
6 保健・医療サービスについて.....	74
(1) 現在受けている医療的ケア.....	74
(2) 医療のことで困っていること.....	76
(3) 歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるか.....	78
7 相談相手について.....	80
(1) 悩みや困りごとを相談する人.....	80
(2) 障がいや福祉サービスに関する情報の入手方法.....	82
(3) 特に充実してほしい情報.....	84
8 災害時の避難などについて.....	86
(1) 災害時に一人で避難できるか.....	86
(2) 災害が起きた際に頼れる人.....	88
(3) 災害時に困ること.....	90
(4) 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み.....	92
9 障がいのある人に対する理解、権利擁護について.....	94
(1) 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか.....	94
(2) 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか.....	96
(3) 差別や偏見を感じる場面.....	98
(4) 成年後見制度の認知度.....	100
(5) 成年後見制度の利用意向.....	102
10 市の取り組みについて.....	104
(1) 市が取り組むべき施策.....	104

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、新たな「松阪市障がい者計画・障がい（児）福祉計画」の策定にあたって、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施した。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	18 歳以上の障害者手帳所持者及び難病患者
配布数	1, 600
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和 2 年 2 月
調査地域	松阪市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	1, 600
有効回収数	805
有効回収率	50. 3%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

①比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出している。

従って、合計が 100％を上下する場合もある。

②基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率は n を 100％として算出している。

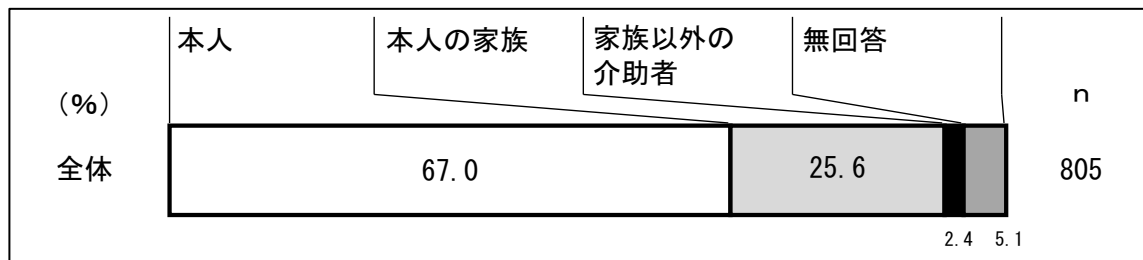
③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出してもよい問であり、従って各回答の合計比率は 100％を超える場合がある。

3 回答者と対象者の属性

(1) 回答者

回答者は、「本人」が 67.0%、「本人の家族」が 25.6%、「家族以外の介助者」が 2.4%となっている。

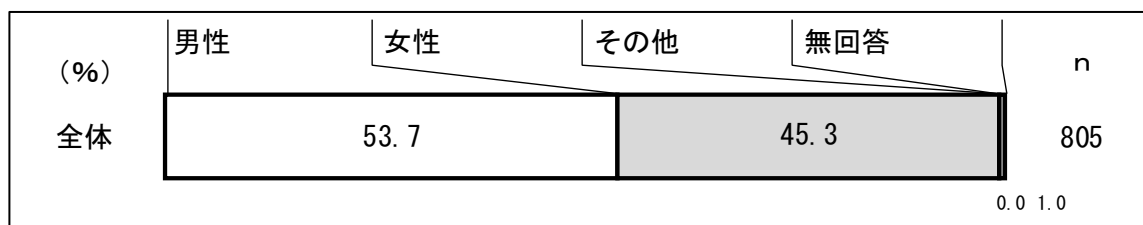
図表 回答者



(2) 対象者の性別

対象者の性別は、「男性」が 53.7%、「女性」が 45.3%となっている。

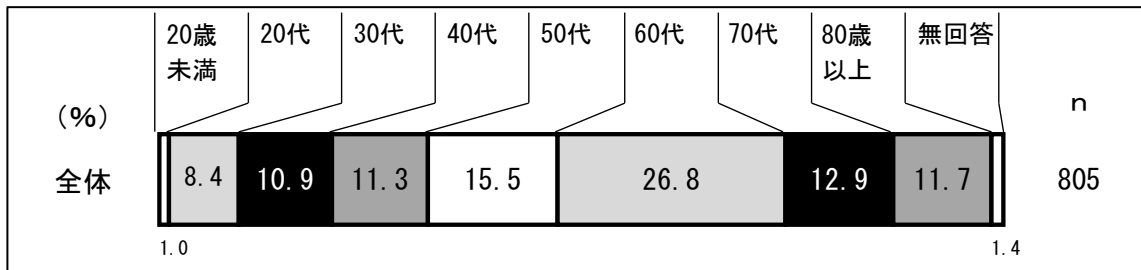
図表 対象者の性別



(3) 対象者の年齢

対象者の年齢は、「60代」が26.8%、「50代」が15.5%、「70代」が12.9%、「80歳以上」が11.7%、「40代」が11.3%、「30代」が10.9%、「20代」が8.4%、「20歳未満」が1.0%となっている。

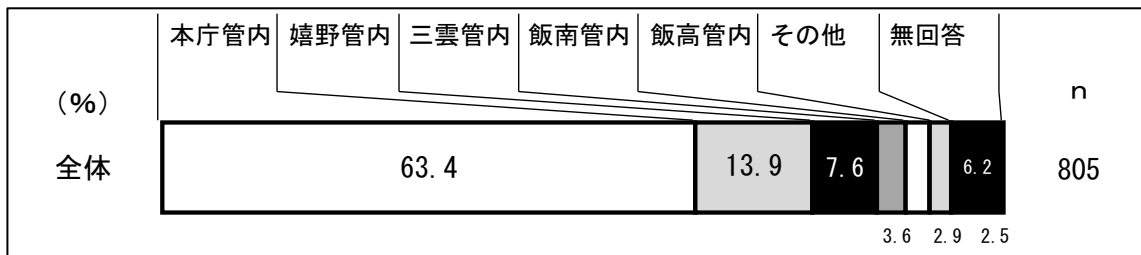
図表 対象者の年齢



(4) 対象者の居住地

対象者の居住地は、「本庁管内」が63.4%、「嬉野管内」が13.9%、「三雲管内」が7.6%、「飯南管内」が3.6%、「飯高管内」が2.9%となっている。

図表 対象者の居住地



Ⅱ 調査結果

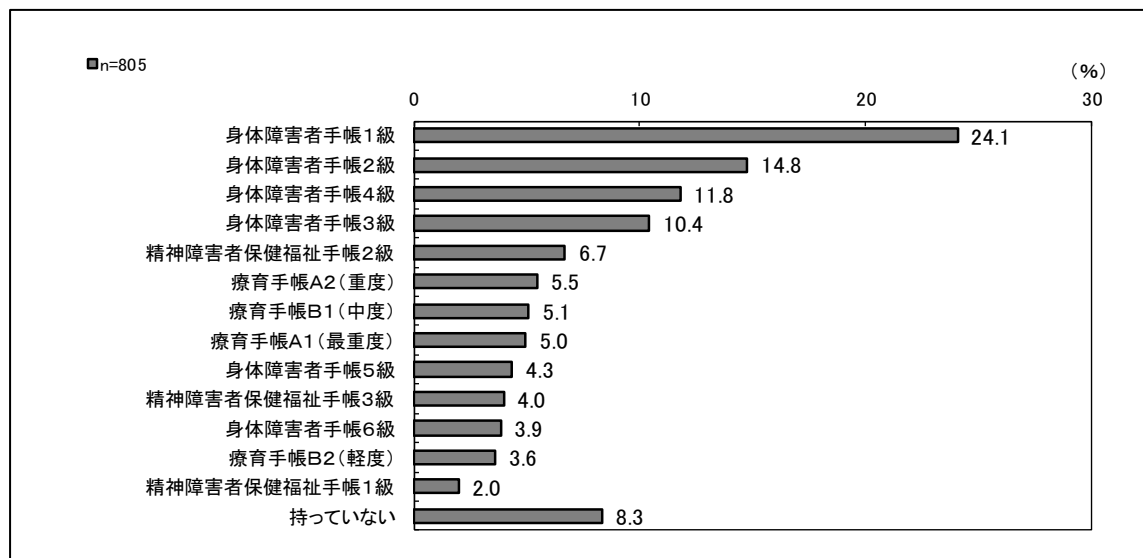
1 障がい等の状況について

(1) 障がいの種類

問3 あなたがお持ちの手帳は以下のどれですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

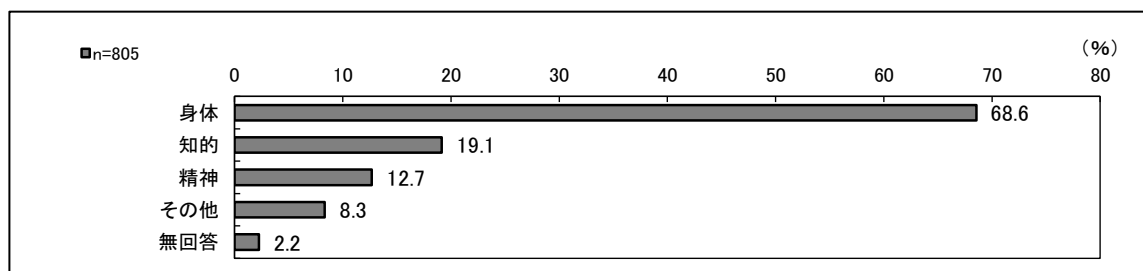
所持している障害者手帳についてたずねたところ、「身体障害者手帳1級」(24.1%)が最も多く、次いで「身体障害者手帳2級」(14.8%)、「身体障害者手帳4級」(11.8%)、「身体障害者手帳3級」(10.4%)、「精神障害者保健福祉手帳2級」(6.7%)、「療育手帳A2(重度)」(5.5%)、「療育手帳B1(中度)」(5.1%)、「療育手帳A1(最重度)」(5.0%)、「身体障害者手帳5級」(4.3%)、「精神障害者保健福祉手帳3級」(4.0%)、「身体障害者手帳6級」(3.9%)、「療育手帳B2(軽度)」(3.6%)、「精神障害者保健福祉手帳1級」(2.0%)となっている。

図表 所持している障害者手帳（全体／複数回答）



所持している障害者手帳に基づいて障がいの種類を区分すると、「身体」が68.6%、「知的」が19.1%、「精神」が12.7%となっている。

図表 障がいの種類

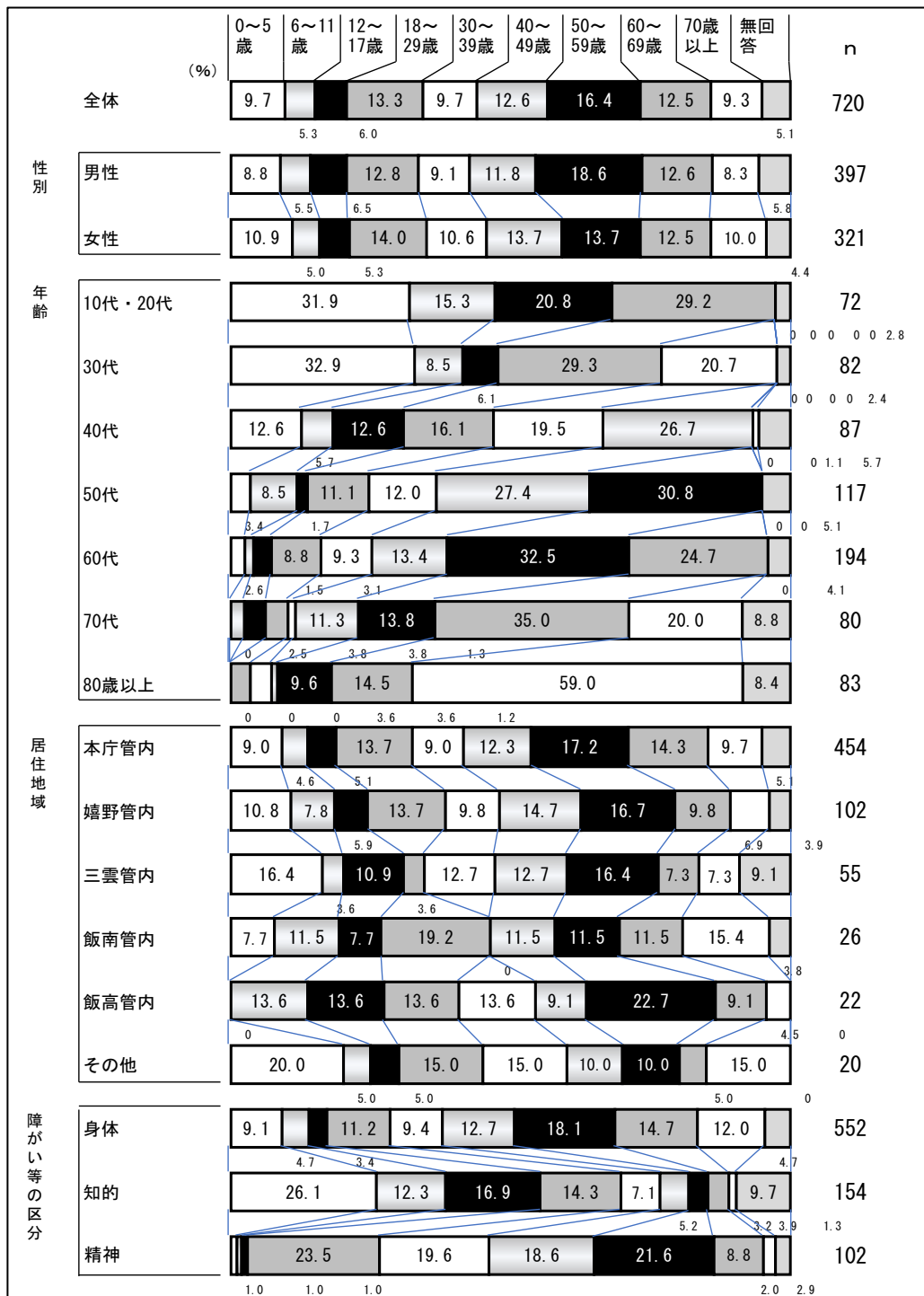


(2) 初めて手帳を交付された年齢

【問3-1は、問3で「1.」～「13.」に○をつけた方にうかがいます】
問3-1 あなたが手帳を初めて交付されたのは何歳の時ですか。(1つに○)

初めて手帳を交付された年齢についてたずねたところ、「50～59歳」が16.4%、「18～29歳」が13.3%、「40～49歳」が12.6%、「60～69歳」が12.5%、「0～5歳」が9.7%、「30～39歳」が9.7%、「70歳以上」が9.3%、「12～17歳」が6.0%、「6～11歳」が5.3%となっている。

図表 初めて手帳を交付された年齢

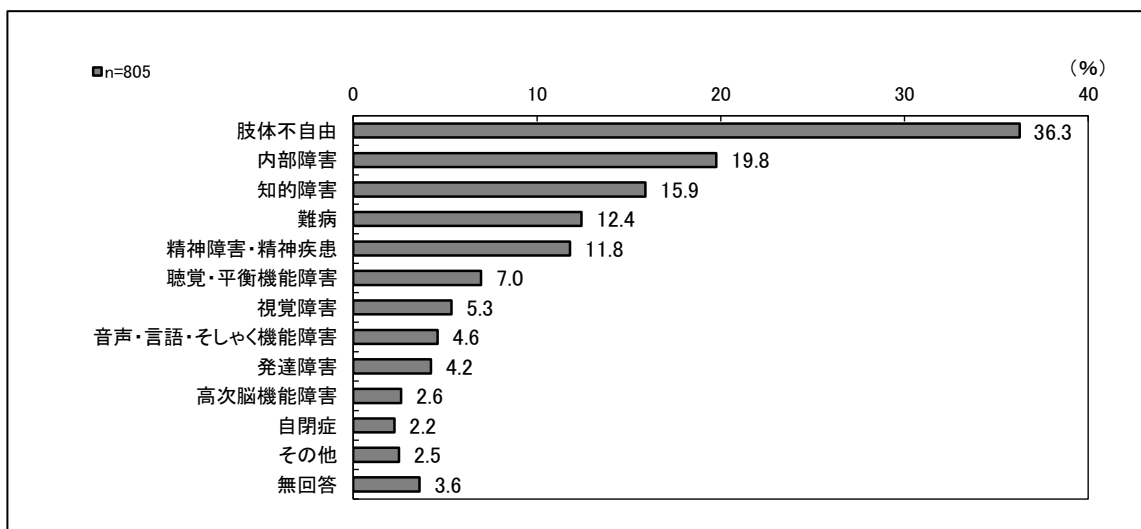


(3) 障がい等の種類

問4 あなたの障がい等の種類についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】

障がい等の種類についてたずねたところ、「肢体不自由」(36.3%)が最も多く、次いで「内部障害」(19.8%)、「知的障害」(15.9%)、「難病」(12.4%)、「精神障害・精神疾患」(11.8%)、「聴覚・平衡機能障害」(7.0%)、「視覚障害」(5.3%)、「音声・言語・そしゃく機能障害」(4.6%)、「発達障害」(4.2%)、「高次脳機能障害」(2.6%)、「自閉症」(2.2%)となっている。

図表 障がい等の種類（全体／複数回答）



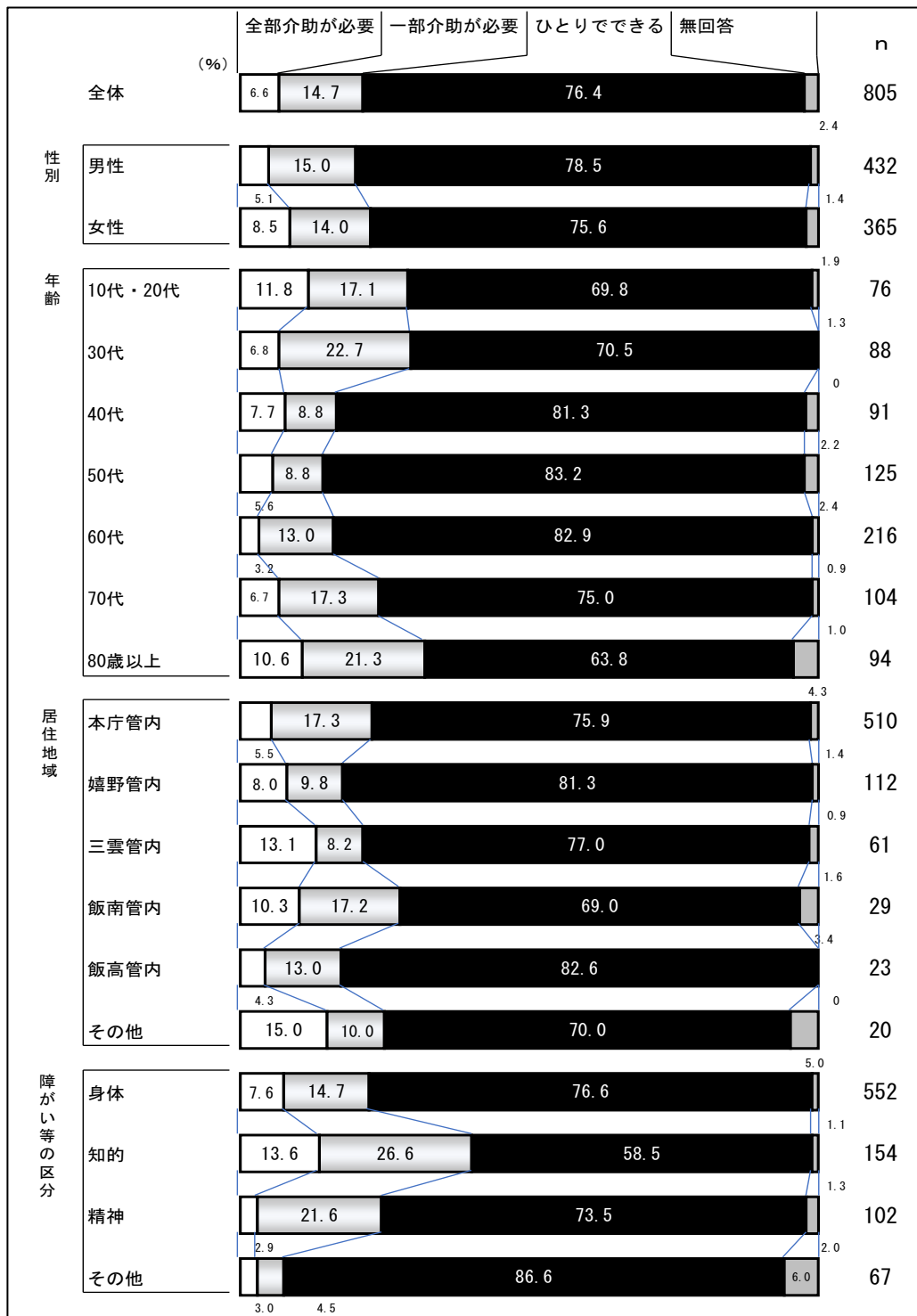
(4) 日常生活における介助の必要性

問5 あなたは日常生活で、次のことをどのようにしていますか。それぞれお答えください。
(①から⑩のそれぞれの項目で、1、2、3のいずれかに○)

①食事

食事の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」が76.4%、「一部介助が必要」が14.7%、「全部介助が必要」が6.6%となっている。

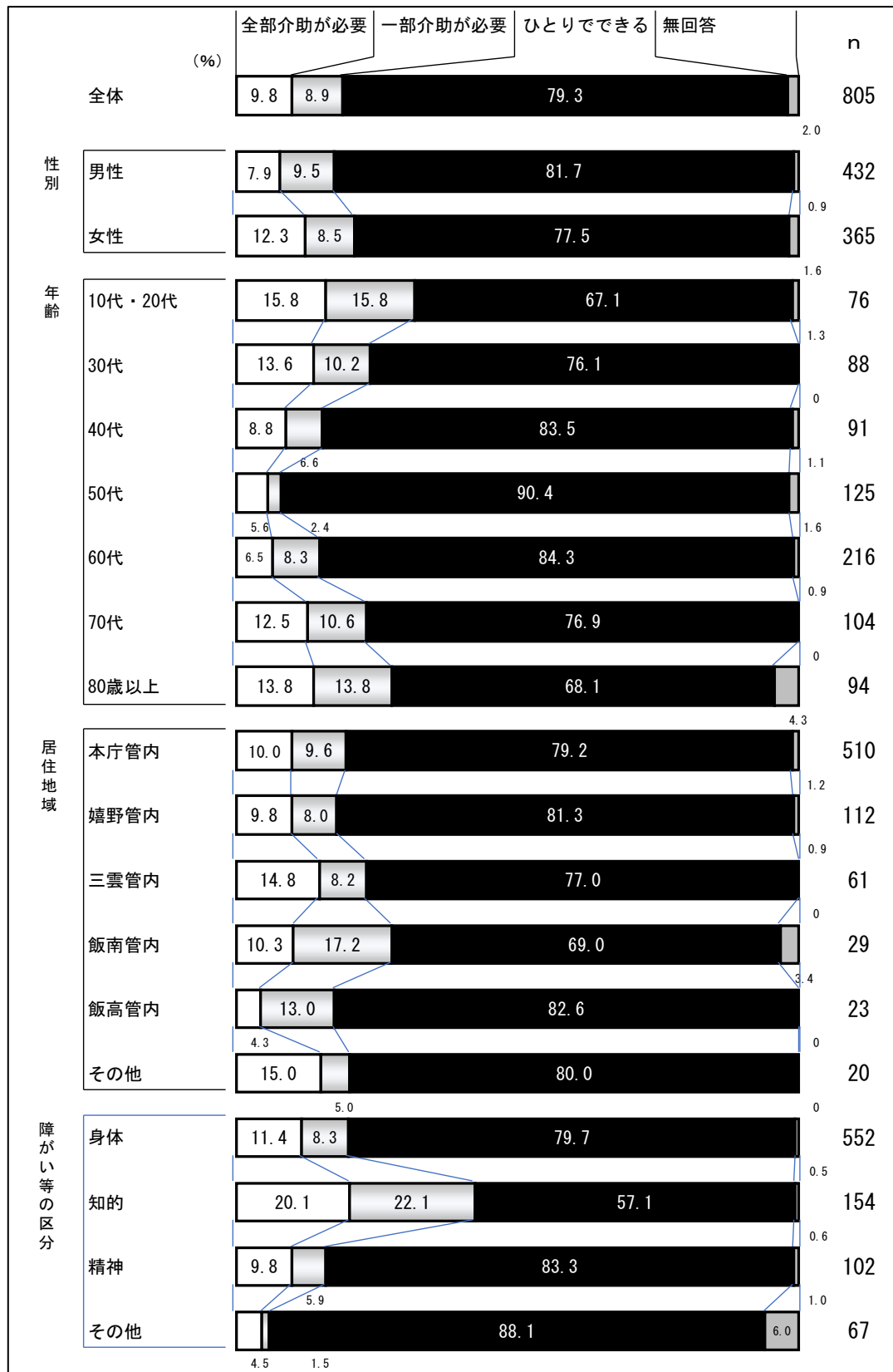
図表 介助の必要性（食事）



②トイレ

トイレの際の介助の必要性は、「ひとりでできる」が79.3%、「全部介助が必要」が9.8%、「一部介助が必要」が8.9%となっている。

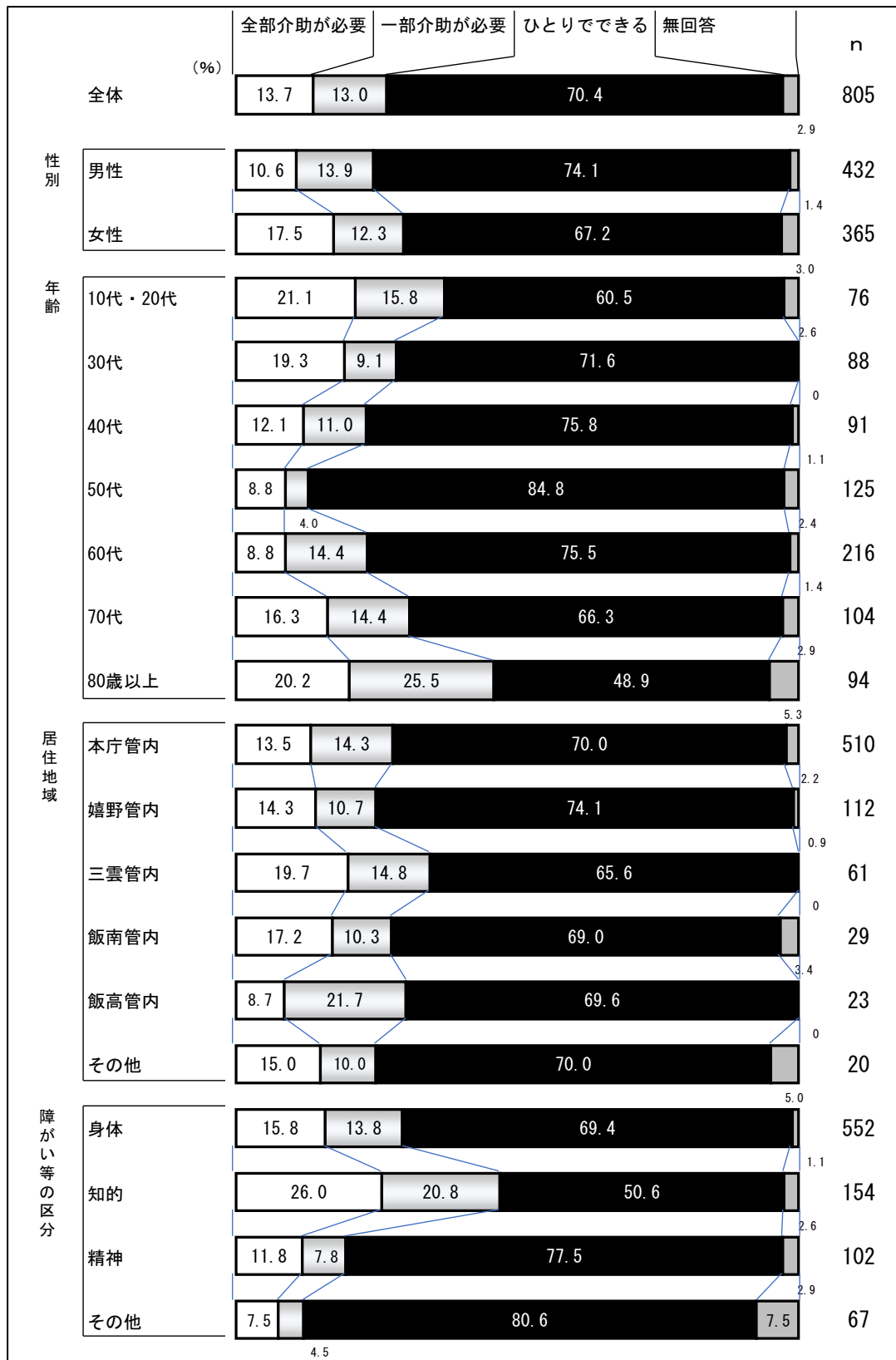
図表 介助の必要性（トイレ）



③入浴

入浴の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」が70.4%、「全部介助が必要」が13.7%、「一部介助が必要」が13.0%となっている。

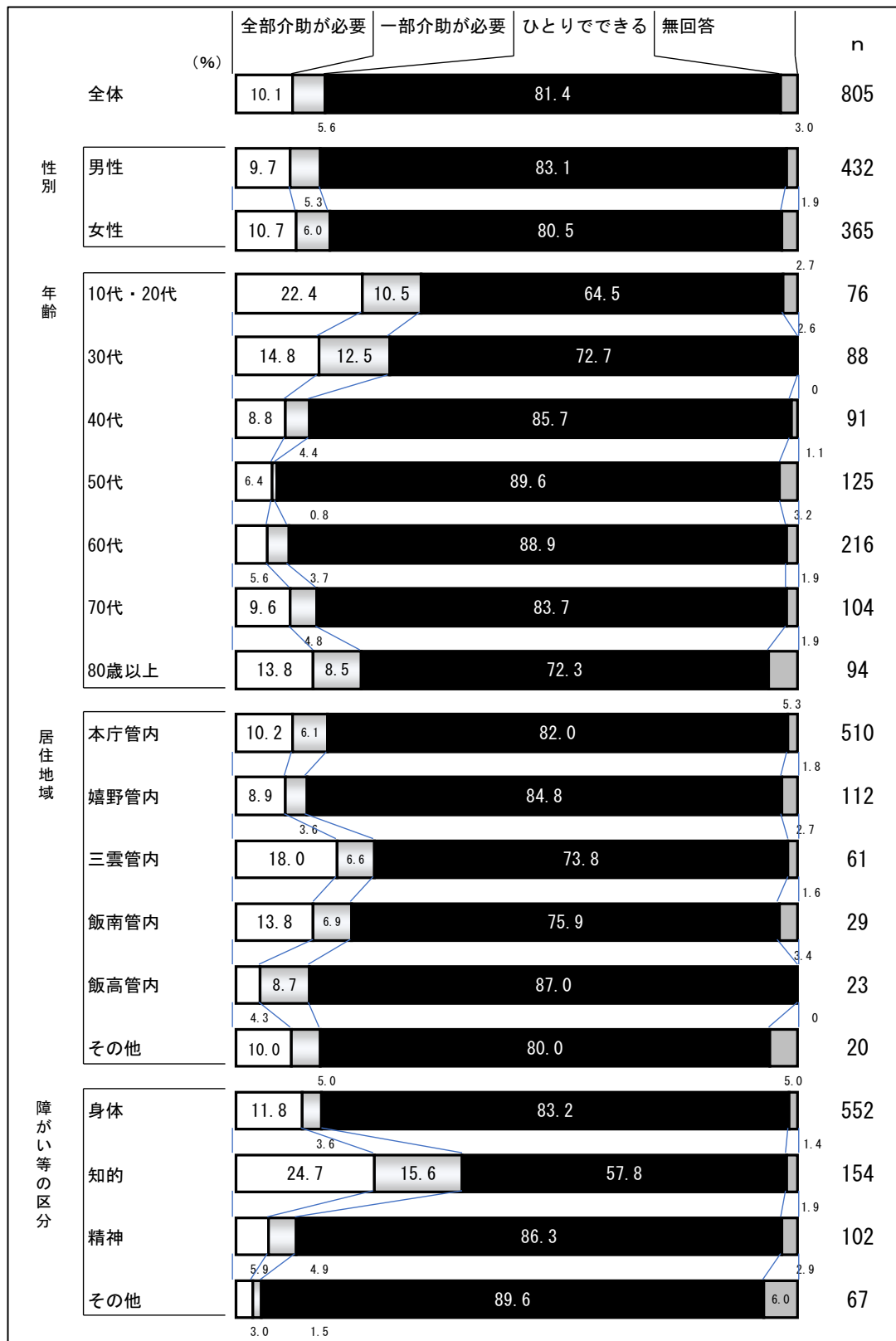
図表 介助の必要性（入浴）



④歯磨き

歯磨きの際の介助の必要性は、「ひとりでできる」が81.4%、「全部介助が必要」が10.1%、「一部介助が必要」が5.6%となっている。

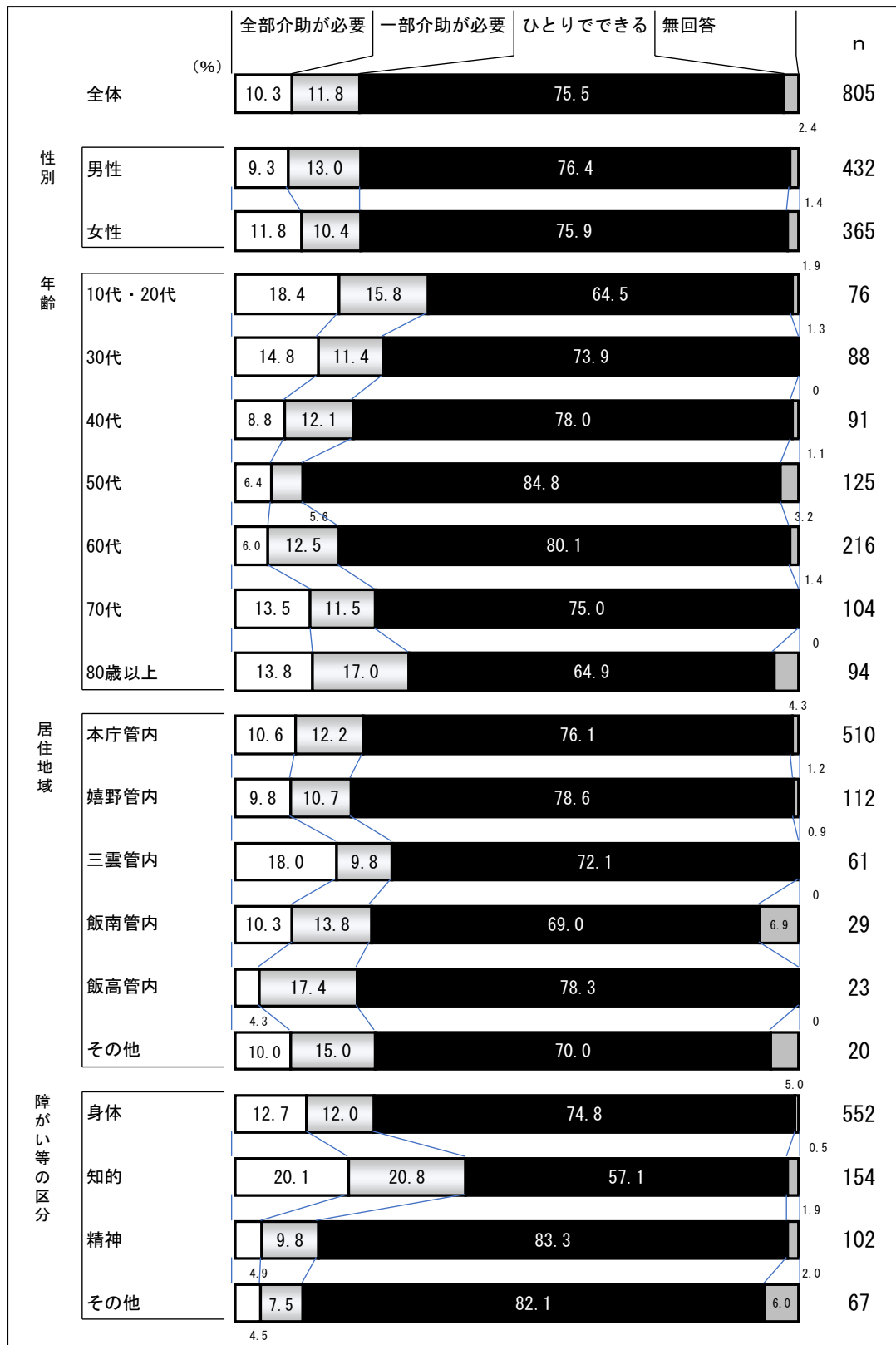
図表 介助の必要性（歯磨き）



⑤衣服の着脱

衣服の着脱の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」が 75.5%、「一部介助が必要」が 11.8%、「全部介助が必要」が 10.3%となっている。

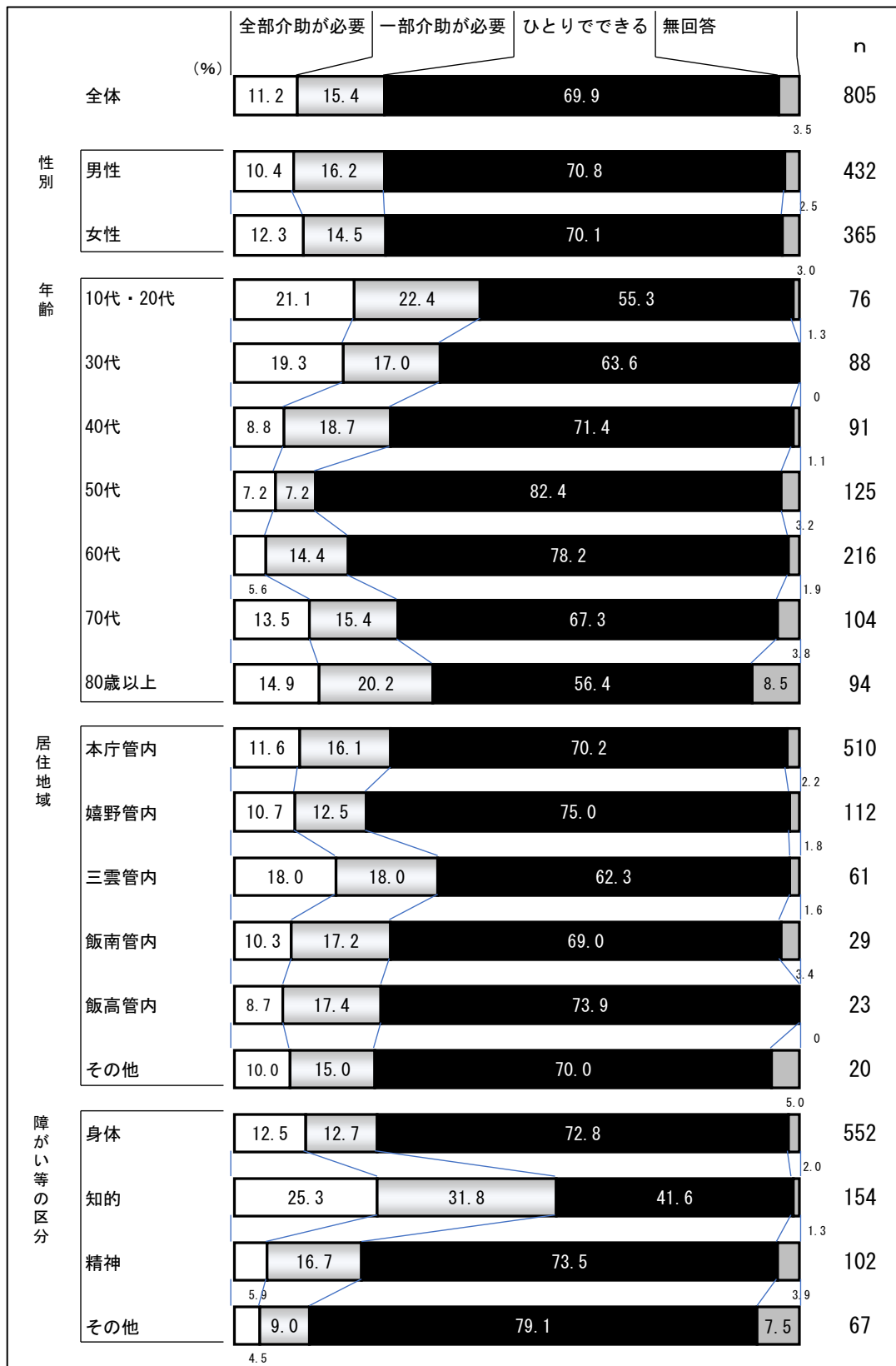
図表 介助の必要性（衣服の着脱）



⑥身だしなみ

身だしなみの介助の必要性は、「ひとりでできる」が 69.9%、「一部介助が必要」が 15.4%、「全部介助が必要」が 11.2%となっている。

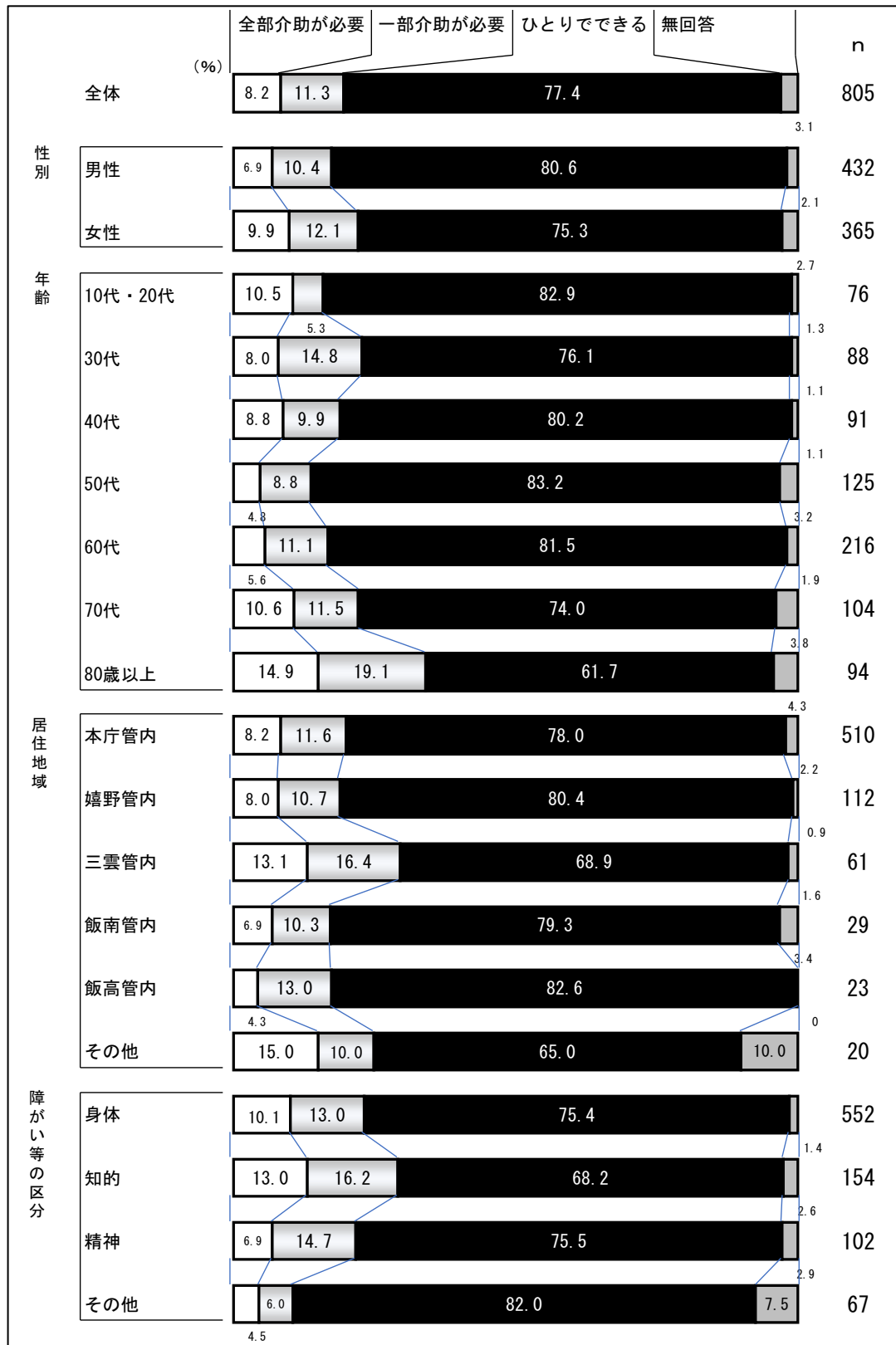
図表 介助の必要性（身だしなみ）



⑦家の中の移動

家の中の移動の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」(77.4%)、「一部介助が必要」(11.3%)、「全部介助が必要」(8.2%) となっている。

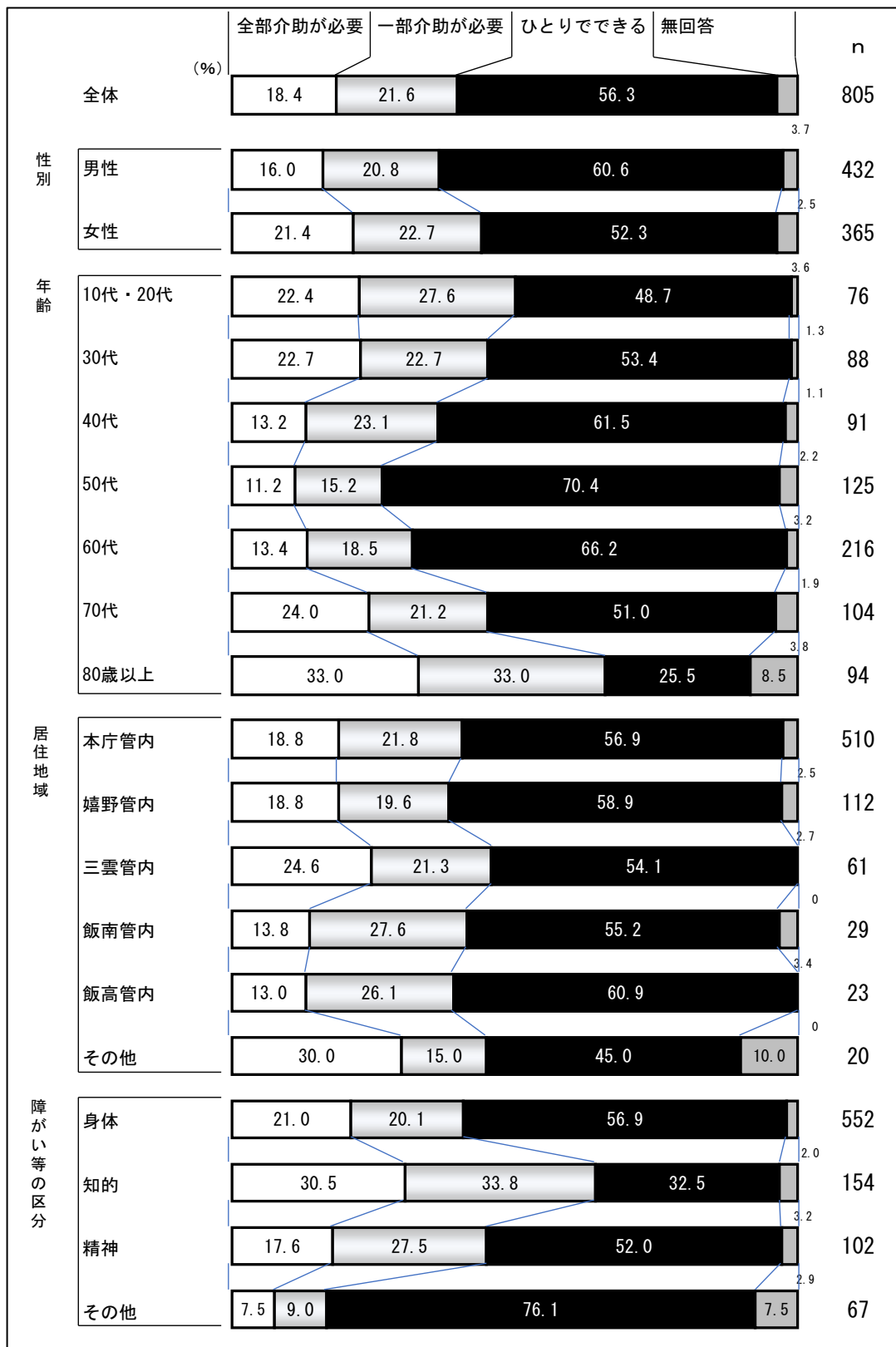
図表 介助の必要性（家の中の移動）



⑧外出

外出の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」(56.3%)、「一部介助が必要」(21.6%)、「全部介助が必要」(18.4%)となっている。

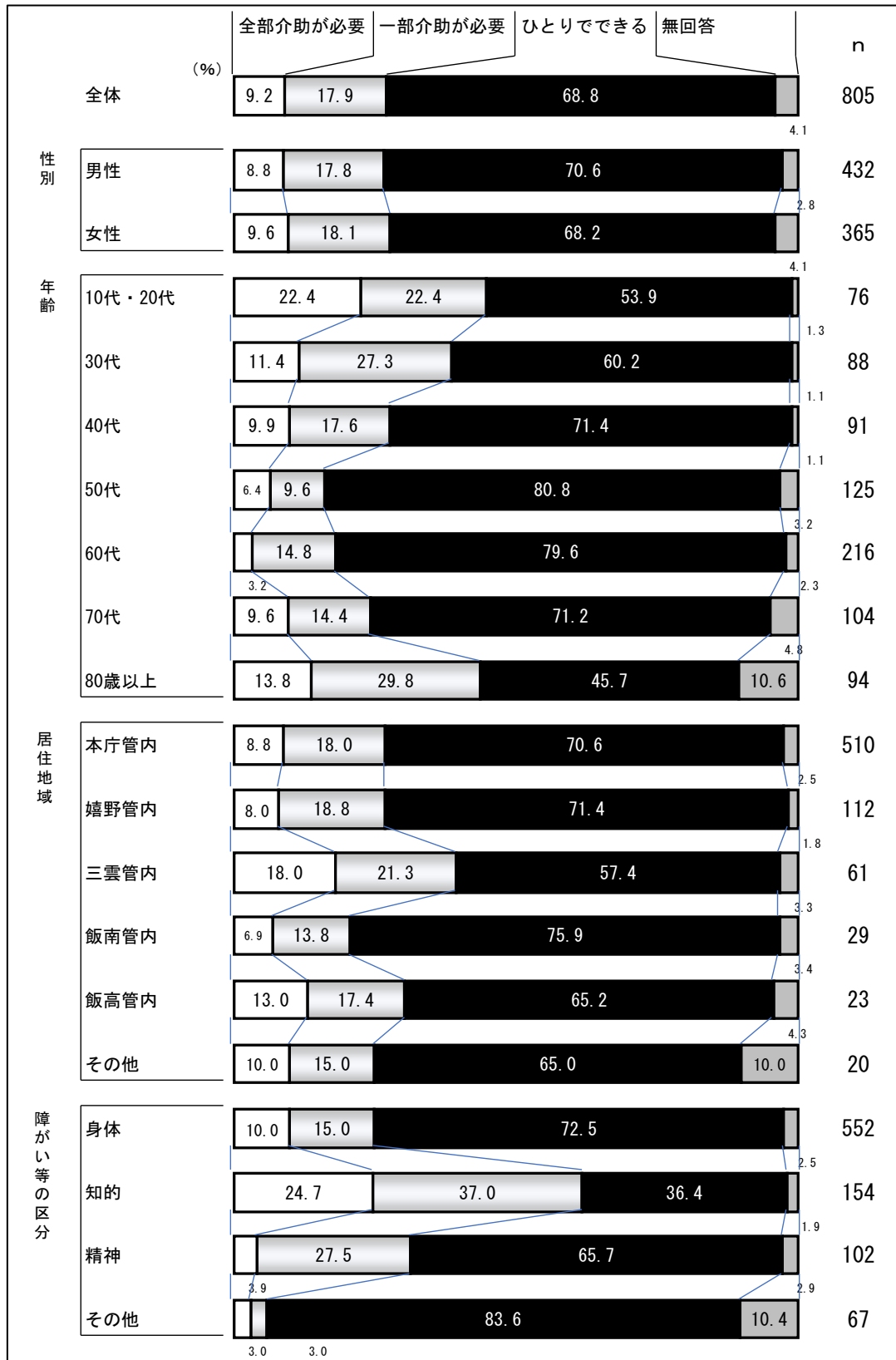
図表 介助の必要性（外出）



⑨家族以外の人との意思疎通

家族以外の人との意思疎通の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」(68.8%)、「一部介助が必要」(17.9%)、「全部介助が必要」(9.2%)となっている。

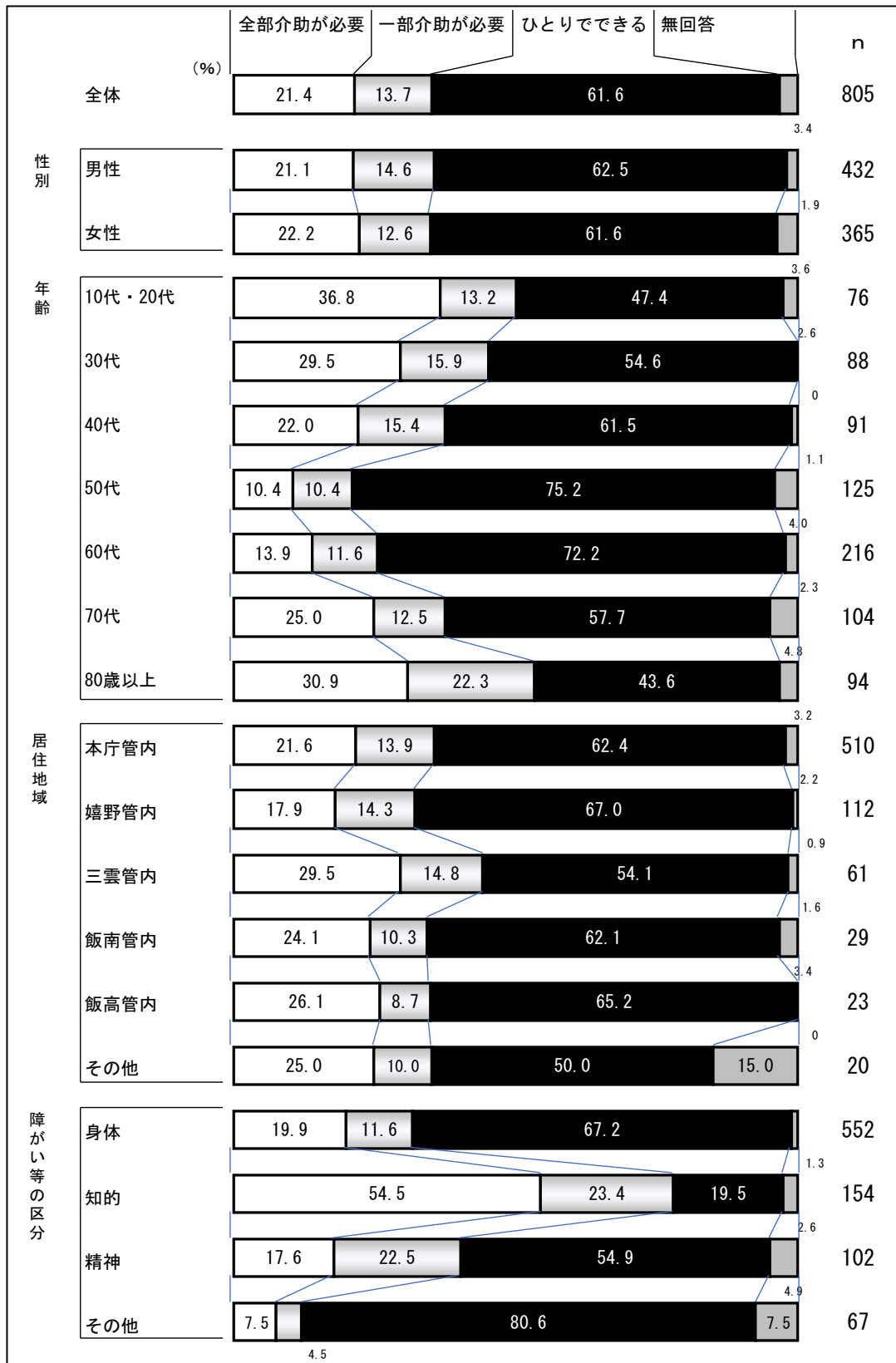
図表 介助の必要性（家族以外の人との意思疎通）



⑩お金の管理

お金の管理の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」(61.6%)、「全部介助が必要」(21.4%)、「一部介助が必要」(13.7%) となっている。

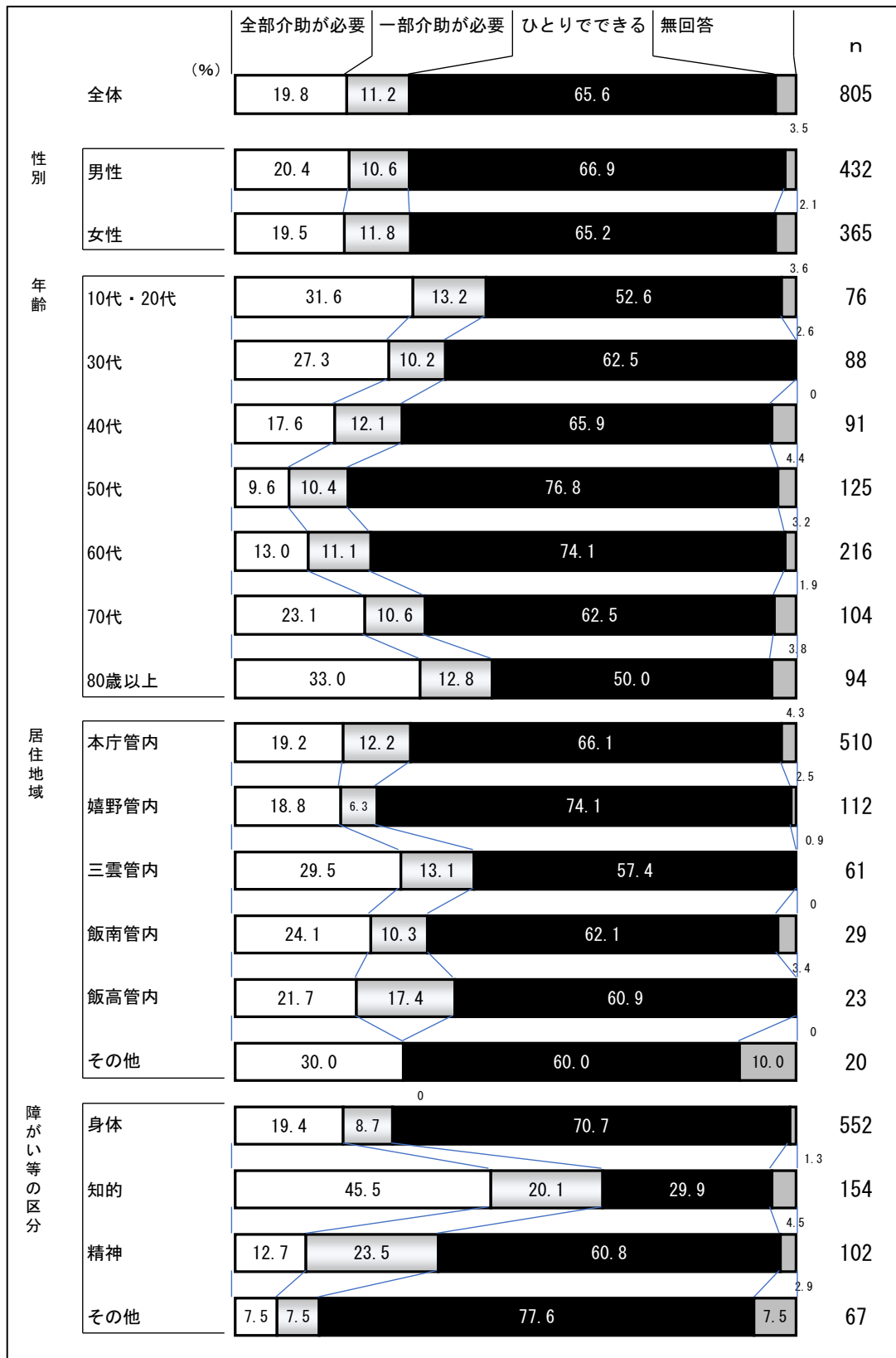
図表 介助の必要性（お金の管理）



⑪薬の管理

薬の管理の際の介助の必要性は、「ひとりでできる」(65.6%)、「全部介助が必要」(19.8%)、「一部介助が必要」(11.2%)となっている。

図表 介助の必要性（薬の管理）



(5) 主な介助者

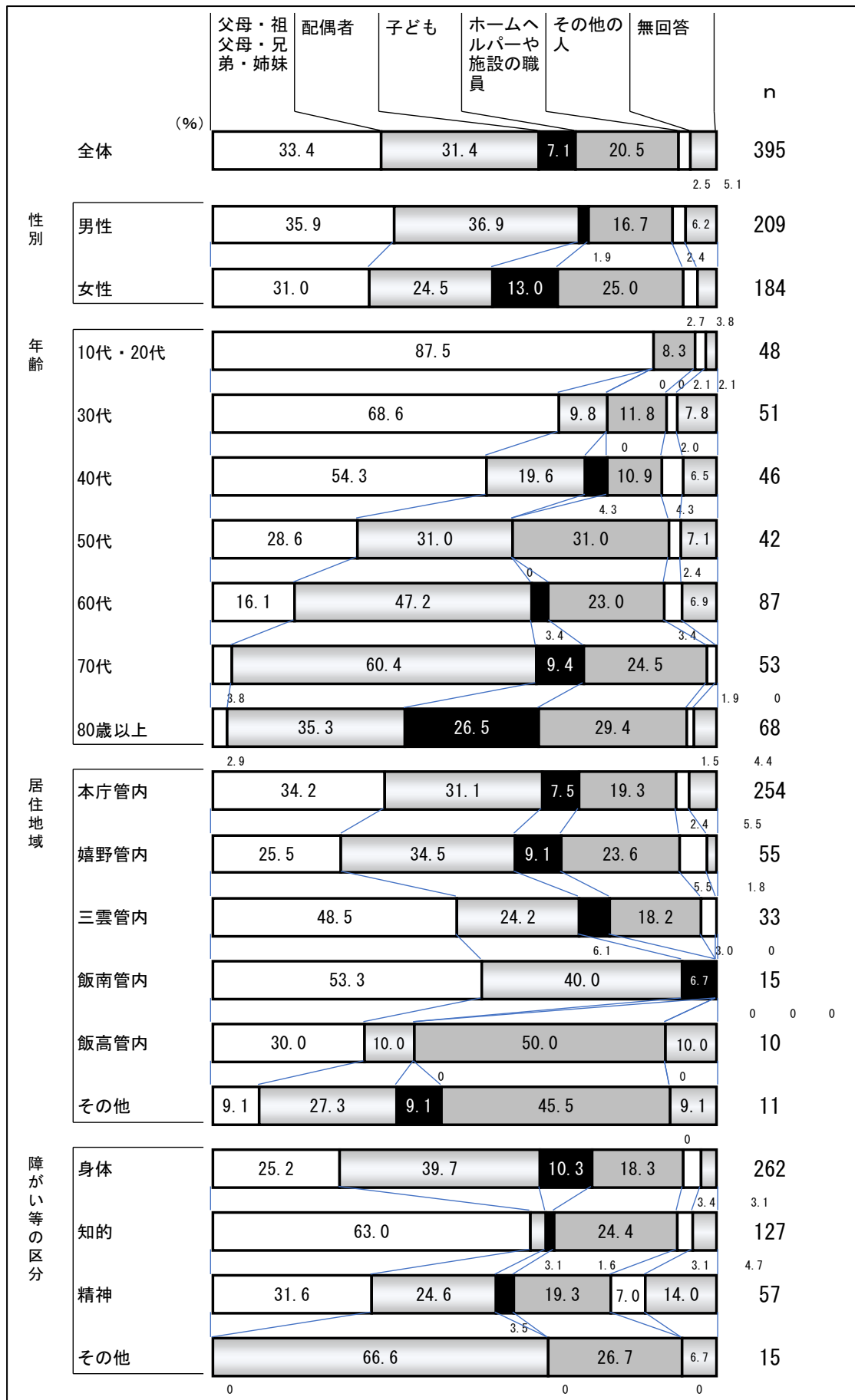
【問 5-1 は、問 5 で 1 つでも「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます】
問 5-1 あなたを主に介助してくれる方は誰ですか。(1 つに○)



- 「父母・祖父母・兄弟・姉妹」、「配偶者」がともに 3 割強を占める。

問 5 で 1 つでも「1」または「2」に○をつけた人に、主な介助者についてたずねたところ、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が 33.4%、「配偶者」が 31.4%、「ホームヘルパーや施設の職員」が 20.5%、「子ども」が 7.1%、「その他の人」が 2.5%となっている。

図表 主な介助者

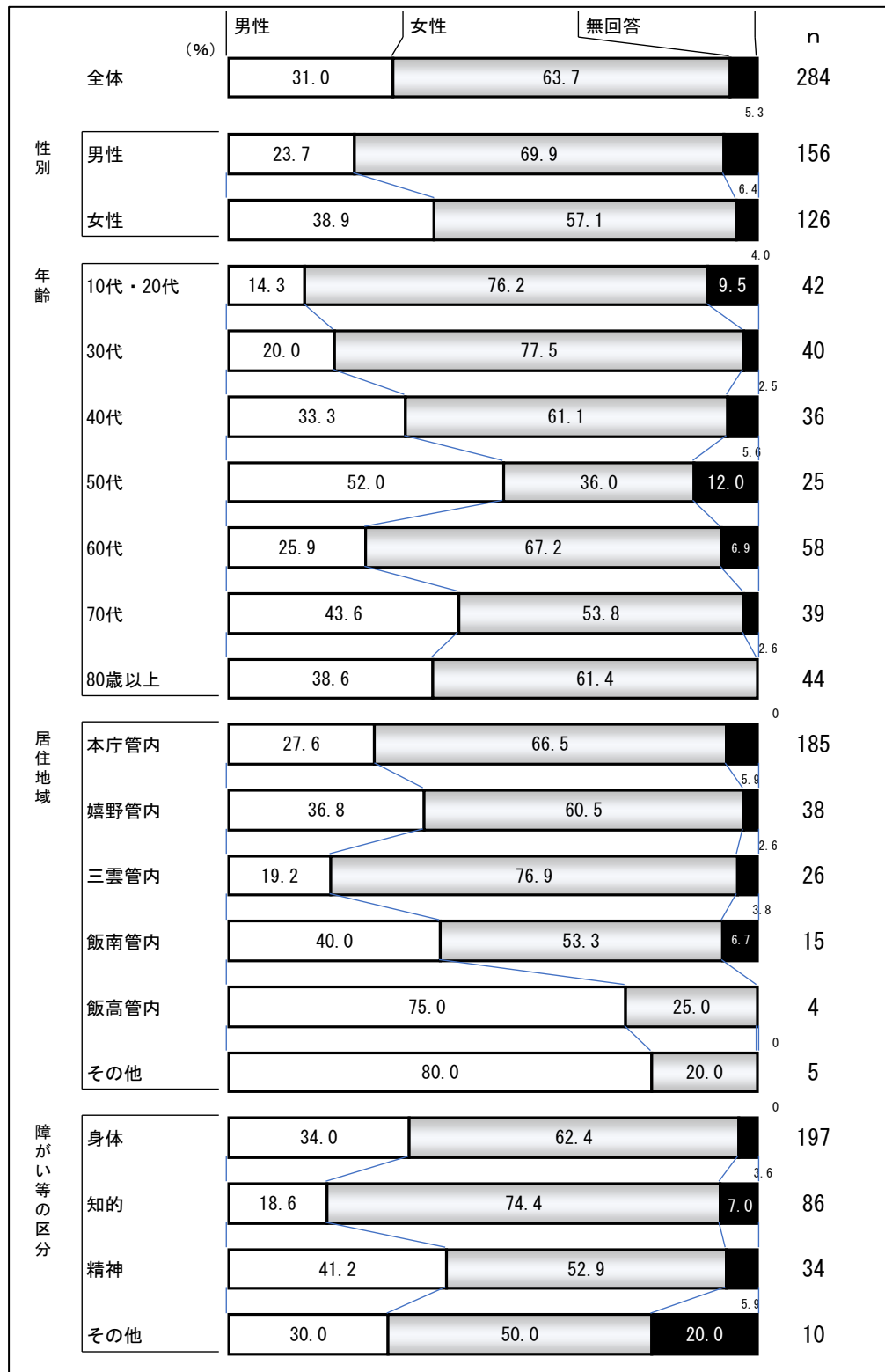


(6) 介助者の属性

【問 5-2 から問 5-5 は、問 5-1 で「1.」～「3.」に○をつけた方にうかがいます】
問 5-2 あなたを介助してくれる方の年齢、性別、健康状態、仕事をお答えください。
(①から④それぞれに○を1つ)

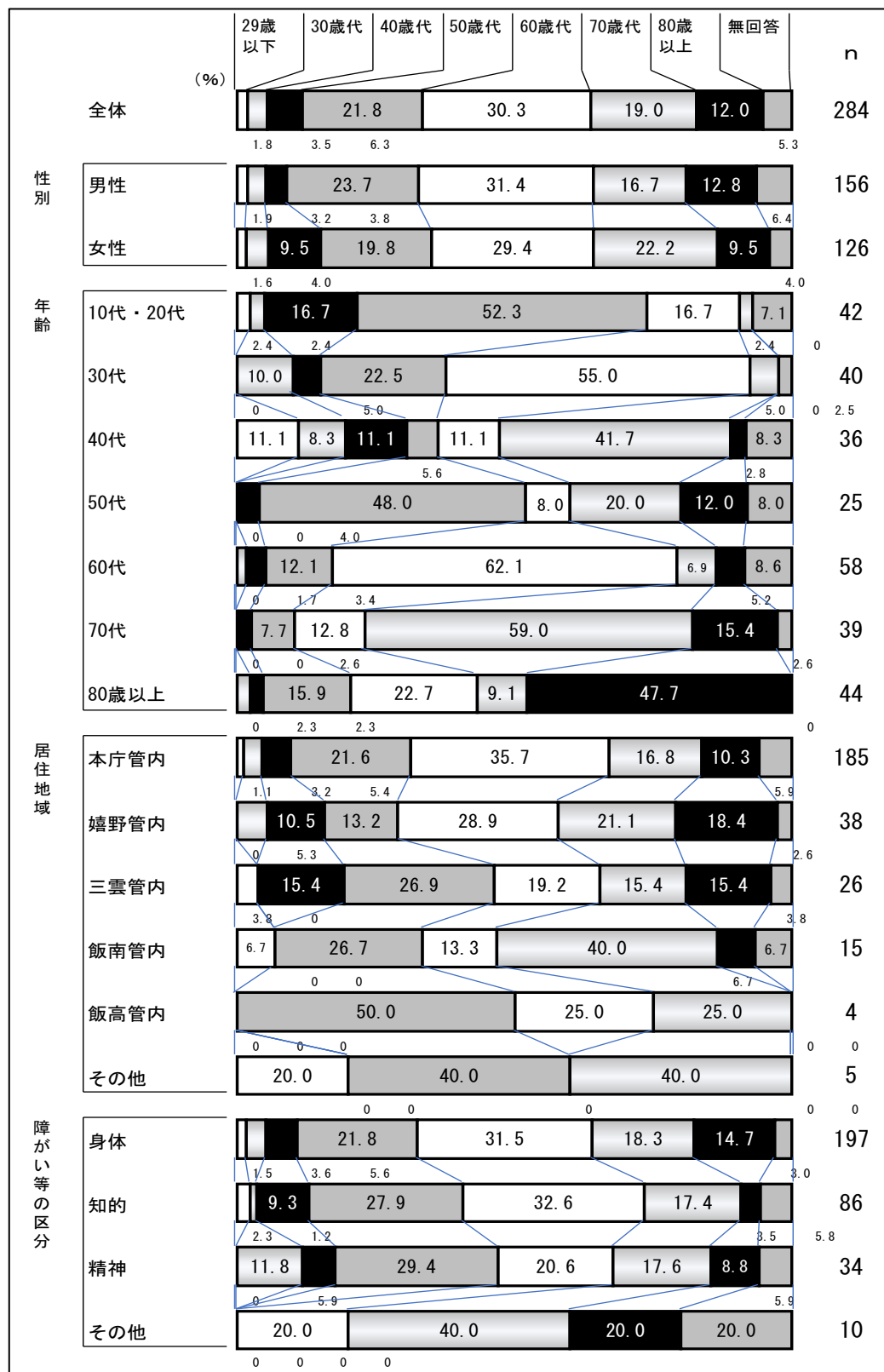
介助者の性別については、「女性」が 63.7%、「男性」が 31.0%となっている。

図表 介助者の性別



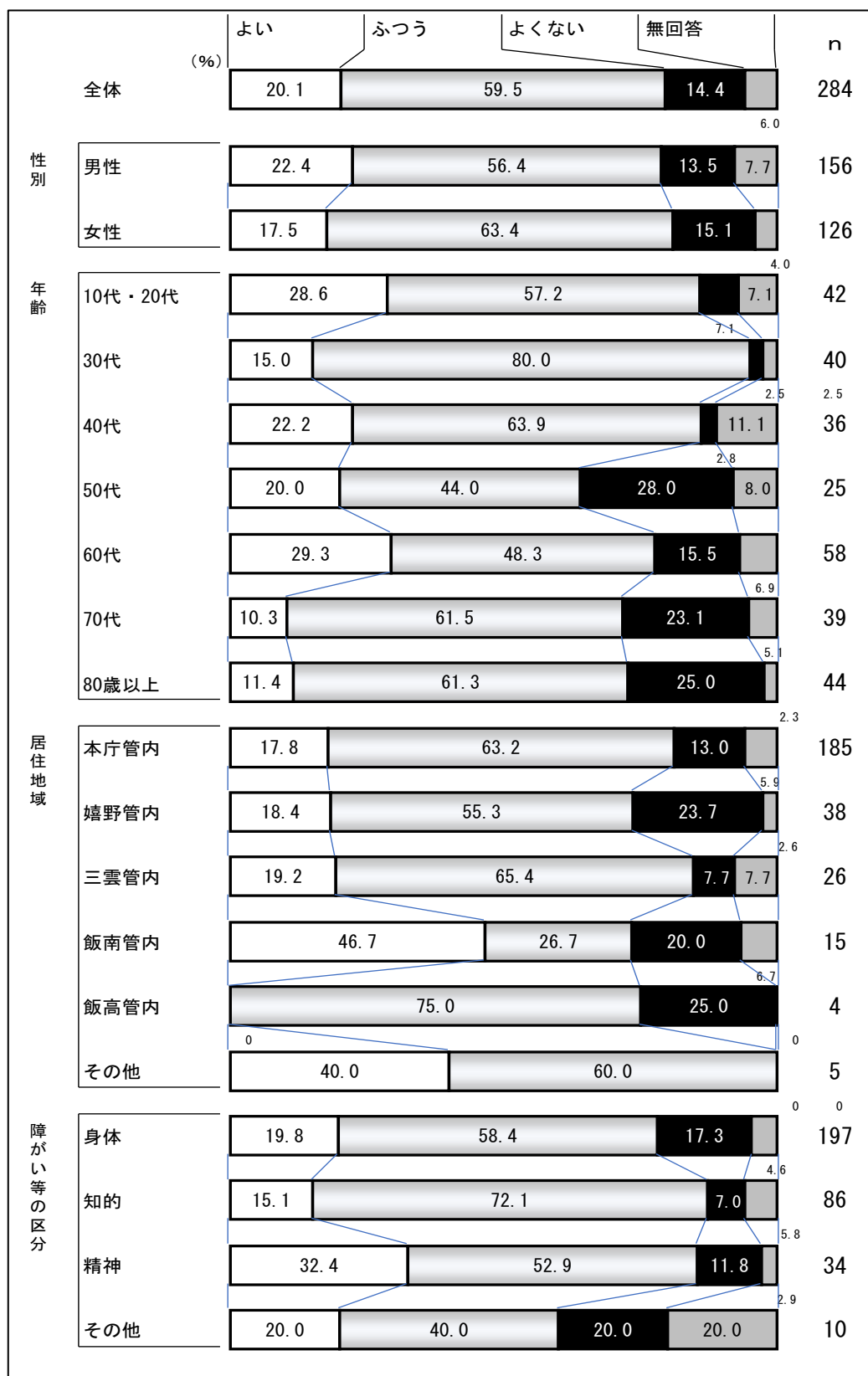
介助者の年齢については、「60歳代」が30.3%、「50歳代」が21.8%、「70歳代」が19.0%、「80歳以上」が12.0%、「40歳代」が6.3%、「30歳代」が3.5%、「29歳以下」が1.8%となっている。

図表 介助者の年齢



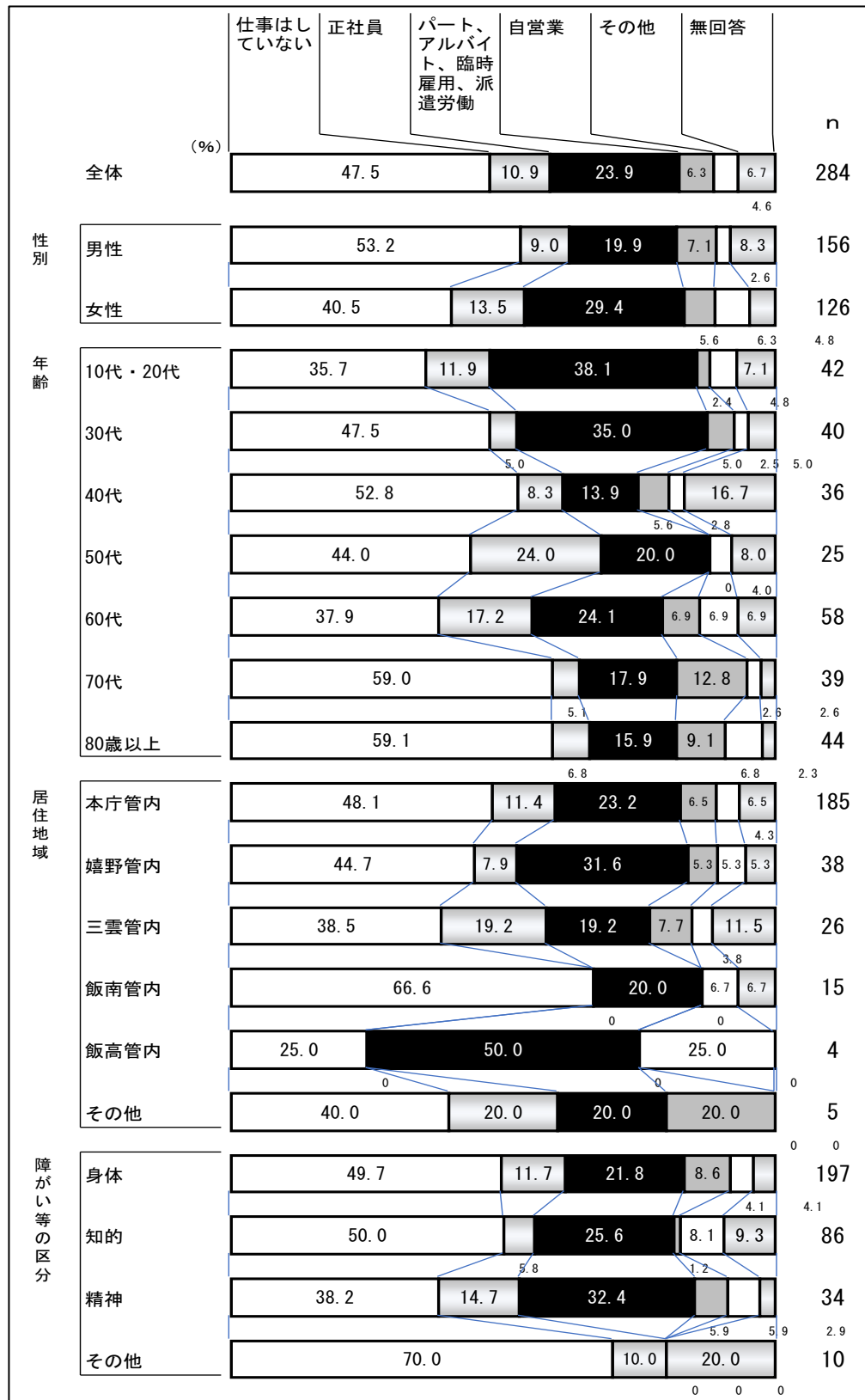
介助者の健康状態については、「ふつう」が59.5%、「よい」が20.1%、「よくない」が14.4%となっている。

図表 介助者の健康状態



介助者の仕事については、「仕事はしていない」が 47.5%、「パート、アルバイト、臨時雇用、派遣労働」が 23.9%、「正社員」が 10.9%、「自営業」が 6.3%となっている。

図表 介助者の仕事



(7) 主な介助者が介助できなくなった場合の対処

問 5-3 あなたを介助してくれる方が、万が一、介助できなくなった場合、どのようにされますか。(1つに○)

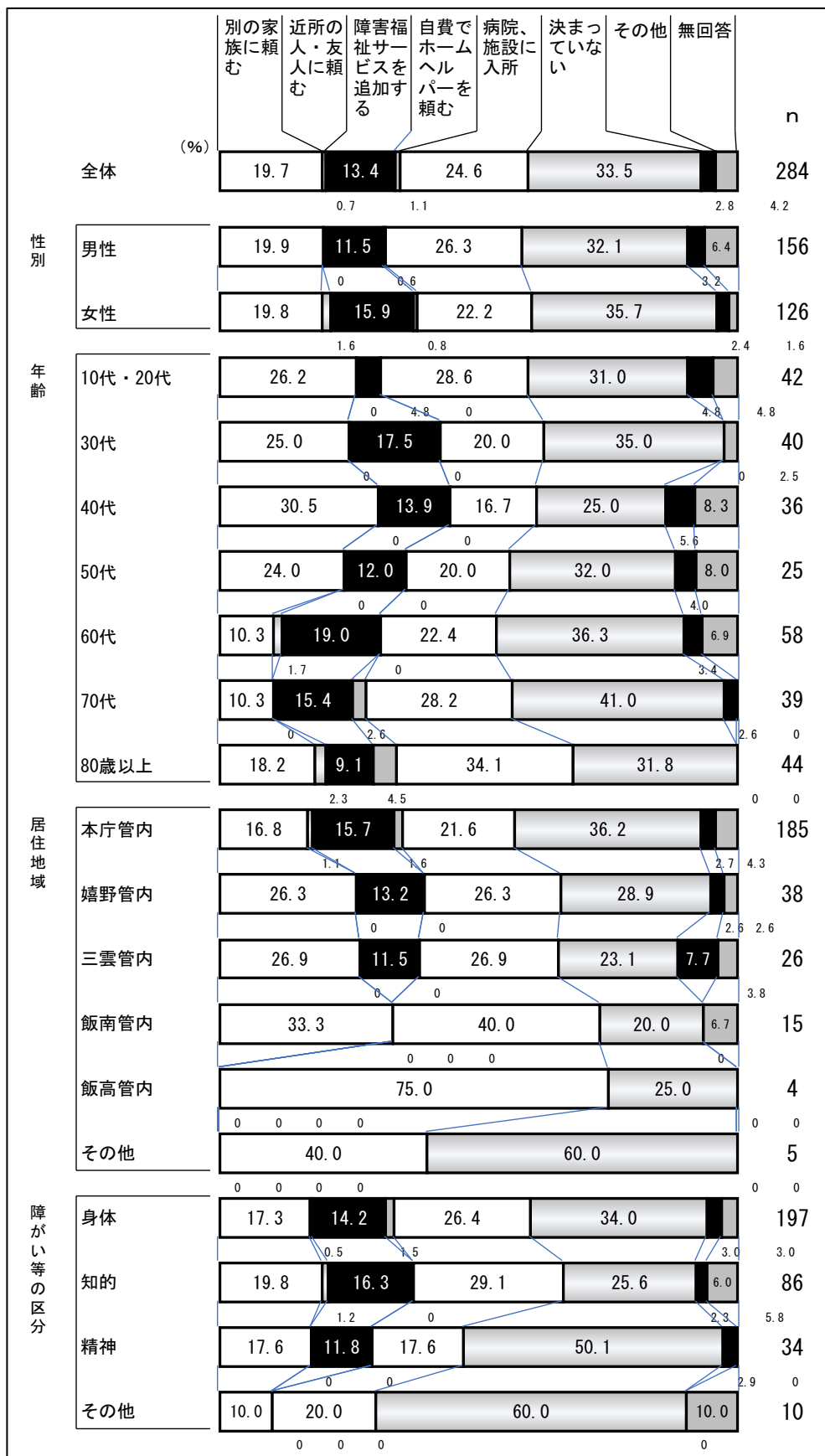


- 「決まっていない」が3割強、「病院、施設に入所」が第2割強を占める。

主な介助者が介助できなくなった場合の対処についてたずねたところ、「決まっていない」が 33.5%、「病院、施設に入所」が 24.6%、「別の家族に頼む」が 19.7%、「障害福祉サービスを追加する」が 13.4%、「自費でホームヘルパーを頼む」が 1.1%、「近所の人・友人に頼む」が 0.7%となっている。

障がい等の区分でみると、精神では「決まっていない」が5割強を占める。

図表 主な介助者が介助できなくなった場合の対処



(8) 介助する上で困っていること

【問 5-4 と問 5-5 は、主な介助者にうかがいます】

問 5-4 介助を行う上で困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【複数回答】



- 「精神的負担が大きい」が第 1 位。「特にない」は 25.4%を占める。

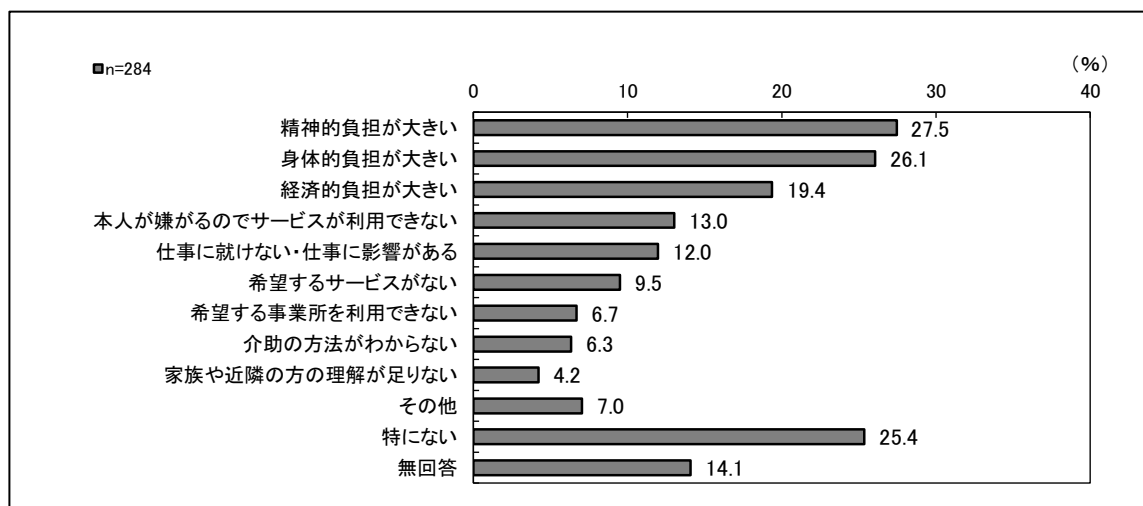
介助する上で困っていることについてたずねたところ、「精神的負担が大きい」(27.5%)が最も多く、次いで「身体的負担が大きい」(26.1%)、「経済的負担が大きい」(19.4%)、「本人が嫌がるのでサービスが利用できない」(13.0%)、「仕事に就けない・仕事に影響がある」(12.0%)、「希望するサービスがない」(9.5%)、「希望する事業所を利用できない」(6.7%)、「介助の方法がわからない」(6.3%)、「家族や近隣の方の理解が足りない」(4.2%)となっている。なお、「特にない」は 25.4%となっている。

性別でみると、男性では「精神的負担が大きい」が第 1 位となっているのに対し、女性では「身体的負担が大きい」が第 1 位となっている。

年齢でみると、30 代と 60 代では「身体的負担が大きい」、80 歳以上では「経済的負担が大きい」が第 1 位となっている。

障がい等の区分でみると、身体では「身体的負担が大きい」が第 1 位となっているのに対し、他ではいずれも「精神的負担が大きい」が第 1 位となっている。

図表 介助する上で困っていること（全体／複数回答）



図表 介助する上で困っていること（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		精神的負担が大きい 27.5	身体的負担が大きい 26.1	経済的負担が大きい 19.4
性別	男性	精神的負担が大きい 30.8	身体的負担が大きい 26.9	経済的負担が大きい 20.5
	女性	身体的負担が大きい 24.6	精神的負担が大きい 23.8	経済的負担が大きい 16.7
年齢	10代・20代	精神的負担が大きい 28.6	仕事に就けない・仕事に影響がある 26.2	身体的負担が大きい 23.8
	30代	身体的負担が大きい 32.5	精神的負担が大きい 30.0	本人が嫌がるのでサービスが利用できない／家族や近隣の方の理解が足りない 20.0
	40代	精神的負担が大きい 27.8	身体的負担が大きい／経済的負担が大きい 25.0	
	50代	精神的負担が大きい 28.0	身体的負担が大きい／経済的負担が大きい 24.0	
	60代	身体的負担が大きい 31.0	精神的負担が大きい／経済的負担が大きい 24.1	
	70代	精神的負担が大きい 35.9	身体的負担が大きい 23.1	経済的負担が大きい 20.5
	80歳以上	経済的負担が大きい 22.7	身体的負担が大きい／精神的負担が大きい 20.5	
居住地域	本庁管内	精神的負担が大きい 28.6	身体的負担が大きい 27.6	経済的負担が大きい 19.5
	嬉野管内	身体的負担が大きい 28.9	精神的負担が大きい 23.7	経済的負担が大きい 15.8
	三雲管内	本人が嫌がるのでサービスが利用できない／精神的負担が大きい 23.1		経済的負担が大きい 19.2
	飯南管内	身体的負担が大きい 33.3	精神的負担が大きい 26.7	仕事に就けない・仕事に影響がある／経済的負担が大きい 20.0
	飯高管内	本人が嫌がるのでサービスが利用できない／身体的負担が大きい／精神的負担が大きい／仕事に就けない・仕事に影響がある 25.0		
	その他	身体的負担が大きい／精神的負担が大きい／経済的負担が大きい／仕事に就けない・仕事に影響がある 20.0		
障がい等の区分	身体	身体的負担が大きい 32.0	精神的負担が大きい 27.9	経済的負担が大きい 21.8
	知的	精神的負担が大きい 30.2	身体的負担が大きい 25.6	仕事に就けない・仕事に影響がある 16.3
	精神	精神的負担が大きい 41.2	経済的負担が大きい 26.5	身体的負担が大きい 17.6
	その他	精神的負担が大きい 30.0	経済的負担が大きい／仕事に就けない・仕事に影響がある 20.0	

(9) 在宅で介助を続けるために必要な支援

問 5-5 今後も在宅で介助を続けるためには、介助者に対しどのような支援が必要と思われますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

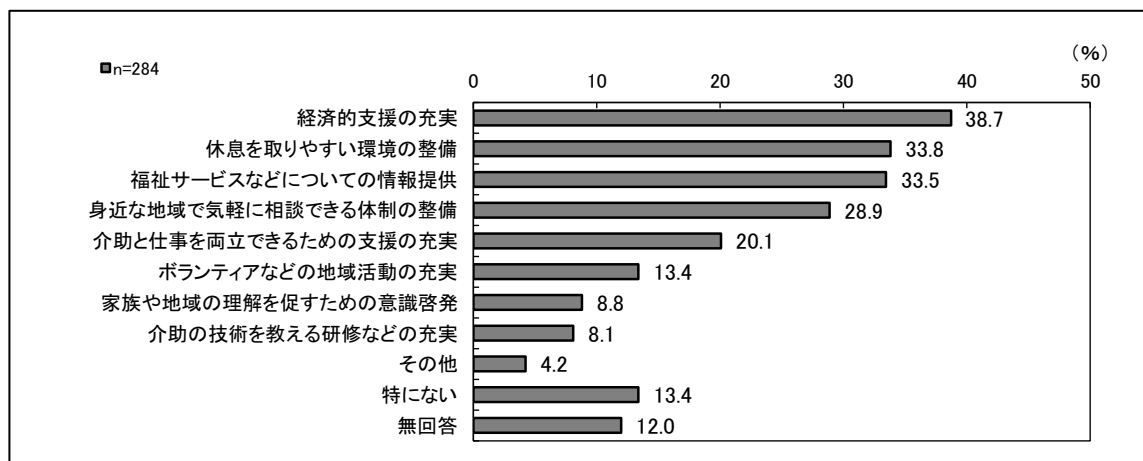
- 「経済的支援の充実」が第1位。「休息を取りやすい環境の整備」、「福祉サービスなどについての情報提供」などが続く。

在宅で介助を続けるために必要な支援についてたずねたところ、「経済的支援の充実」(38.7%)が最も多く、次いで「休息を取りやすい環境の整備」(33.8%)、「福祉サービスなどについての情報提供」(33.5%)、「身近な地域で気軽に相談できる体制の整備」(28.9%)、「介助と仕事を両立できるための支援の充実」(20.1%)、「ボランティアなどの地域活動の充実」(13.4%)、「家族や地域の理解を促すための意識啓発」(8.8%)、「介助の技術を教える研修などの充実」(8.1%)となっている。なお、「特にない」は13.4%となっている。

年齢でみると、30代以下では「福祉サービスなどについての情報提供」が第1位となっているのに対し、40代以上では「経済的支援の充実」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、身体とその他では「経済的支援の充実」が第1位となっているのに対し、知的では「休息を取りやすい環境の整備」、精神では「福祉サービスなどについての情報提供」が第1位となっている。

図表 在宅で介助を続けるために必要な支援（全体／複数回答）



図表 在宅で介護を続けるために必要な支援（全体・属性別―上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		経済的支援の充実 38.7	休息を取りやすい環境の整備 33.8	福祉サービスなどについての情報提供 33.5
性別	男性	経済的支援の充実 37.2	休息を取りやすい環境の整備 35.9	福祉サービスなどについての情報提供 32.1
	女性	経済的支援の充実 39.7	福祉サービスなどについての情報提供 34.9	休息を取りやすい環境の整備 31.7
年齢	10代・20代	福祉サービスなどについての情報提供 45.2	休息を取りやすい環境の整備 35.7	介助と仕事を両立できるための支援の充実 28.6
	30代	福祉サービスなどについての情報提供 40.0	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備／休息を取りやすい環境の整備／経済的支援の充実 37.5	
	40代	経済的支援の充実 47.2	福祉サービスなどについての情報提供／休息を取りやすい環境の整備 38.9	
	50代	経済的支援の充実 44.0	休息を取りやすい環境の整備 36.0	福祉サービスなどについての情報提供 32.0
	60代	経済的支援の充実 46.6	休息を取りやすい環境の整備 31.0	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備 27.6
	70代	経済的支援の充実 35.9	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備 30.8	福祉サービスなどについての情報提供 28.2
	80歳以上	経済的支援の充実 36.4	休息を取りやすい環境の整備 31.8	福祉サービスなどについての情報提供 27.3
居住地域	本庁管内	経済的支援の充実 36.8	福祉サービスなどについての情報提供 33.0	休息を取りやすい環境の整備 31.4
	嬉野管内	経済的支援の充実 47.4	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備／休息を取りやすい環境の整備 39.5	
	三雲管内	福祉サービスなどについての情報提供／休息を取りやすい環境の整備 34.6	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備／経済的支援の充実 23.1	
	飯南管内	福祉サービスなどについての情報提供 53.3	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備／休息を取りやすい環境の整備／経済的支援の充実 46.7	
	飯高管内	経済的支援の充実 75.0	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備 50.0	休息を取りやすい環境の整備／介助と仕事を両立できるための支援の充実 25.0
	その他	休息を取りやすい環境の整備／介助と仕事を両立できるための支援の充実／経済的支援の充実 40.0		
障がい等の区分	身体	経済的支援の充実 43.7	休息を取りやすい環境の整備 37.1	福祉サービスなどについての情報提供 32.0
	知的	休息を取りやすい環境の整備 39.5	福祉サービスなどについての情報提供 32.6	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備 30.2
	精神	福祉サービスなどについての情報提供 44.1	経済的支援の充実 41.2	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備 26.5
	その他	経済的支援の充実 50.0	福祉サービスなどについての情報提供 30.0	身近な地域で気軽に相談できる体制の整備／休息を取りやすい環境の整備／介助と仕事を両立できるための支援の充実 10.0

2 住まいや暮らしについて

(1) 現在の暮らし方

問6 あなたは現在どのように暮らしていますか。(1つに○)



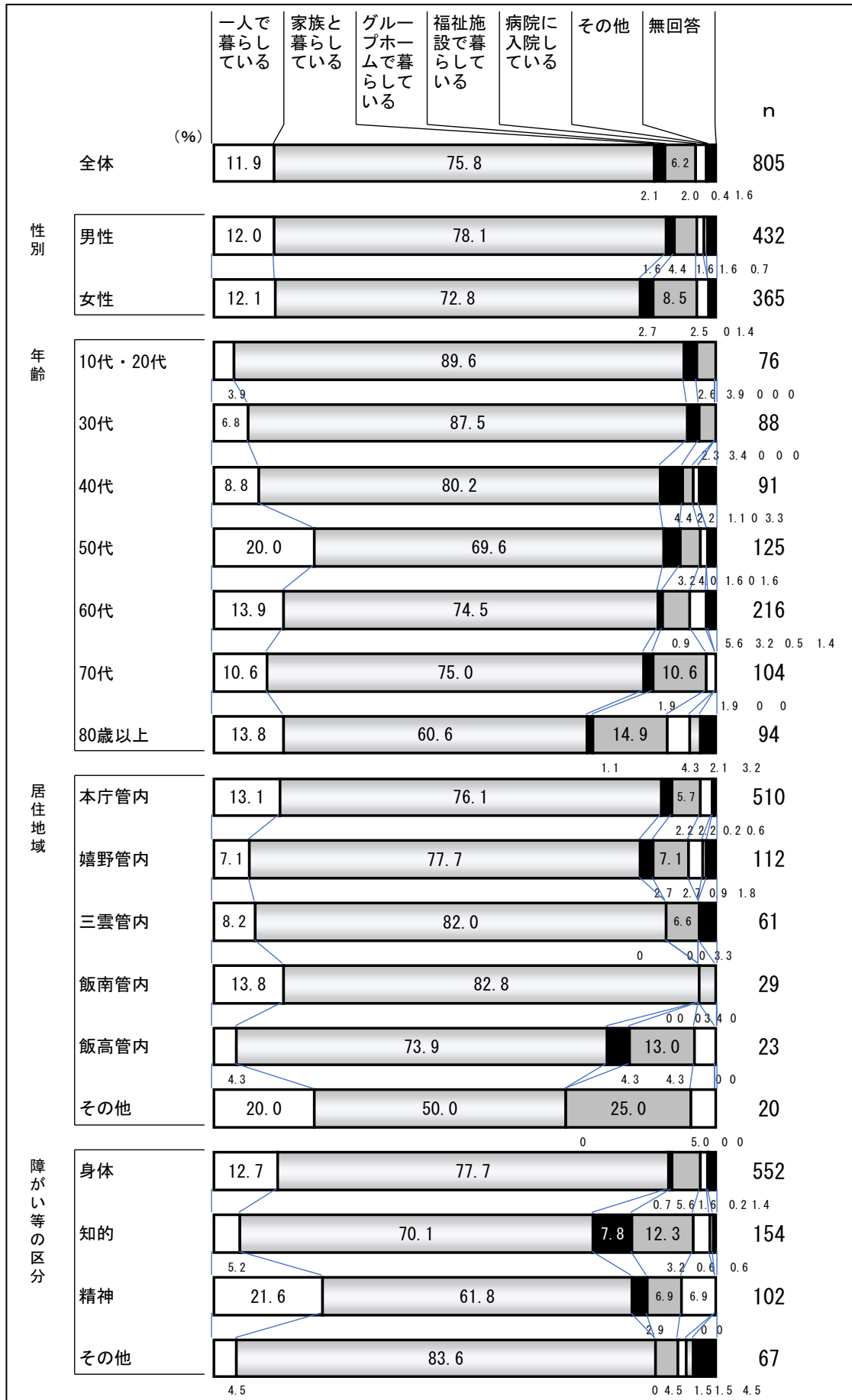
- 「家族と暮らしている」が8割弱、「一人で暮らしている」が1割強を占める。

現在の暮らし方については、「家族と暮らしている」が75.8%、「一人で暮らしている」が11.9%、「福祉施設で暮らしている」が6.2%、「グループホームで暮らしている」が2.1%、「病院に入院している」が2.0%となっている。

年齢でみると、50代では「一人で暮らしている」が20.0%を占めており、他の年齢層よりも高い割合を占めている。

障がい等の区分でみると、精神では「一人で暮らしている」が21.6%となっている。

図表 現在の暮らし方



(2) 主な収入源

問7 あなたの主な収入は何ですか。(1つに○)



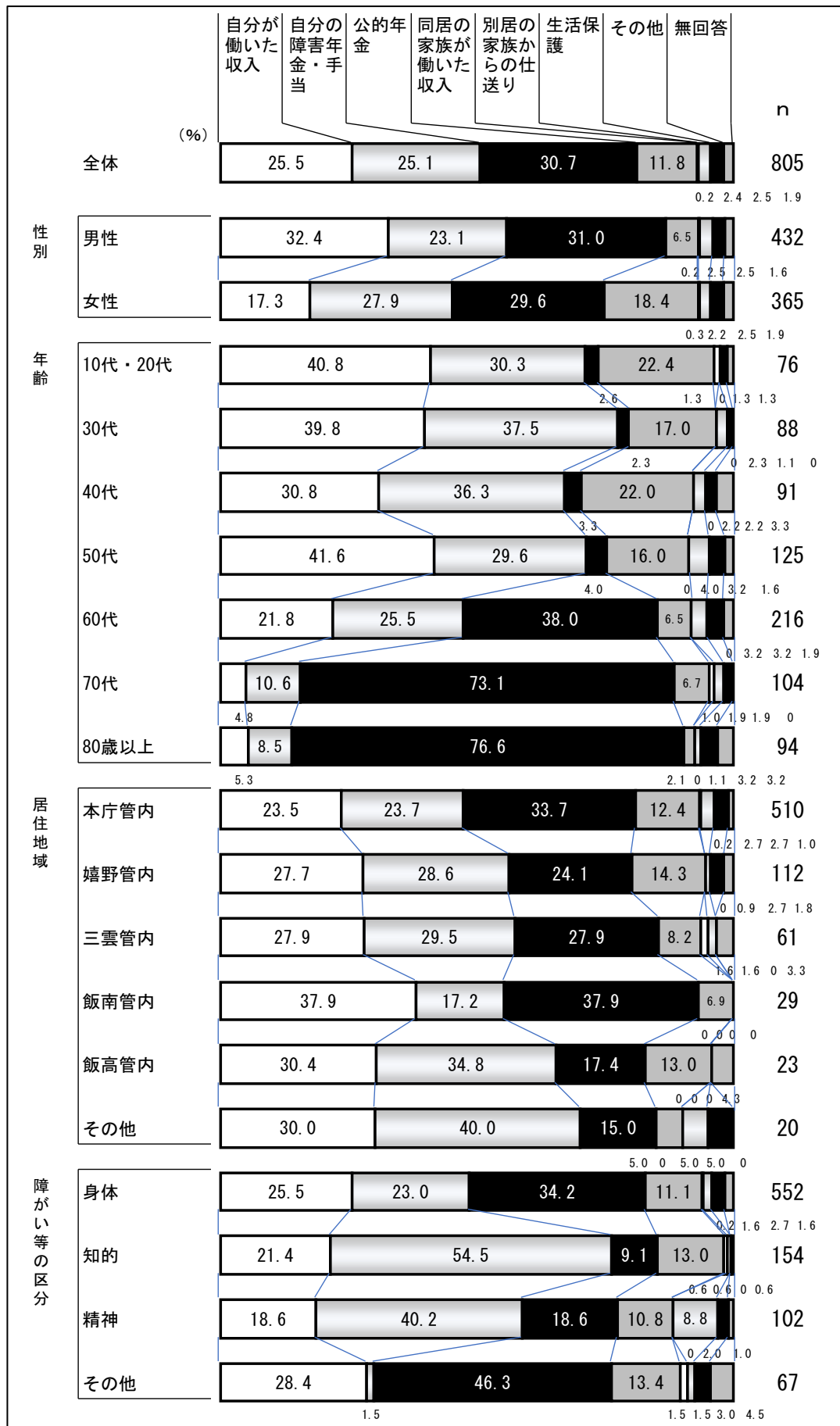
- 「公的年金」が3割強、「自分が働いた収入」と「自分の障害年金・手当」がともに3割弱を占める。

主な収入源についてたずねたところ、「公的年金」が30.7%、「自分が働いた収入」が25.5%、「自分の障害年金・手当」が25.1%、「同居の家族が働いた収入」が11.8%、「生活保護」が2.4%、「別居の家族からの仕送り」が0.2%となっている。

50代以下では「自分が働いた収入」が3割台から4割台を占めるのに対し、70代以上では「公的年金」がいずれも7割台を占めている。

居住地域でみると、飯南管内では「自分が働いた収入」が37.9%と、他の年齢層よりも高くなっている。

図表 主な収入源



(3) 希望する暮らし方

問8 あなたは今後（おおむね5年後）、どのような暮らし方を望んでいますか。（1つに○）



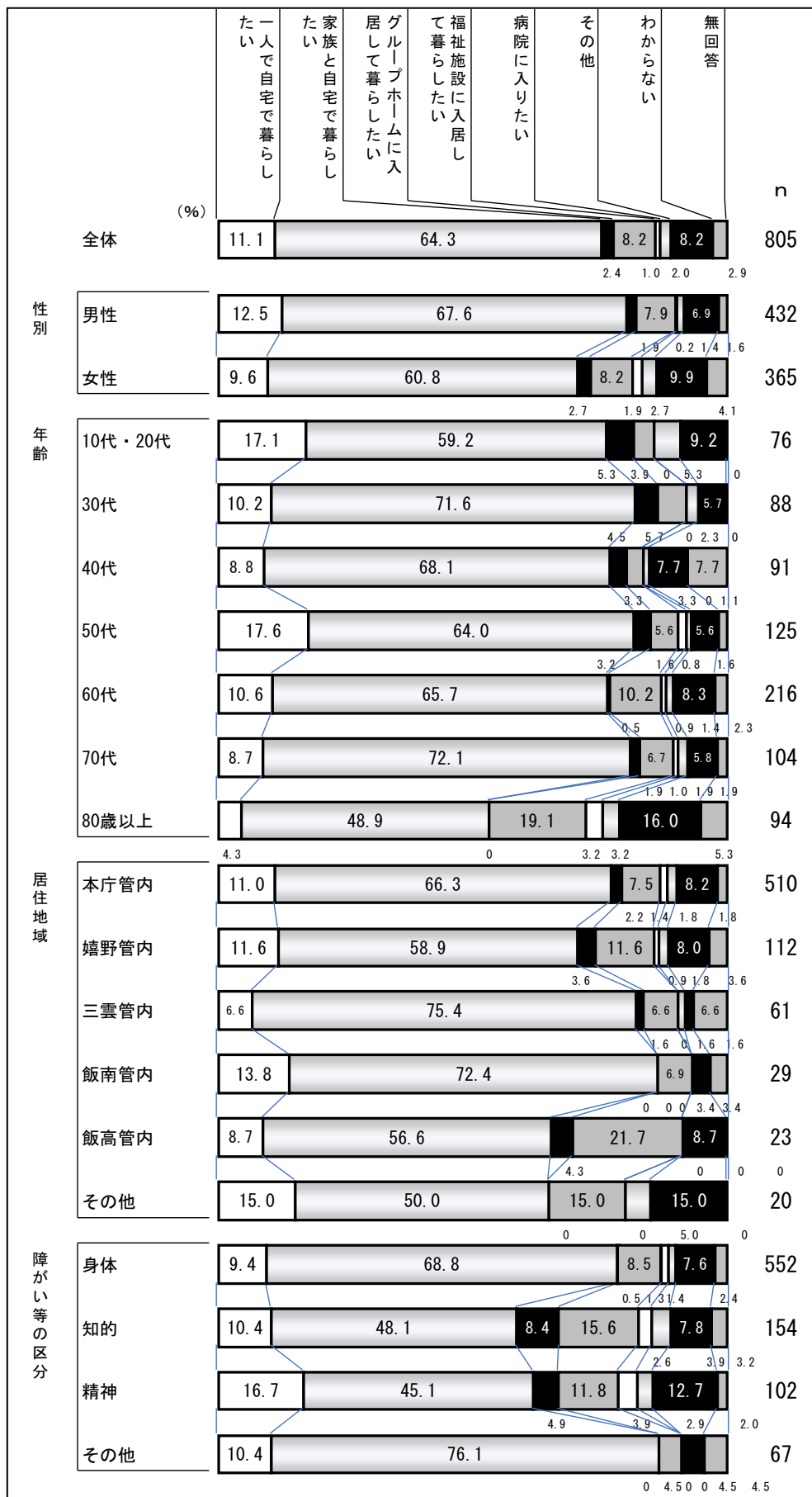
- 「家族と自宅で暮らしたい」が6割強、「一人で自宅で暮らしたい」が1割強を占める。

希望する暮らし方については、「家族と自宅で暮らしたい」が64.3%、「一人で自宅で暮らしたい」が11.1%、「福祉施設に入居して暮らしたい」が8.2%、「グループホームに入居して暮らしたい」が2.4%、「病院に入りたい」が1.0%となっている。

年齢で見ると、80歳以上では「グループホームに入居して暮らしたい」が2割弱を占めている。

居住地域で見ると、飯高管内では「グループホームに入居して暮らしたい」が2割強を占めている。

図表 希望する暮らし方



(4) 地域で生活するために必要な支援

問9 あなたが地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

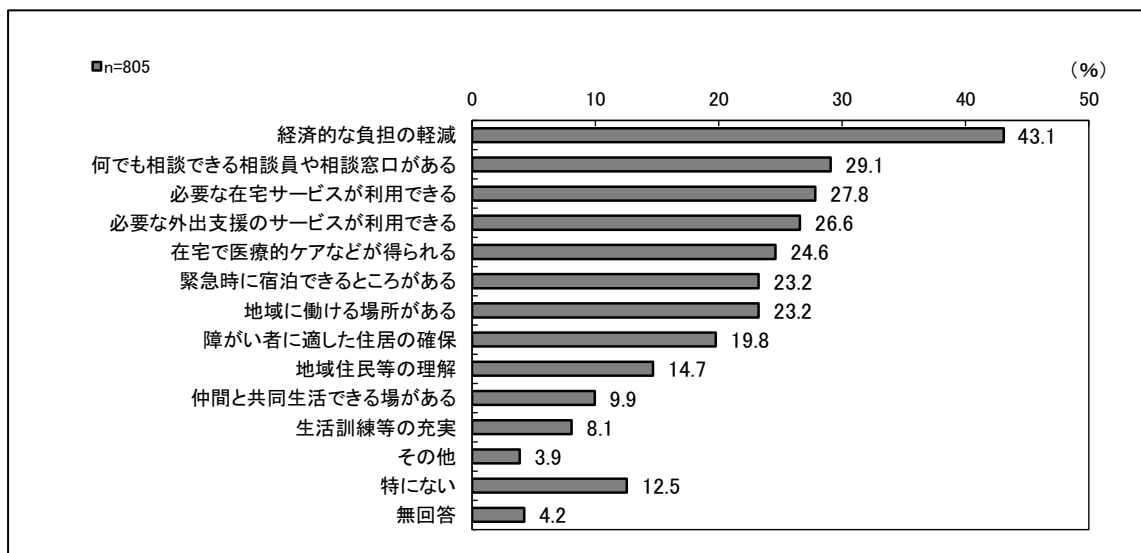
- 「経済的な負担の軽減」が第1位。「何でも相談できる相談員や相談窓口がある」、「必要な在宅サービスが利用できる」などが続く。

地域で生活するために必要な支援についてたずねたところ、「経済的な負担の軽減」(43.1%)が最も多く、次いで「何でも相談できる相談員や相談窓口がある」(29.1%)、「必要な在宅サービスが利用できる」(27.8%)、「必要な外出支援のサービスが利用できる」(26.6%)、「在宅で医療的ケアなどが得られる」(24.6%)、「緊急時に宿泊できるところがある」・「地域に働ける場所がある」(同率 23.2%)、「障がい者に適した住居の確保」(19.8%)、「地域住民等の理解」(14.7%)、「仲間と共同生活できる場がある」(9.9%)、「生活訓練等の充実」(8.1%)となっている。なお、「特にない」は12.5%となっている。

年齢でみると、10代・20代では「地域に働ける場所がある」、70代では「必要な在宅サービスが利用できる」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、知的では「緊急時に宿泊できるところがある」が第1位となっている。

図表 地域で生活するために必要な支援（全体／複数回答）



図表 地域で生活するために必要な支援（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		経済的な負担の軽減 43.1	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 29.1	必要な在宅サービスが利 用できる 27.8
性別	男性	経済的な負担の軽減 45.8	必要な在宅サービスが利 用できる 27.5	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 27.3
	女性	経済的な負担の軽減 38.9	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 31.0	必要な外出支援のサービ スが利用できる 28.5
年齢	10代・20代	地域に働ける場所がある 40.8	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 39.5	経済的な負担の軽減 36.8
	30代	経済的な負担の軽減 52.3	地域に働ける場所がある／何 でも相談できる相談員 や相談窓口がある 42.0	
	40代	経済的な負担の軽減 53.8	地域に働ける場所がある 42.9	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 33.0
	50代	経済的な負担の軽減 44.8	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 29.6	必要な在宅サービスが利 用できる／地域に働ける 場所がある 28.0
	60代	経済的な負担の軽減 45.8	必要な外出支援のサービ スが利用できる 27.3	必要な在宅サービスが利 用できる 24.5
	70代	必要な在宅サービスが利 用できる 35.6	在宅で医療的ケアなどが 得られる 34.6	必要な外出支援のサービ スが利用できる／経済的 な負担の軽減 33.7
	80歳以上	在宅で医療的ケアなどが 利用できる 35.1	在宅で医療的ケアなどが 得られる／必要な在宅サ ービスが利用できる 31.9	緊急時に宿泊できると ころがある 31.9
居住地域	本庁管内	経済的な負担の軽減 44.7	必要な在宅サービスが利 用できる 30.0	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 28.8
	嬉野管内	経済的な負担の軽減 43.8	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 35.7	在宅で医療的ケアなどが 得られる 26.8
	三雲管内	経済的な負担の軽減 37.7	必要な外出支援のサービ スが利用できる 31.1	在宅で医療的ケアなどが 得られる／必要な在宅サ ービスが利用できる／何 でも相談できる相談員 や相談窓口がある 31.0
	飯南管内	経済的な負担の軽減 41.4	必要な在宅サービスが利 用できる 37.9	在宅で医療的ケアなどが 得られる／必要な在宅サ ービスが利用できる／何 でも相談できる相談員 や相談窓口がある 31.0
	飯高管内	経済的な負担の軽減 39.1	必要な在宅サービスが利 用できる／緊急時に宿泊 できるところがある／必要 な外出支援のサービスが 利用できる／地域に働 ける場所がある 21.7	
	その他	経済的な負担の軽減 40.0	必要な在宅サービスが利 用できる 35.0	
障がい等の区分	身体	経済的な負担の軽減 42.9	必要な在宅サービスが利 用できる 29.2	必要な外出支援のサービ スが利用できる 27.2
	知的	緊急時に宿泊できると ころがある 37.0	必要な在宅サービスが利 用できる 33.1	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 31.2
	精神	経済的な負担の軽減 47.1	何でも相談できる相談員 や相談窓口がある 37.3	地域に働ける場所がある 33.3
	その他	経済的な負担の軽減 53.7	在宅で医療的ケアなどが 得られる 34.3	地域に働ける場所がある ／何でも相談できる相談 員や相談窓口がある 25.4

(5) ボランティアに希望する支援

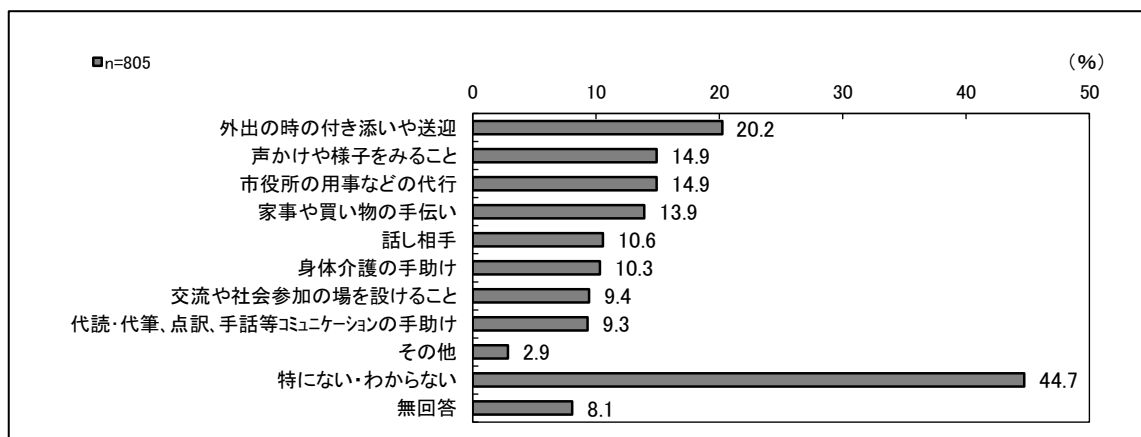
問 10 日常生活の中で、ボランティアにお願いしたいことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「外出の時の付き添いや送迎」が第1位。「特にない・わからない」は44.7%を占める。

ボランティアに希望する支援については、「外出の時の付き添いや送迎」(20.2%)が最も多く、次いで「声かけや様子をみること」・「市役所の用事などの代行」(同率14.9%)、「家事や買い物の手伝い」(13.9%)、「話し相手」(10.6%)、「身体介護の手助け」(10.3%)、「交流や社会参加の場を設けること」(9.4%)、「代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け」(9.3%)となっている。なお、「特にない・わからない」は44.7%となっている。

居住地域でみると、嬉野管内では「声かけや様子をみること」、三雲管内では「市役所の用事などの代行」が第1位となっている。

図表 ボランティアに希望する支援（全体／複数回答）



図表 ボランティアに希望する支援（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		外出の時の付き添いや送迎 20.2	声かけや様子を見ること／市役所の用事などの代行 14.9	
性別	男性	外出の時の付き添いや送迎 17.6	声かけや様子を見ること 15.0	市役所の用事などの代行 13.9
	女性	外出の時の付き添いや送迎 22.5	家事や買い物の手伝い 16.2	市役所の用事などの代行 15.6
年齢	10代・20代	外出の時の付き添いや送迎 31.6	声かけや様子を見ること 21.1	市役所の用事などの代行 19.7
	30代	外出の時の付き添いや送迎 19.3	家事や買い物の手伝い 18.2	市役所の用事などの代行 14.8
	40代	外出の時の付き添いや送迎 23.1	家事や買い物の手伝い 16.5	市役所の用事などの代行 15.4
	50代	外出の時の付き添いや送迎 13.6	声かけや様子を見ること／家事や買い物の手伝い 12.8	
	60代	外出の時の付き添いや送迎 17.1	市役所の用事などの代行 14.8	声かけや様子を見ること 14.4
	70代	声かけや様子を見ること／外出の時の付き添いや送迎 18.3	市役所の用事などの代行 12.5	
	80歳以上	外出の時の付き添いや送迎 26.6	話し相手 19.1	声かけや様子を見ること 17.0
居住地域	本庁管内	外出の時の付き添いや送迎 22.0	声かけや様子を見ること 15.7	市役所の用事などの代行 14.1
	嬉野管内	声かけや様子を見ること 19.6	外出の時の付き添いや送迎 18.8	家事や買い物の手伝い／市役所の用事などの代行 17.0
	三雲管内	市役所の用事などの代行 19.7	外出の時の付き添いや送迎 18.0	代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け 16.4
	飯南管内	外出の時の付き添いや送迎 20.7	声かけや様子を見ること／家事や買い物の手伝い／市役所の用事などの代行／交流や社会参加の場を設けること 17.2	
	飯高管内	声かけや様子を見ること／外出の時の付き添いや送迎 8.7	話し相手／代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け／家事や買い物の手伝い／身体介護の手助け／市役所の用事などの代行 4.3	
	その他	話し相手 30.0	代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け／身体介護の手助け 25.0	
障がい等の区分	身体	外出の時の付き添いや送迎 19.7	声かけや様子を見ること 13.2	家事や買い物の手伝い 12.7
	知的	外出の時の付き添いや送迎 27.9	声かけや様子を見ること 19.5	市役所の用事などの代行 18.2
	精神	市役所の用事などの代行 21.6	話し相手 19.6	外出の時の付き添いや送迎 16.7
	その他	声かけや様子を見ること 17.9	市役所の用事などの代行 16.4	外出の時の付き添いや送迎／家事や買い物の手伝い 13.4

3 日中活動や就労について

(1) 外出の頻度

問 11 あなたは1週間にどの程度外出しますか。(1つに○)



- 「1週間に数回外出する」が4割、「毎日外出する」が4割弱を占める。

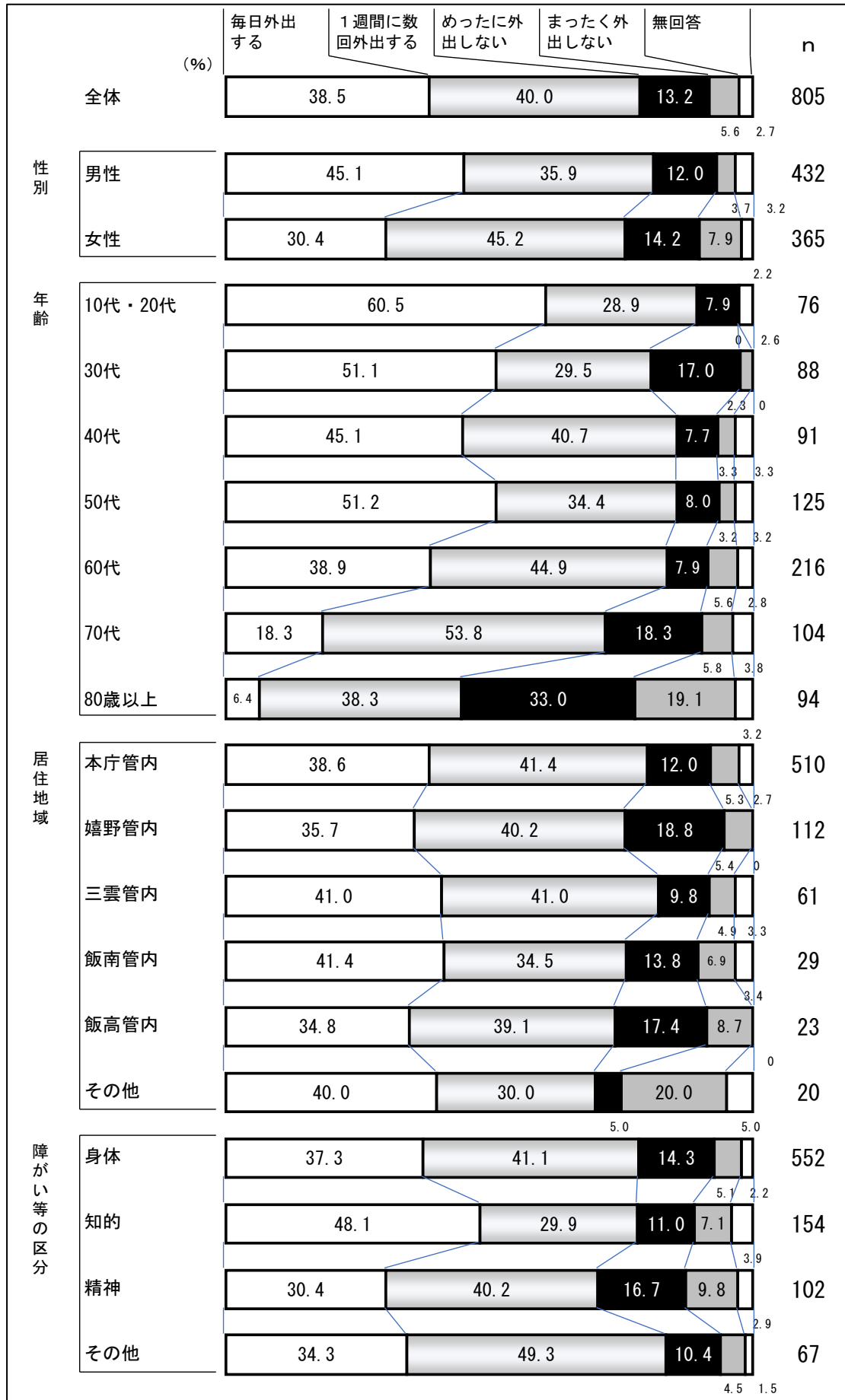
外出の頻度についてたずねたところ、「1週間に数回外出する」が40.0%、「毎日外出する」が38.5%、「めったに外出しない」が13.2%、「まったく外出しない」が5.6%となっている。

性別でみると、男性では「毎日外出する」が5割弱となっているのに対し、女性では3割強となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて外出の頻度が少なくなる傾向がうかがえる。

障がい等の区分でみると、知的では「毎日外出する」が5割弱を占めている。

図表 外出の頻度



(2) 主な同伴者

【問 11-1 から問 11-3 は、問 11 で「1.」～「3.」に○をつけた方にうかがいます】
問 11-1 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。(1 つに○)



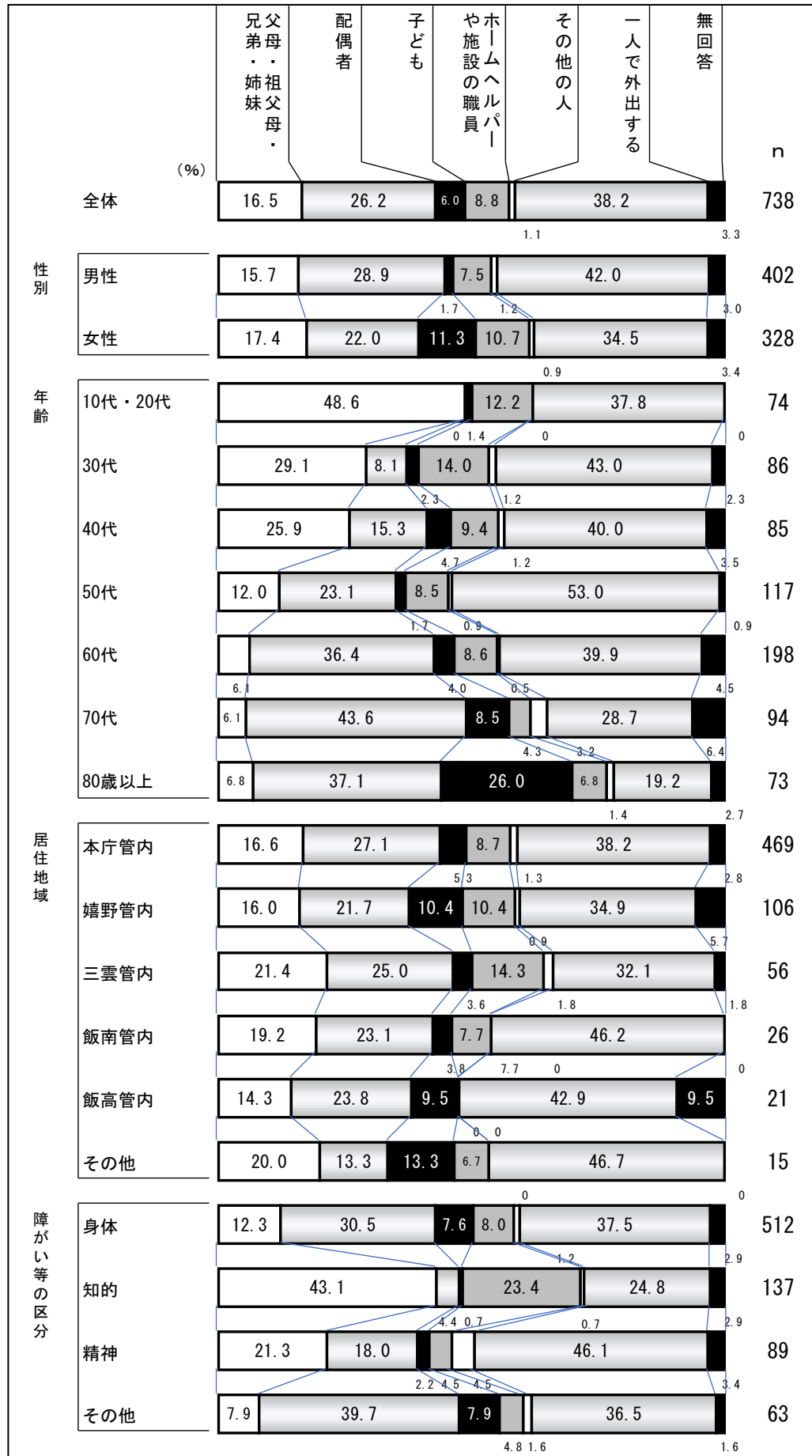
- 「一人で外出する」が 4 割弱、「配偶者」が 3 割弱を占める。

主な同伴者については、「配偶者」が 26.2%、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が 16.5%、「ホームヘルパーや施設の職員」が 8.8%、「子ども」が 6.0%、「その他の人」が 1.1% となっている。なお、「一人で外出する」は 38.2%となっている。

年齢でみると、10 代・20 代では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が 5 割弱を占めている。50 代では「一人で外出する」が 5 割強を占めている。

障がい等の区分でみると、知的では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が 4 割強、精神では「一人で外出する」が 5 割弱を占めている。

図表 主な同伴者



(3) 外出の目的

問 11-2 あなたはどのような目的で外出することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



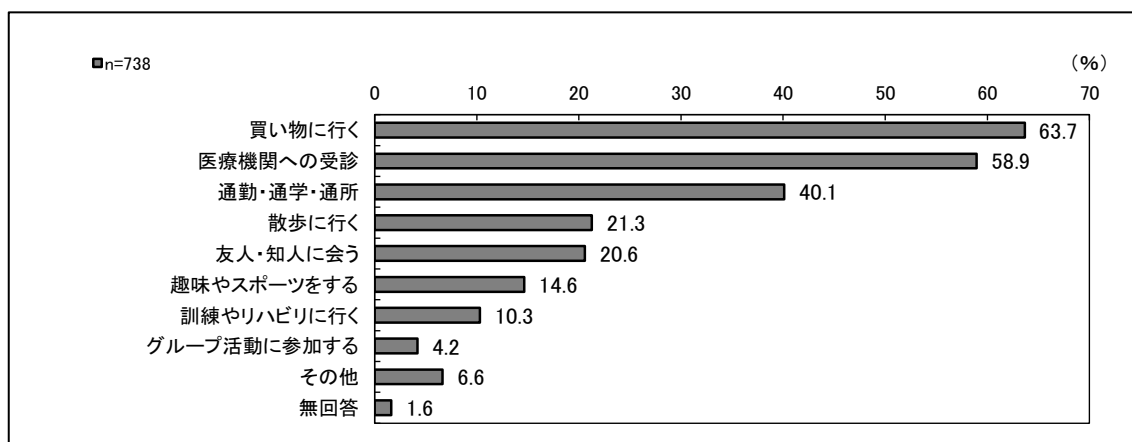
- 「買い物に行く」が第1位。「医療機関への受診」、「通勤・通学・通所」などが続く。

外出の目的については、「買い物に行く」(63.7%)が最も多く、次いで「医療機関への受診」(58.9%)、「通勤・通学・通所」(40.1%)、「散歩に行く」(21.3%)、「友人・知人に会う」(20.6%)、「趣味やスポーツをする」(14.6%)、「訓練やリハビリに行く」(10.3%)、「グループ活動に参加する」(4.2%)となっている。

年齢でみると、30代以下では「通勤・通学・通所」が第1位となっているのに対し、40代から60代では「買い物に行く」、70代以上では「医療機関への受診」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、身体と精神では「買い物に行く」、知的では「通勤・通学・通所」が第1位となっている。その他では「医療機関への受診」が第1位となっている。

図表 外出の目的（全体／複数回答）



図表 外出の目的（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		買い物に行く 63.7	医療機関への受診 58.9	通勤・通学・通所 40.1
性別	男性	買い物に行く 59.2	医療機関への受診 55.2	通勤・通学・通所 46.3
	女性	買い物に行く 68.9	医療機関への受診 63.1	通勤・通学・通所 32.6
年齢	10代・20代	通勤・通学・通所 79.7	買い物に行く 54.1	医療機関への受診 48.6
	30代	通勤・通学・通所 62.8	買い物に行く 59.3	医療機関への受診 52.3
	40代	買い物に行く 72.9	通勤・通学・通所 64.7	医療機関への受診 51.8
	50代	買い物に行く 69.2	医療機関への受診 53.8	通勤・通学・通所 53.0
	60代	買い物に行く 68.2	医療機関への受診 57.6	通勤・通学・通所 26.3
	70代	医療機関への受診 75.5	買い物に行く 63.8	散歩に行く 28.7
	80歳以上	医療機関への受診 75.3	買い物に行く 43.8	散歩に行く 15.1
居住地域	本庁管内	買い物に行く 65.2	医療機関への受診 59.1	通勤・通学・通所 39.0
	嬉野管内	買い物に行く 62.3	医療機関への受診 59.4	通勤・通学・通所 39.6
	三雲管内	医療機関への受診／買い物に行く 60.7		通勤・通学・通所 42.9
	飯南管内	医療機関への受診 69.2	買い物に行く 61.5	通勤・通学・通所 50.0
	飯高管内	通勤・通学・通所／医療機関への受診 57.1		買い物に行く 52.4
	その他	医療機関への受診／買い物に行く 60.0		通勤・通学・通所 40.0
障がい等の区分	身体	買い物に行く 62.1	医療機関への受診 59.0	通勤・通学・通所 36.7
	知的	通勤・通学・通所 59.9	買い物に行く 52.6	医療機関への受診 43.8
	精神	買い物に行く 64.0	医療機関への受診 62.9	通勤・通学・通所 34.8
	その他	医療機関への受診 71.4	買い物に行く 69.8	通勤・通学・通所 36.5

(4) 外出の際に困ること

問 11-3 あなたが外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】



- 「公共交通機関が少ない」が第1位。「特にない・わからない」は30.5%を占める。

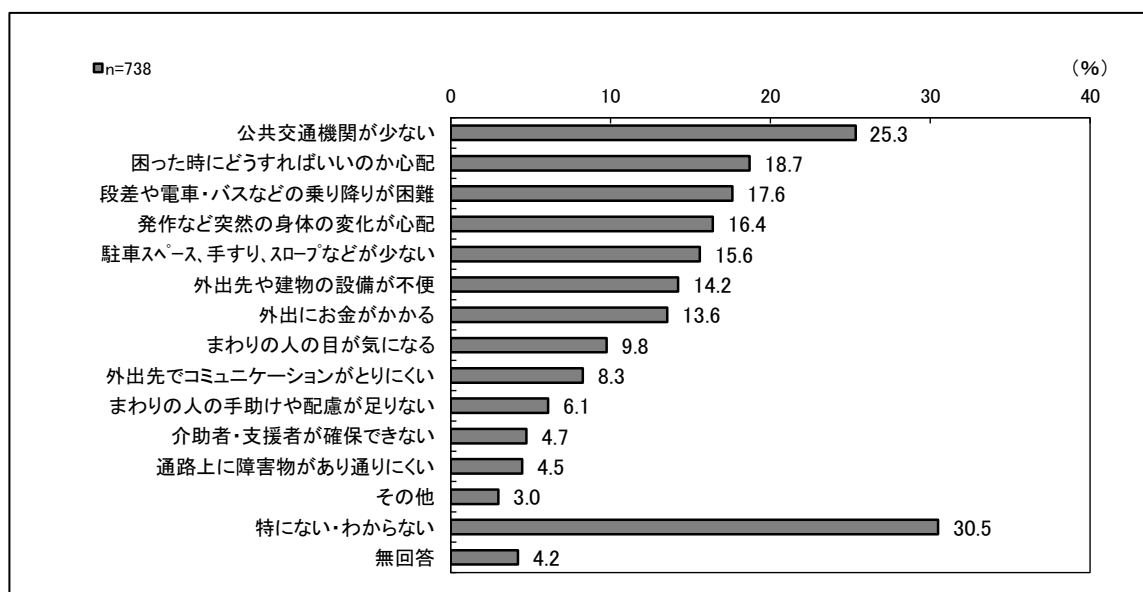
外出の際に困ることについてたずねたところ、「公共交通機関が少ない」(25.3%)が最も多く、次いで「困った時にどうすればいいのか心配」(18.7%)、「段差や電車・バスなどの乗り降りが困難」(17.6%)、「発作など突然の身体の変化が心配」(16.4%)、「駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない」(15.6%)、「外出先や建物の設備が不便」(14.2%)、「外出にお金がかかる」(13.6%)、「まわりの人の目が気になる」(9.8%)、「外出先でコミュニケーションがとりにくい」(8.3%)、「まわりの人の手助けや配慮が足りない」(6.1%)、「介助者・支援者が確保できない」(4.7%)、「通路上に障害物があり通りにくい」(4.5%)となっている。なお、「特にない・わからない」は30.5%となっている。

年齢でみると、10代・20代では「困った時にどうすればいいのか心配」が第1位となっている。

居住地域でみると、飯高管内とその他では「困った時にどうすればいいのか心配」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、精神では「まわりの人の目が気になる」・「発作など突然の身体の変化が心配」が同率で第1位となっている。

図表 外出の際に困ること（全体／複数回答）



図表 外出の際に困ること（全体・属性別―上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		公共交通機関が少ない 25.3	困った時にどうすればいいのか心配 18.7	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 17.6
性別	男性	公共交通機関が少ない 23.9	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない 17.9	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 17.4
	女性	公共交通機関が少ない 26.5	困った時にどうすればいいのか心配 20.1	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 17.7
年齢	10代・20代	困った時にどうすればいいのか心配 40.5	公共交通機関が少ない 24.3	外出先でコミュニケーションがとりにくい／発作など突然の身体の変化が心配 20.3
	30代	公共交通機関が少ない 24.4	外出にお金がかかる 19.8	外出先や建物の設備が不便／まわりの人の目が気になる／発作など突然の身体の変化が心配／困った時にどうすればいいのか心配 16.3
	40代	公共交通機関が少ない 23.5	困った時にどうすればいいのか心配 21.2	発作など突然の身体の変化が心配 20.0
	50代	公共交通機関が少ない 28.2	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 22.2	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない 20.5
	60代	公共交通機関が少ない 20.7	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない 20.2	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 17.7
	70代	公共交通機関が少ない 26.6	発作など突然の身体の変化が心配 19.1	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 18.1
	80歳以上	公共交通機関が少ない 34.2	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 21.9	困った時にどうすればいいのか心配 15.1
居住地域	本庁管内	公共交通機関が少ない 25.2	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 19.0	発作など突然の身体の変化が心配 17.5
	嬉野管内	公共交通機関が少ない 23.6	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 20.8	外出先や建物の設備が不便／困った時にどうすればいいのか心配 17.9
	三雲管内	公共交通機関が少ない 30.4	困った時にどうすればいいのか心配 25.0	外出先でコミュニケーションがとりにくい 19.6
	飯南管内	困った時にどうすればいいのか心配 30.8	公共交通機関が少ない／段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 26.9	
	飯高管内	公共交通機関が少ない 33.3	困った時にどうすればいいのか心配 19.0	外出先や建物の設備が不便 14.3
	その他	困った時にどうすればいいのか心配 33.3	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない／段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 20.0	
障がい等の区分	身体	公共交通機関が少ない 25.0	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難 21.3	駐車スペース、手すり、スロープなどが少ない 20.7
	知的	困った時にどうすればいいのか心配 29.9	公共交通機関が少ない 22.6	外出先でコミュニケーションがとりにくい 17.5
	精神	まわりの人の目が気になる／発作など突然の身体の変化が心配 25.8		外出にお金がかかる 23.6
	その他	公共交通機関が少ない 23.8	段差や電車・バスなどの乗り降りが困難／困った時にどうすればいいのか心配 15.9	

(5) 平日の日中の過ごし方

【問 12 は、すべての方にうかがいます】

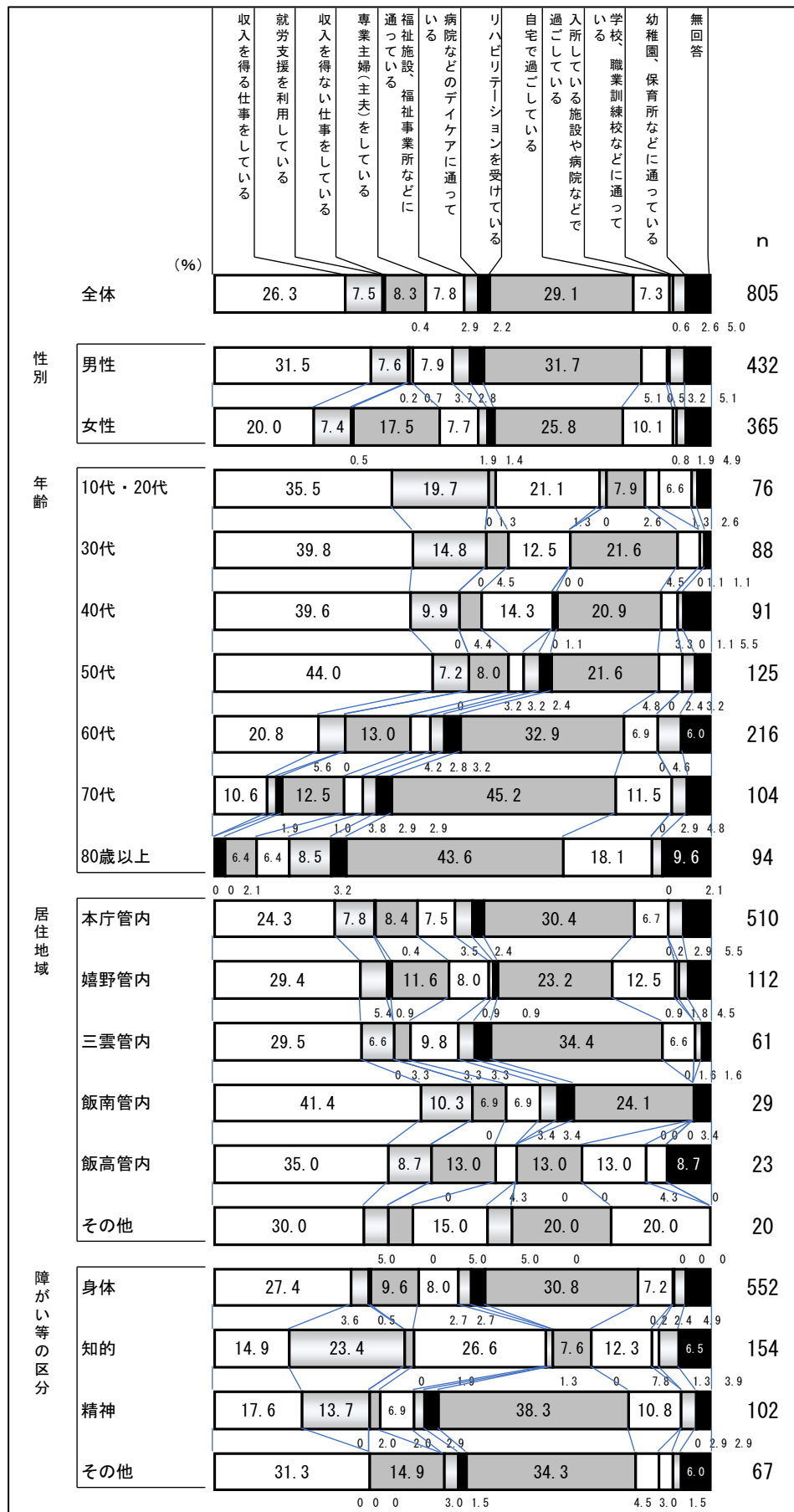
問 12 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(1つに○)



- 「自宅で過ごしている」、「収入を得る仕事をしている」がともに3割弱を占める。

平日の日中の過ごし方についてたずねたところ、「自宅で過ごしている」が 29.1%、「収入を得る仕事をしている」が 26.3%、「専業主婦(主夫)をしている」が 8.3%、「福祉施設、福祉事業所などに通っている」が 7.8%、「就労支援を利用している」が 7.5%、「入所している施設や病院などで過ごしている」が 7.3%、「病院などのデイケアに通っている」が 2.9%、「幼稚園、保育所などに通っている」が 2.6%、「リハビリテーションを受けている」が 2.2%、「学校、職業訓練校などに通っている」が 0.6%、「収入を得ない仕事をしている」が 0.4%となっている。

図表 平日の日中の過ごし方



(6) 勤務形態

【問 12-1 から問 12-3 は、問 12 で「1.」または「2.」に○をつけた方にうかがいます】
問 12-1 あなたはどのような勤務形態で働いていますか。(1 つに○)



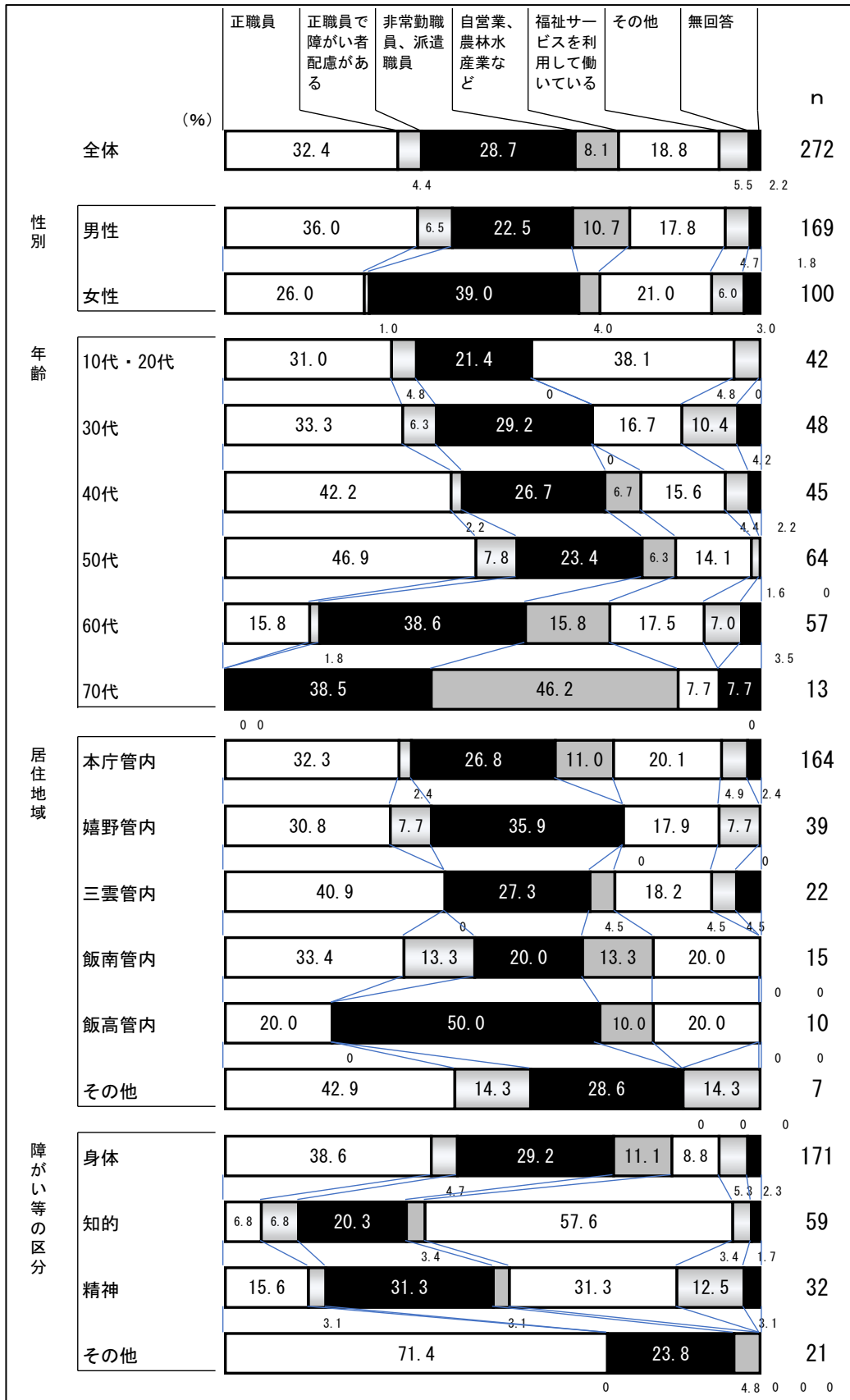
- 「正職員」が3割強、「非常勤職員、派遣職員」が3割弱を占める。

勤務形態についてたずねたところ、「正職員」が 32.4%、「非常勤職員、派遣職員」が 28.7%、「福祉サービスを利用して働いている」が 18.8%、「自営業、農林水産業など」が 8.1%、「正職員で障がい者配慮がある」が 4.4%となっている。

性別でみると、男性では「正職員」が 36.0%を占めるのに対し、女性では「非常勤職員、派遣職員」が 39.0%となっている。

年齢でみると、50 代にかけて「正職員」の割合が高くなっており、50 代では 46.9%を占めている。

図表 勤務形態



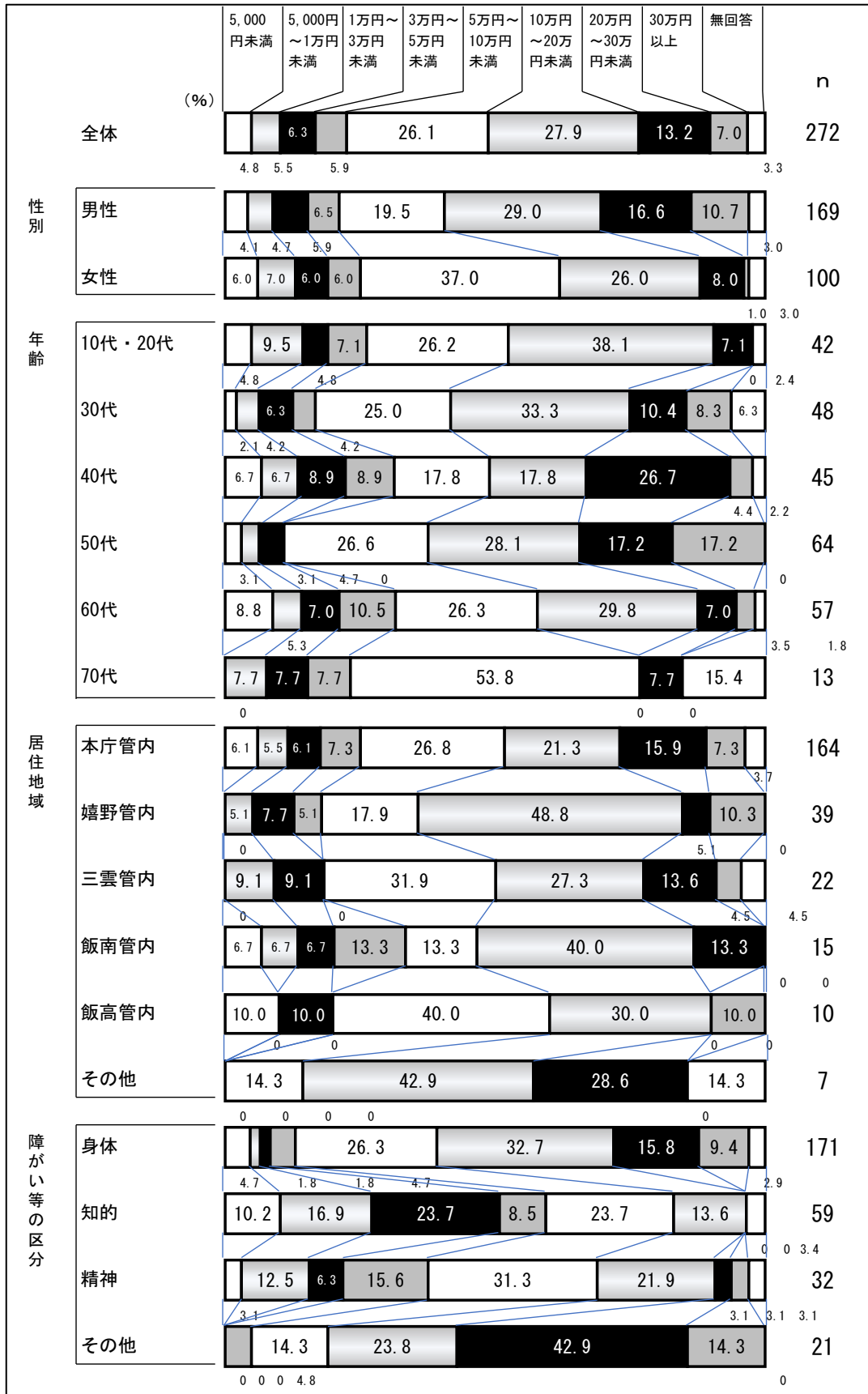
※「80歳以上」は回答者なし

(7) 1か月の収入

問 12-2 仕事によるあなたの1か月の収入はいくらですか。(工賃含む) (1つに○)

1か月あたりの収入についてたずねたところ、「10万円～20万円未満」が27.9%、「5万円～10万円未満」が26.1%、「20万円～30万円未満」が13.2%、「30万円以上」が7.0%、「1万円～3万円未満」が6.3%、「3万円～5万円未満」が5.9%、「5,000円～1万円未満」が5.5%、「5,000円未満」が4.8%となっている。

図表 1か月の収入



※「80歳以上」は回答者なし

(8) 仕事の悩み・困りごと

問 12-3 あなたが仕事のことで悩んでいることや困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



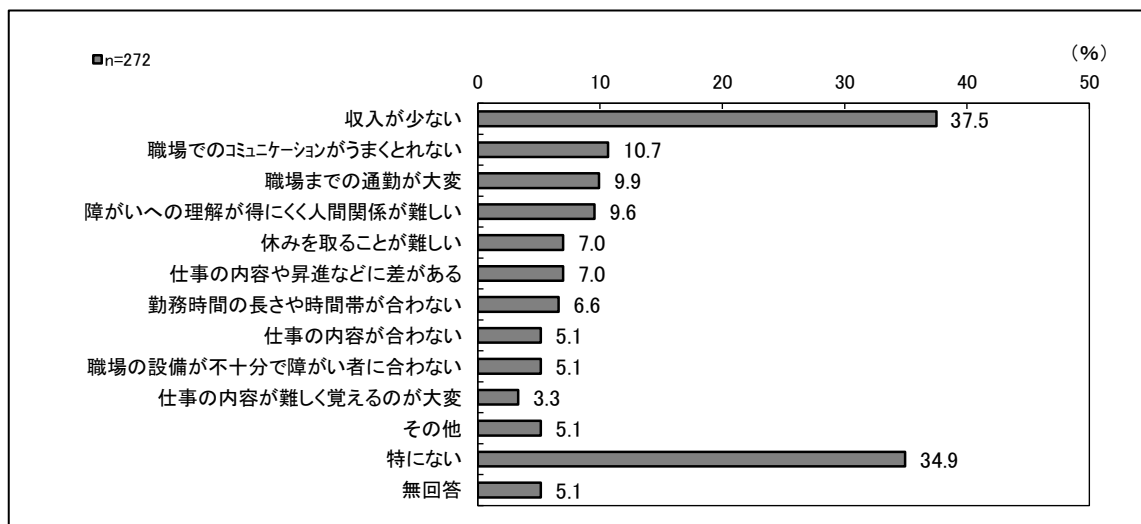
- 「収入が少ない」が他を大きく引き離して第1位。「特にない」は34.9%を占める。

仕事の悩み・困りごとについてたずねたところ、「収入が少ない」(37.5%)が最も多く、次いで「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」(10.7%)、「職場までの通勤が大変」(9.9%)、「障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい」(9.6%)、「休みを取ることが難しい」・「仕事の内容や昇進などに差がある」(同率7.0%)、「勤務時間の長さや時間帯が合わない」(6.6%)、「仕事の内容が合わない」・「職場の設備が不十分で障がい者に合わない」(同率5.1%)、「仕事の内容が難しく覚えるのが大変」(3.3%)となっている。なお、「特にない」は34.9%となっている。

年齢でみると、すべての年齢層で「収入が少ない」が第1位となっている。

居住地域でみると、飯南管内と飯高管内では「職場までの通勤が大変」が第1位となっている。

図表 仕事の悩み・困りごと（全体／複数回答）



図表 仕事の悩み・困りごと（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		収入が少ない 37.5	職場でのコミュニケーションがうまくとれない 10.7	職場までの通勤が大変 9.9
性別	男性	収入が少ない 41.4	職場までの通勤が大変 10.1	仕事の内容や昇進などに差がある 8.9
	女性	収入が少ない 32.0	職場でのコミュニケーションがうまくとれない 16.0	障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい 12.0
年齢	10代・20代	収入が少ない 38.1	職場でのコミュニケーションがうまくとれない 21.4	仕事の内容や昇進などに差がある 14.3
	30代	収入が少ない 39.6	職場でのコミュニケーションがうまくとれない 16.7	職場までの通勤が大変 12.5
	40代	収入が少ない 40.0	休みを取ることが難しい／ 障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい	職場までの通勤が大変 11.1
	50代	収入が少ない 32.8	障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい 14.1	休みを取ることが難しい 12.5
	60代	収入が少ない 40.4	勤務時間の長さや時間帯が合わない 8.8	職場でのコミュニケーションがうまくとれない／ 職場までの通勤が大変 5.3
	70代	収入が少ない 38.5	障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい 15.4	
居住地域	本庁管内	収入が少ない 39.6	職場でのコミュニケーションがうまくとれない 11.0	職場までの通勤が大変 10.4
	嬉野管内	収入が少ない 43.6	職場でのコミュニケーションがうまくとれない／ 障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい	10.3
	三雲管内	収入が少ない 27.3	職場でのコミュニケーションがうまくとれない 13.6	勤務時間の長さや時間帯が合わない／ 仕事の内容や昇進などに差がある 9.1
	飯南管内	収入が少ない／ 職場までの通勤が大変	33.3	障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい／ 仕事の内容や昇進などに差がある 13.3
	飯高管内	職場までの通勤が大変 30.0	収入が少ない／ 休みを取ることが難しい／ 勤務時間の長さや時間帯が合わない／ 仕事の内容が合わない／ 障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい／ 職場の設備が不十分で障がい者に合わない	10.0
	その他	収入が少ない 42.9	休みを取ることが難しい／ 障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい／ 仕事の内容や昇進などに差がある 14.3	
障がい等の区分	身体	収入が少ない 35.7	障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい／ 職場の設備が不十分で障がい者に合わない／ 職場までの通勤が大変 8.2	
	知的	収入が少ない 35.6	職場でのコミュニケーションがうまくとれない 16.9	職場までの通勤が大変 11.9
	精神	収入が少ない 50.0	職場でのコミュニケーションがうまくとれない／ 障がいへの理解が得にくく人間関係が難しい 21.9	
	その他	収入が少ない 42.9	職場までの通勤が大変 14.3	休みを取ることが難しい／ 勤務時間の長さや時間帯が合わない 9.5

※「80歳以上」は回答者なし

(9) 障がい者の就労に必要な環境

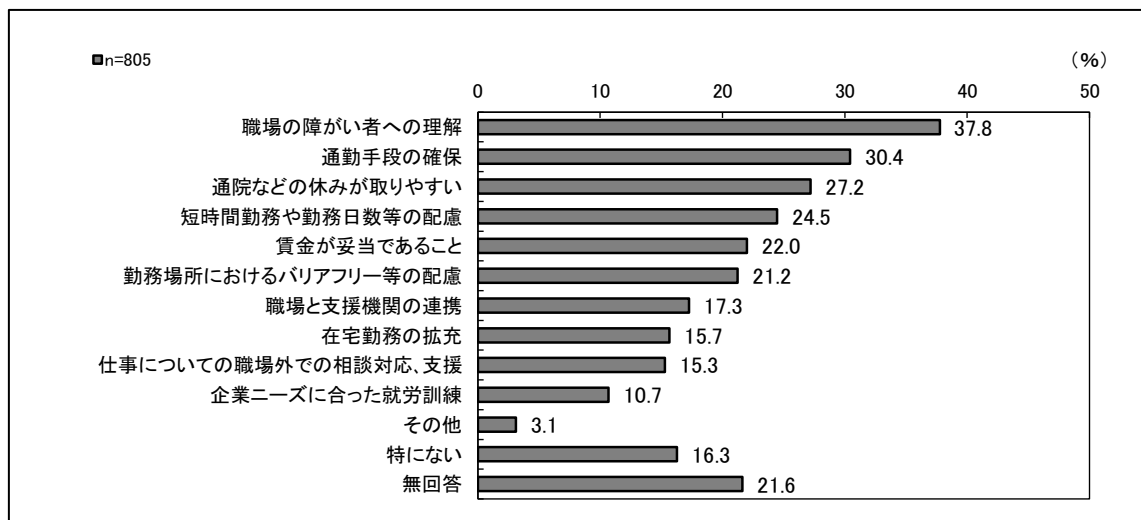
問 13 障がい者が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「職場の障がい者への理解」が第1位。「通勤手段の確保」、「通院などの休みが取りやすい」などが続く。

障がい者の就労に必要な環境についてたずねたところ、「職場の障がい者への理解」(37.8%)が最も多く、次いで「通勤手段の確保」(30.4%)、「通院などの休みが取りやすい」(27.2%)、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(24.5%)、「賃金が妥当であること」(22.0%)、「勤務場所におけるバリアフリー等の配慮」(21.2%)、「職場と支援機関の連携」(17.3%)、「在宅勤務の拡充」(15.7%)、「仕事についての職場外での相談対応、支援」(15.3%)、「企業ニーズに合った就労訓練」(10.7%)となっている。なお、「特にない」は16.3%となっている。

障がい等の区分でみると、知的と精神では「通勤手段の確保」が第1位となっている。

図表 障がい者の就労に必要な環境（全体／複数回答）



図表 障がい者の就労に必要な環境（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		職場の障がい者への理解 37.8	通勤手段の確保 30.4	通院などの休みが取りやすい 27.2
性別	男性	職場の障がい者への理解 34.7	通勤手段の確保 29.4	通院などの休みが取りやすい 24.5
	女性	職場の障がい者への理解 41.9	通勤手段の確保 32.1	通院などの休みが取りやすい 31.0
年齢	10代・20代	職場の障がい者への理解 53.9	通勤手段の確保 48.7	職場と支援機関の連携／仕事についての職場外での相談対応、支援 36.8
	30代	職場の障がい者への理解 59.1	通勤手段の確保 50.0	通院などの休みが取りやすい 42.0
	40代	職場の障がい者への理解 47.3	通勤手段の確保 35.2	通院などの休みが取りやすい 34.1
	50代	職場の障がい者への理解 43.2	通院などの休みが取りやすい 33.6	通勤手段の確保 30.4
	60代	職場の障がい者への理解 31.5	通勤手段の確保 28.2	通院などの休みが取りやすい 25.9
	70代	職場の障がい者への理解 26.0	通勤手段の確保 19.2	短時間勤務や勤務日数等の配慮 16.3
	80歳以上	職場の障がい者への理解 18.1	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮 14.9	通勤手段の確保 12.8
居住地域	本庁管内	職場の障がい者への理解 36.9	通勤手段の確保 31.0	通院などの休みが取りやすい 28.4
	嬉野管内	職場の障がい者への理解 42.0	通勤手段の確保 33.9	通院などの休みが取りやすい／賃金が妥当であること 31.3
	三雲管内	職場の障がい者への理解 41.0	通勤手段の確保 26.2	通院などの休みが取りやすい 23.0
	飯南管内	職場の障がい者への理解 48.3	通勤手段の確保 34.5	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮 31.0
	飯高管内	職場の障がい者への理解 43.5	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮 30.4	通勤手段の確保 26.1
	その他	職場の障がい者への理解 35.0	通勤手段の確保／職場と支援機関の連携／賃金が妥当であること 30.0	
障がい等の区分	身体	職場の障がい者への理解 37.3	通勤手段の確保 27.7	通院などの休みが取りやすい 26.4
	知的	通勤手段の確保／職場の障がい者への理解 38.3		職場と支援機関の連携 24.0
	精神	通勤手段の確保 39.2	通院などの休みが取りやすい 37.3	職場の障がい者への理解 36.3
	その他	職場の障がい者への理解 32.8	通院などの休みが取りやすい 31.3	短時間勤務や勤務日数等の配慮 28.4

(10) 今後収入を得る仕事をしたいか

【問 14 と問 15 は、18～64 歳の方にかがいます】

問 14 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(1 つに○)



- 「既になっている」が4割弱、「したいが、できないと思う」が3割弱を占める。

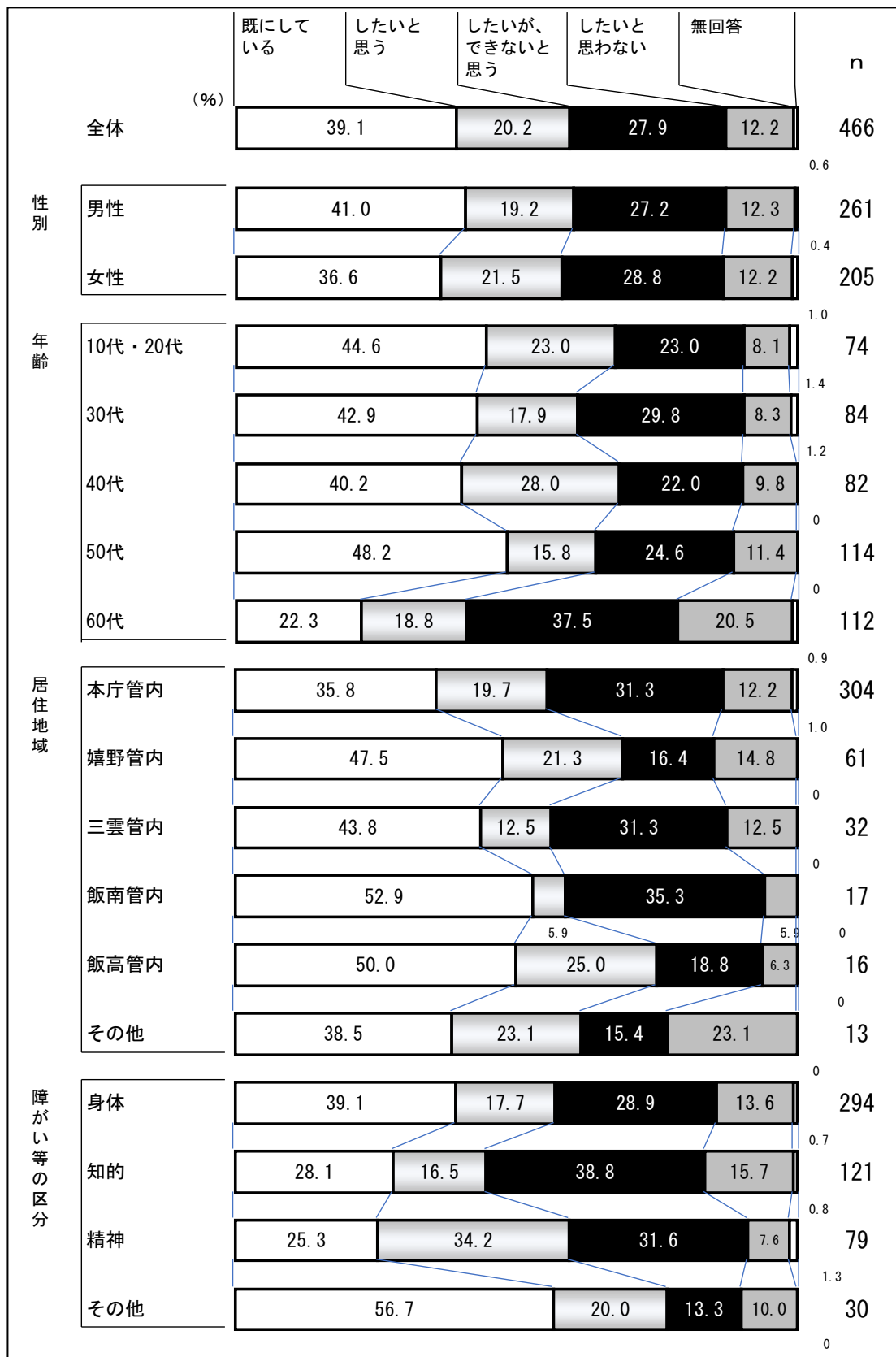
今後収入を得る仕事をしたいかたずねたところ、「既になっている」が 39.1%、「したいが、できないと思う」が 27.9%、「したいと思う」が 20.2%、「したいと思わない」が 12.2% となっている。

年齢でみると、50 代以下では「既になっている」がいずれも 4 割台となっているのに対し、60 代では 2 割強となっている。

居住地域でみると、飯南管内と飯高管内では「既になっている」がいずれも 5 割以上を占めている。

障がい等の区分でみると、その他では「既になっている」が 6 割弱を占めている。知的と精神では「したいが、できないと思う」がいずれも 3 割台となっている。

図表 今後収入を得る仕事をしたいか



※「70代」以上は回答者なし

(11) 職業訓練を受けたいと思うか

問 15 収入を得る仕事に就くために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(1つに○)



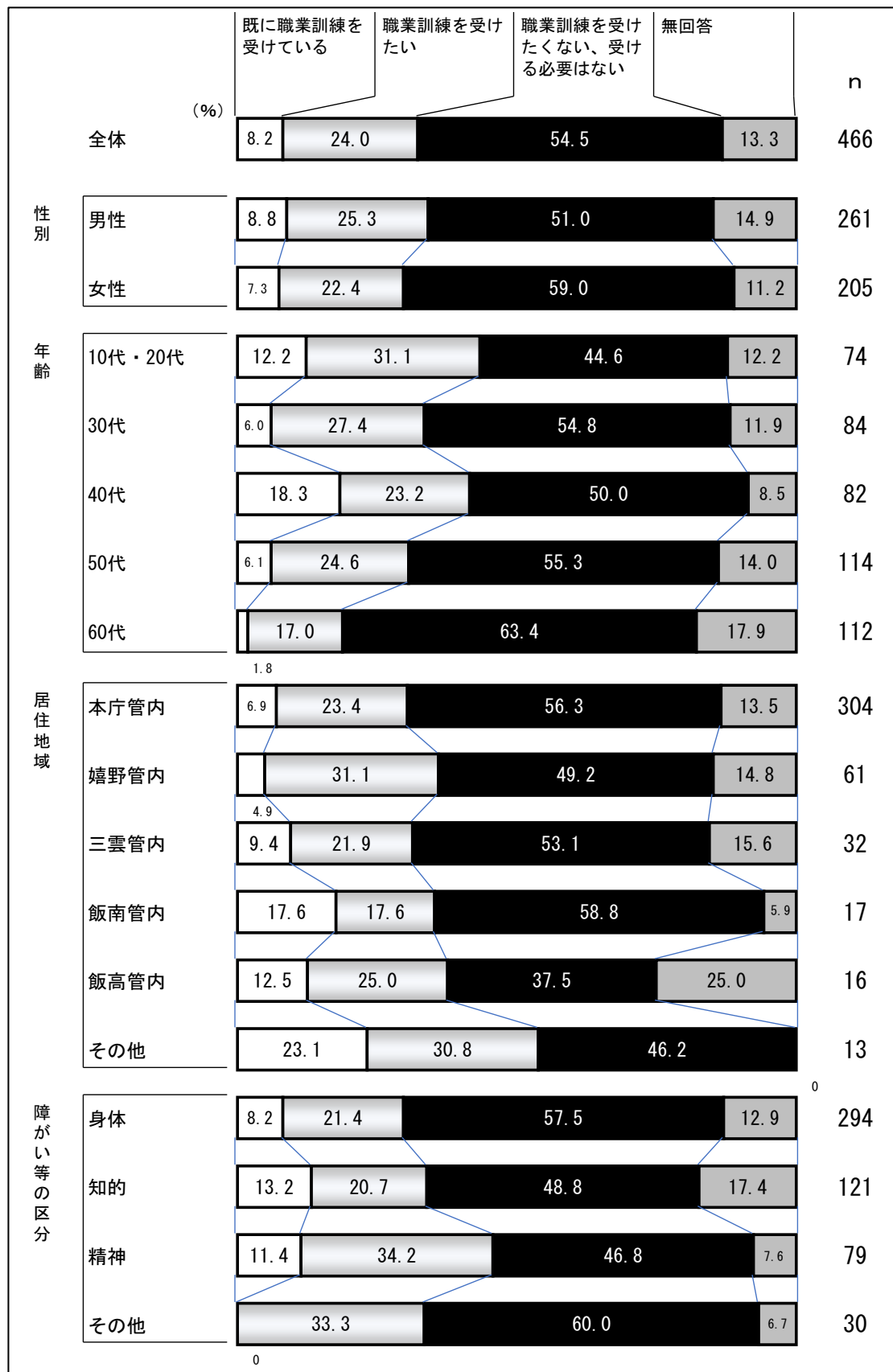
- 「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が5割強、「職業訓練を受けたい」が2割強を占める。

職業訓練を受けたいと思うかたずねたところ、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 54.5%、「職業訓練を受けたい」が 24.0%、「既に職業訓練を受けている」が 8.2%となっている。

年齢でみると、若年層ほど「職業訓練を受けたい」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

障がい等の区分でみると、精神とその他では「職業訓練を受けたい」がともに3割強を占めている。

図表 職業訓練を受けたいと思うか



※「70代」以上は回答者なし

4 余暇活動や地域での活動について

(1) 余暇活動としてしたいこと

問 16 あなたは余暇活動として、どのような活動をしたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「買い物」と「旅行」が上位を占める。

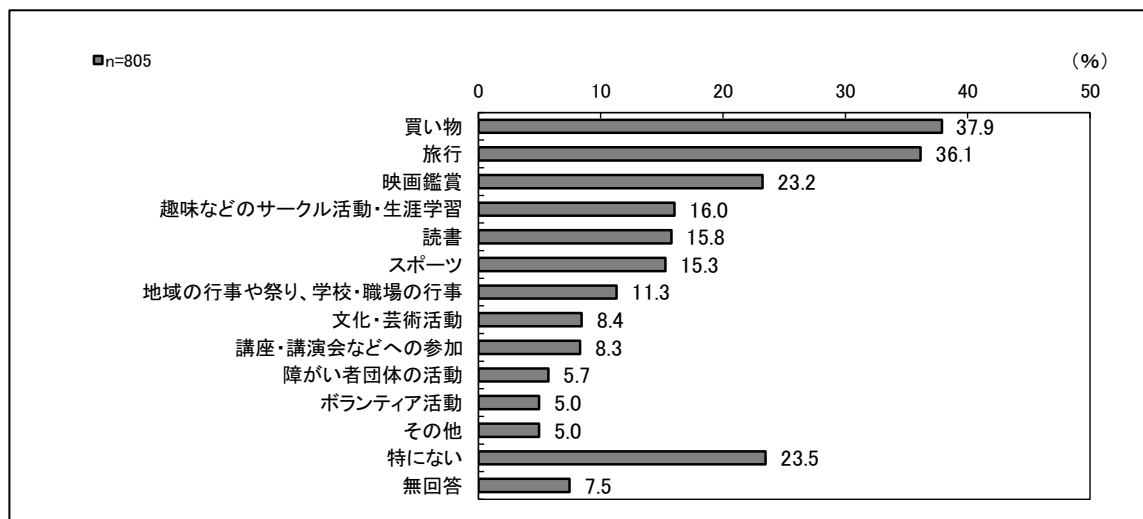
余暇活動としてしたいことについてたずねたところ、「買い物」(37.9%)が最も多く、次いで「旅行」(36.1%)、「映画鑑賞」(23.2%)、「趣味などのサークル活動・生涯学習」(16.0%)、「読書」(15.8%)、「スポーツ」(15.3%)、「地域の行事や祭り、学校・職場の行事」(11.3%)、「文化・芸術活動」(8.4%)、「講座・講演会などへの参加」(8.3%)、「障がい者団体の活動」(5.7%)、「ボランティア活動」(5.0%)となっている。なお、「特にない」は23.5%となっている。

性別でみると、男性では「旅行」、女性では「買い物」が第1位となっている。

年齢でみると、10代・20代と60代、70代では「旅行」が第1位となっているのに対し、30代～50代、80歳以上では「買い物」が第1位となっている。

居住地域でみると、三雲管内、飯南管内、その他では「旅行」が第1位となっている。障がい等の区分でみると、知的と精神では「買い物」が第1位となっている。

図表 余暇活動としてしたいこと（全体／複数回答）



図表 余暇活動としてしたいこと（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		買い物 37.9	旅行 36.1	映画鑑賞 23.2
性別	男性	旅行 37.5	買い物 35.2	映画鑑賞 22.2
	女性	買い物 41.4	旅行 34.5	映画鑑賞 24.4
年齢	10代・20代	旅行 53.9	買い物 51.3	映画鑑賞 31.6
	30代	買い物 62.5	旅行 47.7	映画鑑賞 40.9
	40代	買い物 45.1	映画鑑賞 30.8	旅行 27.5
	50代	買い物 48.8	旅行 46.4	映画鑑賞 30.4
	60代	旅行 39.8	買い物 31.0	趣味などのサークル活動・生涯学習 23.1
	70代	旅行 24.0	買い物 22.1	趣味などのサークル活動・生涯学習 18.3
	80歳以上	買い物 18.1	読書 13.8	旅行／趣味などのサークル活動・生涯学習 11.7
居住地域	本庁管内	買い物 41.0	旅行 37.3	映画鑑賞 24.3
	嬉野管内	買い物 33.9	旅行 33.0	映画鑑賞 24.1
	三雲管内	旅行 36.1	買い物 32.8	映画鑑賞 18.0
	飯南管内	旅行 51.7	買い物 31.0	スポーツ／映画鑑賞 24.1
	飯高管内	買い物 34.8	旅行 30.4	読書／趣味などのサークル活動・生涯学習 26.1
	その他	旅行 35.0	買い物 30.0	映画鑑賞／趣味などのサークル活動・生涯学習 10.0
障がい等の区分	身体	旅行 37.7	買い物 36.8	映画鑑賞 23.7
	知的	買い物 43.5	旅行 33.1	映画鑑賞 15.6
	精神	買い物 37.3	映画鑑賞 21.6	旅行 19.6
	その他	旅行 40.3	買い物 31.3	映画鑑賞 25.4

(2) 地域活動や余暇活動に参加する際のさまたげ

問 17 あなたがお住まいの地域で行われる行事や余暇活動（文化・スポーツ・レクリエーション活動など）に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。（あてはまるものすべてに○）【複数回答】

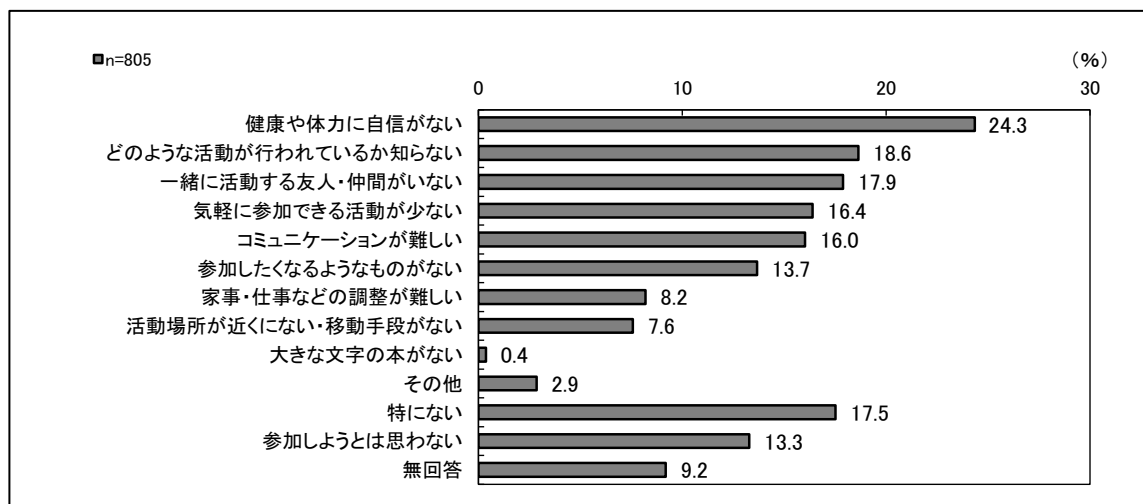
- 「健康や体力に自信がない」が第1位。「どのような活動が行われているか知らない」、「一緒に活動する友人・仲間がいない」などが続く。

地域活動や余暇活動に参加する際のさまたげについては、「健康や体力に自信がない」（24.3%）が最も多く、次いで「どのような活動が行われているか知らない」（18.6%）、「一緒に活動する友人・仲間がいない」（17.9%）、「気軽に参加できる活動が少ない」（16.4%）、「コミュニケーションが難しい」（16.0%）、「参加したくなるようなものがない」（13.7%）、「家事・仕事などの調整が難しい」（8.2%）、「活動場所が近くにない・移動手段がない」（7.6%）、「大きな文字の本がない」（0.4%）となっている。なお、「特にない」は17.5%、「参加しようとは思わない」は13.3%となっている。

年齢でみると、10代・20代では、「コミュニケーションが難しい」、30代では「どのような活動が行われているか知らない」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、身体では「健康や体力に自信がない」、知的では「コミュニケーションが難しい」、「どのような活動が行われているか知らない」が第1位となっている。

図表 地域活動や余暇活動に参加する際のさまたげ（全体／複数回答）



図表 地域活動や余暇活動に参加する際のさまたげ（全体・属性別－上位第3位／複数回答）
（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		健康や体力に自信がない 24.3	どのような活動が行われているか知らない 18.6	一緒に活動する友人・仲間がいない 17.9
性別	男性	健康や体力に自信がない 22.5	どのような活動が行われているか知らない 17.4	気軽に参加できる活動が少ない／コミュニケーションが難しい 16.4
	女性	健康や体力に自信がない 26.3	どのような活動が行われているか知らない 20.5	一緒に活動する友人・仲間がいない 20.3
年齢	10代・20代	コミュニケーションが難しい 38.2	一緒に活動する友人・仲間がいない 28.9	どのような活動が行われているか知らない 25.0
	30代	どのような活動が行われているか知らない 29.5	一緒に活動する友人・仲間がいない 27.3	参加したくなるようなものがない 25.0
	40代	健康や体力に自信がない 23.1	一緒に活動する友人・仲間がいない 20.9	どのような活動が行われているか知らない 17.6
	50代	健康や体力に自信がない 27.2	どのような活動が行われているか知らない 22.4	一緒に活動する友人・仲間がいない 20.0
	60代	健康や体力に自信がない 27.3	どのような活動が行われているか知らない 18.5	気軽に参加できる活動が少ない 17.6
	70代	健康や体力に自信がない 26.0	参加したくなるようなものがない 11.5	気軽に参加できる活動が少ない／どのような活動が行われているか知らない 10.6
	80歳以上	健康や体力に自信がない 28.7	気軽に参加できる活動が少ない 12.8	一緒に活動する友人・仲間がいない 11.7
居住地域	本庁管内	健康や体力に自信がない 26.5	どのような活動が行われているか知らない 20.2	一緒に活動する友人・仲間がいない 19.0
	嬉野管内	健康や体力に自信がない 22.3	どのような活動が行われているか知らない 20.5	一緒に活動する友人・仲間がいない 19.6
	三雲管内	健康や体力に自信がない 24.6	どのような活動が行われているか知らない 23.0	コミュニケーションが難しい 18.0
	飯南管内	一緒に活動する友人・仲間がいない／健康や体力に自信がない 20.7	気軽に参加できる活動が少ない／一緒に活動する友人・仲間がいない／健康や体力に自信がない 13.0	気軽に参加できる活動が少ない／コミュニケーションが難しい 17.2
	飯高管内	家事・仕事などの調整が難しい 17.4	気軽に参加できる活動が少ない／一緒に活動する友人・仲間がいない／健康や体力に自信がない 13.0	一緒に活動する友人・仲間がいない 15.6
	その他	健康や体力に自信がない／コミュニケーションが難しい 20.0	どのような活動が行われているか知らない／参加したくなるようなものがない 10.0	一緒に活動する友人・仲間がいない 15.6
障がい等の区分	身体	健康や体力に自信がない 27.0	どのような活動が行われているか知らない 18.7	一緒に活動する友人・仲間がいない 15.6
	知的	コミュニケーションが難しい 27.9	気軽に参加できる活動が少ない 21.4	一緒に活動する友人・仲間がいない 20.8
	精神	どのような活動が行われているか知らない 24.5	一緒に活動する友人・仲間がいない 23.5	健康や体力に自信がない 22.5
	その他	健康や体力に自信がない 25.4	気軽に参加できる活動が少ない 17.9	家事・仕事などの調整が難しい 16.4

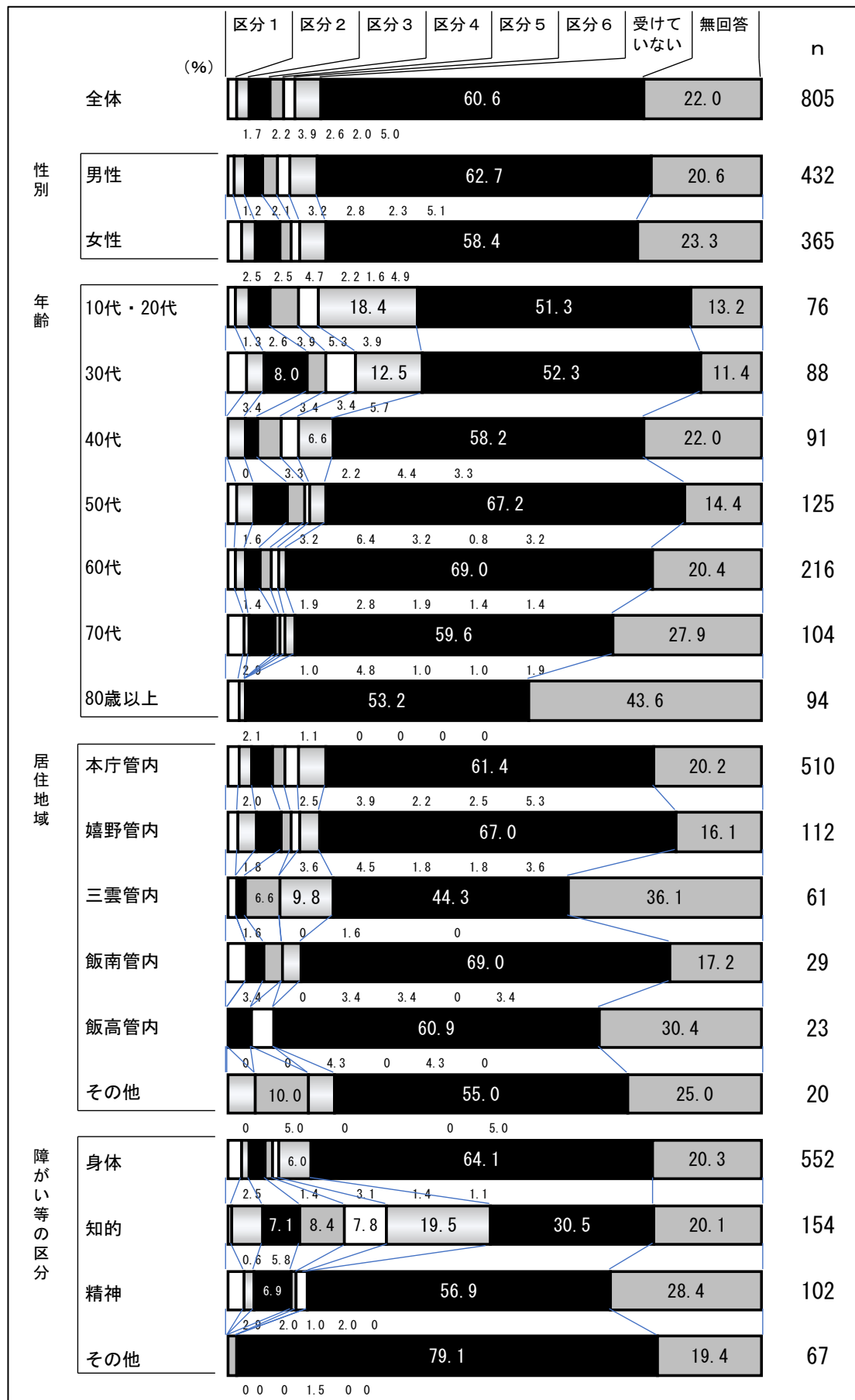
5 障害福祉サービスなどの利用について

(1) 障害支援区分の認定を受けているか

問 18 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(1つに○)

障害支援区分の認定を受けているかたずねたところ、「区分6」が5.0%、「区分3」が3.9%、「区分4」が2.6%、「区分2」が2.2%、「区分5」が2.0%、「区分1」が1.7%となっている。なお、「受けていない」は60.6%となっている。

図表 障害支援区分の認定を受けているか



(2) 利用しているサービス・利用したいサービス

問 19 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。
(①から⑳のそれぞれについて、「(1) 現在利用しているか」と「(2) 今後利用したいか」の両方に回答してください)

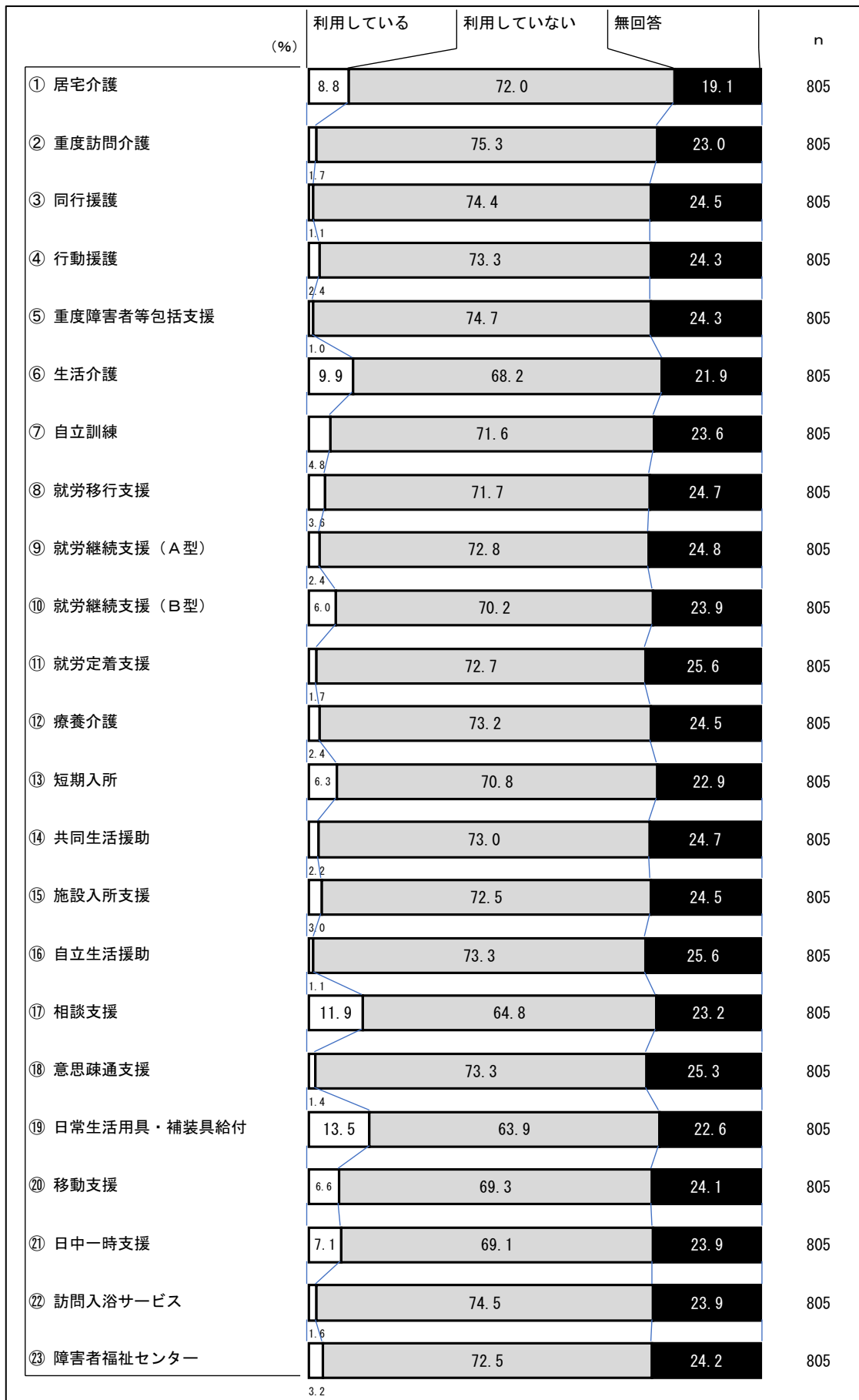


- 「⑱ 日常生活用具・補装具給付」、「⑰ 相談支援」、「⑥ 生活介護」などの利用が多い。
- 利用したいサービスとしては、「⑰ 相談支援」、「⑱ 日常生活用具・補装具給付」、「㉔ 移動支援」などとなっている。

①利用しているサービス

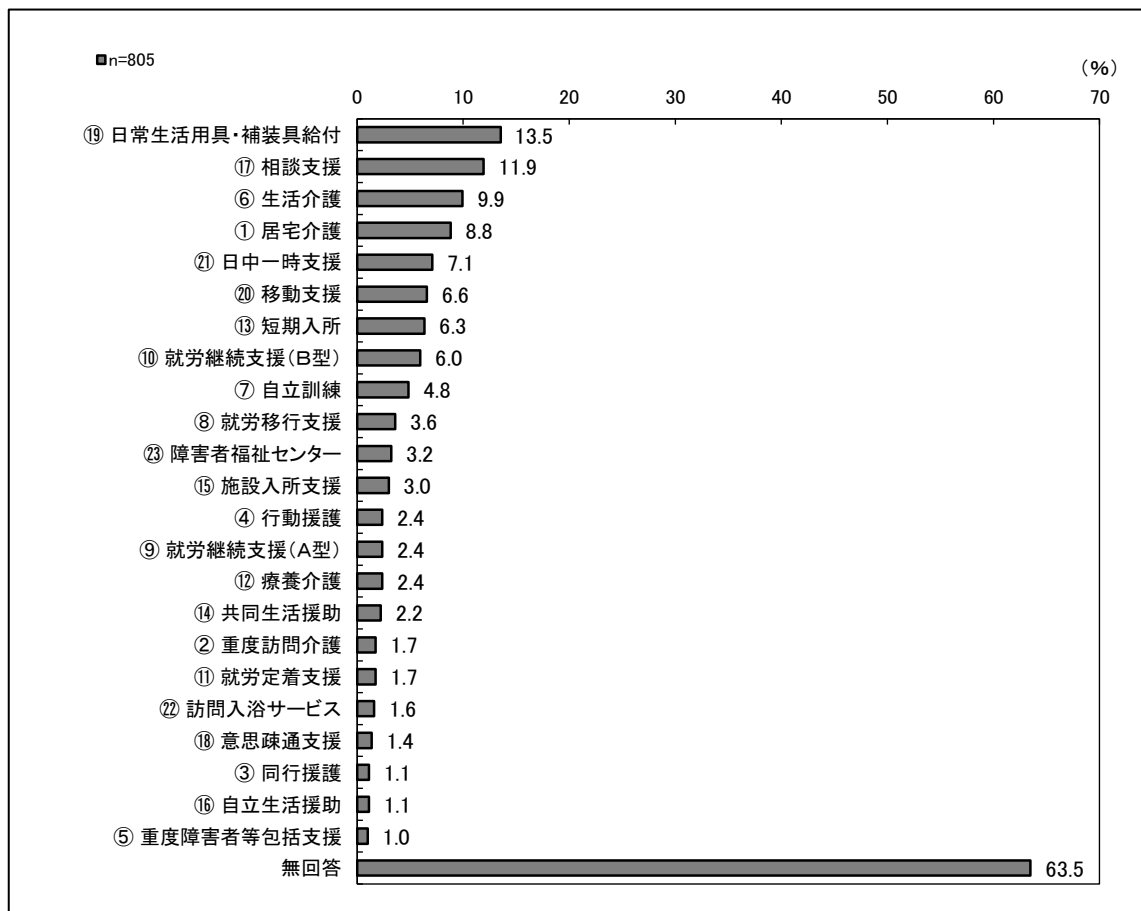
利用しているサービスについては、次のとおりとなっている。

図表 利用しているサービス



また、サービスを利用者の多い順にみると、「⑱ 日常生活用具・補装具給付」(13.5%)、
 が最も多く、次いで「⑰ 相談支援」(11.9%)、「⑥ 生活介護」(9.9%)、「① 居宅介護」
 (8.8%)、「㉑ 日中一時支援」(7.1%)、「㉒ 移動支援」(6.6%)、「⑬ 短期入所」(6.3%)、
 「⑩ 就労継続支援(B型)」(6.0%)、「⑦ 自立訓練」(4.8%)、「⑧ 就労移行支援」(3.6%)、
 「㉓ 障害者福祉センター」(3.2%)、「⑮ 施設入所支援」(3.0%)、「④ 行動援護」・「⑨ 就
 労継続支援(A型)」・「⑫ 療養介護」(同率2.4%)、「⑭ 共同生活援助」(2.2%)、「② 重
 度訪問介護」・「⑪ 就労定着支援」(同率1.7%)、「㉔ 訪問入浴サービス」(1.6%)、「⑱ 意
 思疎通支援」(1.4%)、「③ 同行援護」・「⑯ 自立生活援助」(同率1.1%)、「⑤ 重度障害
 者等包括支援」(1.0%)となっている。

図表 利用しているサービス



②利用したいサービス

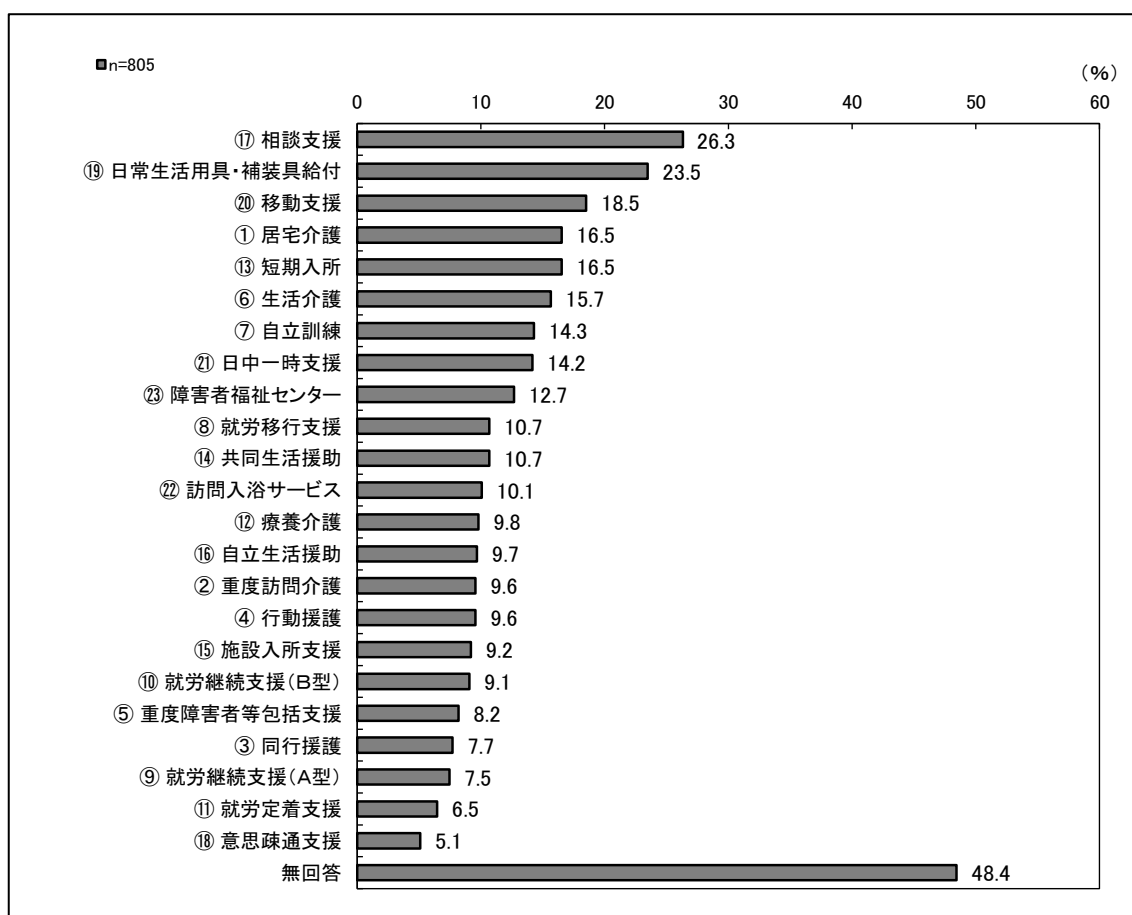
今後利用したいサービスについては、次のとおりとなっている。

図表 利用しているサービス

	(%)	利用したい	利用しない	わからない	無回答	n
① 居宅介護	16.5	23.2	39.6	20.6	805	
② 重度訪問介護	9.6	26.5	41.4	22.5	805	
③ 同行援護	7.7	31.2	37.0	24.1	805	
④ 行動援護	9.6	28.4	38.3	23.7	805	
⑤ 重度障害者等包括支援	8.2	28.3	40.5	23.0	805	
⑥ 生活介護	15.7	24.6	37.4	22.4	805	
⑦ 自立訓練	14.3	26.8	36.8	22.1	805	
⑧ 就労移行支援	10.7	31.4	34.9	23.0	805	
⑨ 就労継続支援（Ａ型）	7.5	33.7	34.3	24.6	805	
⑩ 就労継続支援（Ｂ型）	9.1	33.5	31.8	25.6	805	
⑪ 就労定着支援	6.5	32.9	35.4	25.2	805	
⑫ 療養介護	9.8	27.6	38.8	23.9	805	
⑬ 短期入所	16.5	25.5	35.4	22.6	805	
⑭ 共同生活援助	10.7	27.3	37.9	24.1	805	
⑮ 施設入所支援	9.2	26.6	40.7	23.5	805	
⑯ 自立生活援助	9.7	28.3	38.1	23.9	805	
⑰ 相談支援	26.3	16.4	33.0	24.2	805	
⑱ 意思疎通支援	5.1	31.1	38.6	25.2	805	
⑲ 日常生活用具・補装具給付	23.5	20.2	32.4	23.9	805	
⑳ 移動支援	18.5	20.9	36.8	23.9	805	
㉑ 日中一時支援	14.2	25.7	35.7	24.5	805	
㉒ 訪問入浴サービス	10.1	28.0	38.1	23.9	805	
㉓ 障害者福祉センター	12.7	23.7	38.9	24.7	805	

また、サービスを利用したい人の多い順にみると、「⑰ 相談支援」(26.3%)、「⑲ 日常生活用具・補装具給付」(23.5%)、「⑳ 移動支援」(18.5%)、「① 居宅介護」・「⑬ 短期入所」(同率 16.5%)、「⑥ 生活介護」(15.7%)、「⑦ 自立訓練」(14.3%)、「㉑ 日中一時支援」(14.2%)、「㉓ 障害者福祉センター」(12.7%)、「⑧ 就労移行支援」・「⑭ 共同生活援助」(同率 10.7%)、「㉒ 訪問入浴サービス」(10.1%)、「⑫ 療養介護」(9.8%)、「⑯ 自立生活援助」(9.7%)、「② 重度訪問介護」・「④ 行動援護」(同率 9.6%)、「⑮ 施設入所支援」(9.2%)、「⑩ 就労継続支援 (B型)」(9.1%)、「⑤ 重度障害者等包括支援」(8.2%)、「③ 同行援護」(7.7%)、「⑨ 就労継続支援 (A型)」(7.5%)、「⑪ 就労定着支援」(6.5%)、「⑱ 意思疎通支援」(5.1%)となっている。

図表 利用したいサービス

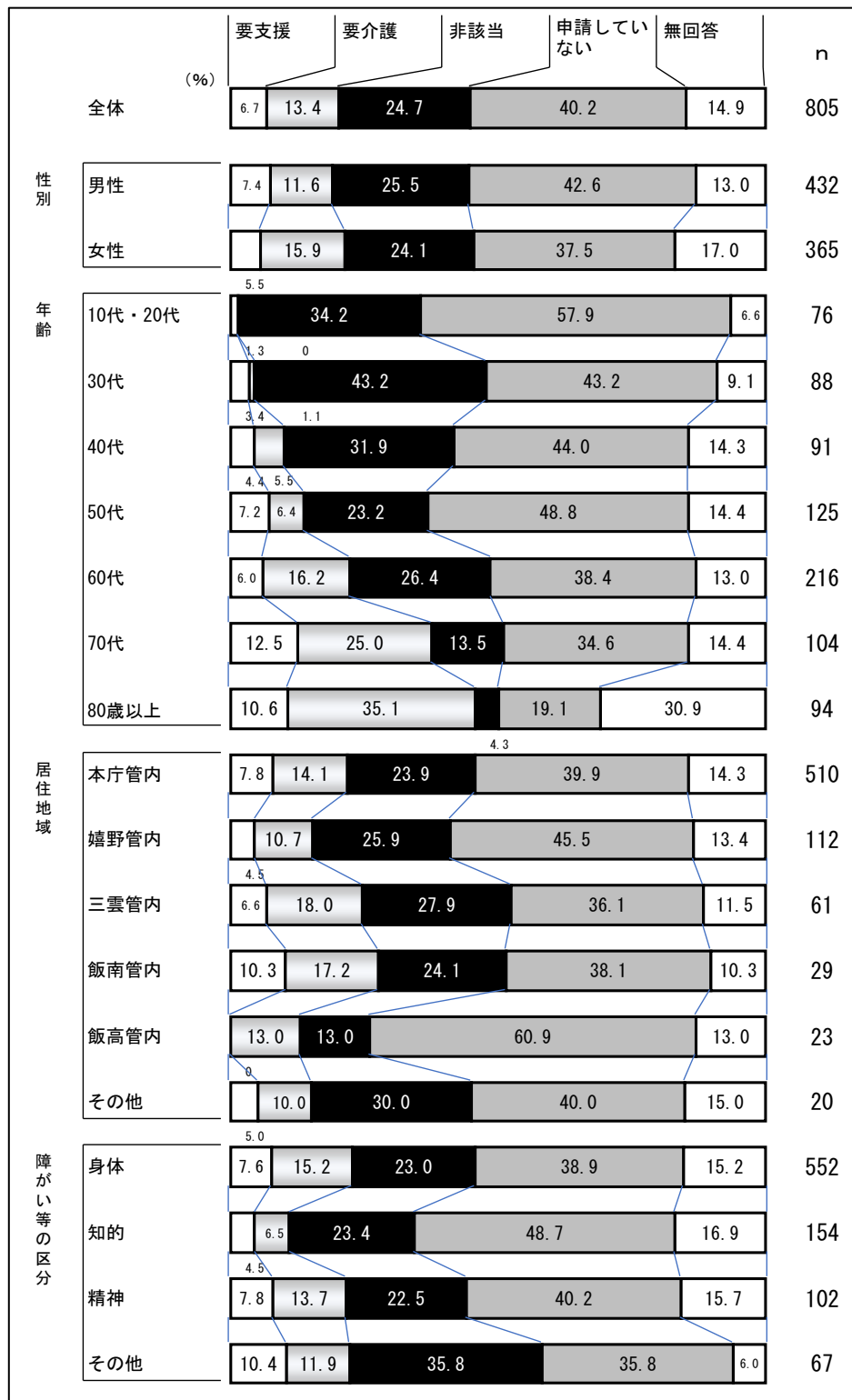


(3) 要介護認定を受けているか

問 20 あなたは介護保険制度における要介護認定を受けていますか。(1つに○)

要介護認定を受けているかたずねたところ、「非該当」が24.7%、「要介護」が13.4%、「要支援」が6.7%となっている。なお、「申請していない」は40.2%となっている。

図表 要介護認定を受けているか



6 保健・医療サービスについて

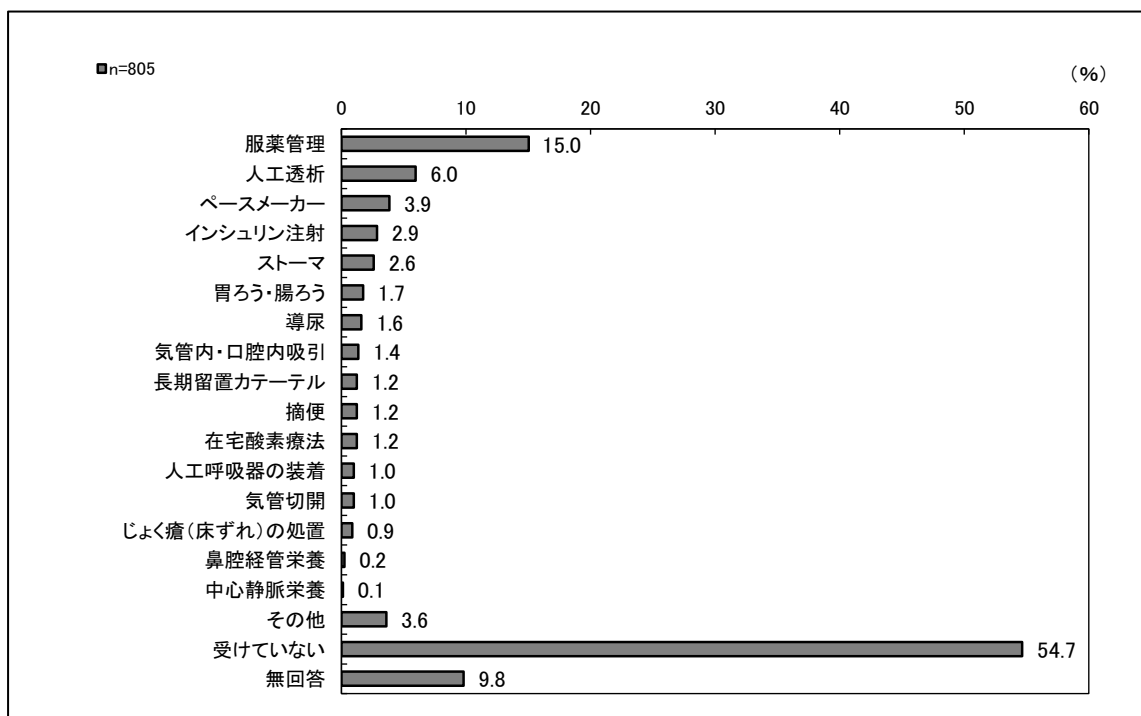
(1) 現在受けている医療的ケア

問 21 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】

- 「服薬管理」が第1位。「受けていない」は54.7%を占める。

現在受けている医療的ケアについてたずねたところ、「服薬管理」(15.0%)が最も多く、次いで「人工透析」(6.0%)、「ペースメーカー」(3.9%)、「インシュリン注射」(2.9%)、「ストーマ」(2.6%)、「胃ろう・腸ろう」(1.7%)、「導尿」(1.6%)、「気管内・口腔内吸引」(1.4%)、「長期留置カテーテル」・「排便」・「在宅酸素療法」(同率 1.2%)、「人工呼吸器の装着」・「気管切開」(同率 1.0%)、「じょく瘡(床ずれ)の処置」(0.9%)、「鼻腔経管栄養」(0.2%)、「中心静脈栄養」(0.1%)となっている。なお、「受けていない」は54.7%となっている。

図表 現在受けている医療的ケア（全体／複数回答）



図表 現在受けている医療的ケア（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		服薬管理 15.0	人工透析 6.0	ペースメーカー 3.9
性別	男性	服薬管理 13.7	人工透析 8.1	ペースメーカー 3.5
	女性	服薬管理 16.4	ペースメーカー 4.1	人工透析 3.6
年齢	10代・20代	服薬管理 17.1	胃ろう・腸ろう 5.3	気管内・口腔内吸引 3.9
	30代	服薬管理 14.8	人工呼吸器の装着 4.5	導尿 3.4
	40代	服薬管理 18.7	胃ろう・腸ろう／インシュリン注射／人工透析 3.3	
	50代	服薬管理 13.6	人工透析 9.6	ストーマ 3.2
	60代	服薬管理 13.4	人工透析 10.2	ペースメーカー 3.7
	70代	服薬管理 13.5	人工透析 6.7	ペースメーカー 5.8
	80歳以上	服薬管理 17.0	ペースメーカー 14.9	長期留置カテーテル／ストーマ 5.3
居住地域	本庁管内	服薬管理 14.9	人工透析 6.9	ペースメーカー 4.9
	嬉野管内	服薬管理 20.5	導尿／ストーマ 4.5	
	三雲管内	服薬管理 14.8	インシュリン注射／人工透析／ペースメーカー 4.9	
	飯南管内	人工透析 10.3	インシュリン注射 6.9	導尿／摘便／胃ろう・腸ろう／在宅酸素療法／ペースメーカー 3.4
	飯高管内	服薬管理 13.0	ストーマ／胃ろう・腸ろう／人工透析 4.3	
	その他	服薬管理 20.0	人工透析 10.0	インシュリン注射 5.0
障がい等の区分	身体	服薬管理 14.3	人工透析 8.7	ペースメーカー 5.6
	知的	服薬管理 15.6	胃ろう・腸ろう 3.2	摘便 2.6
	精神	服薬管理 17.6	ストーマ／インシュリン注射／ペースメーカー 1.0	
	その他	服薬管理 19.4	インシュリン注射 3.0	導尿／ストーマ／胃ろう・腸ろう 1.5

(2) 医療のことで困っていること

問 22 あなたは医療のことで困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】



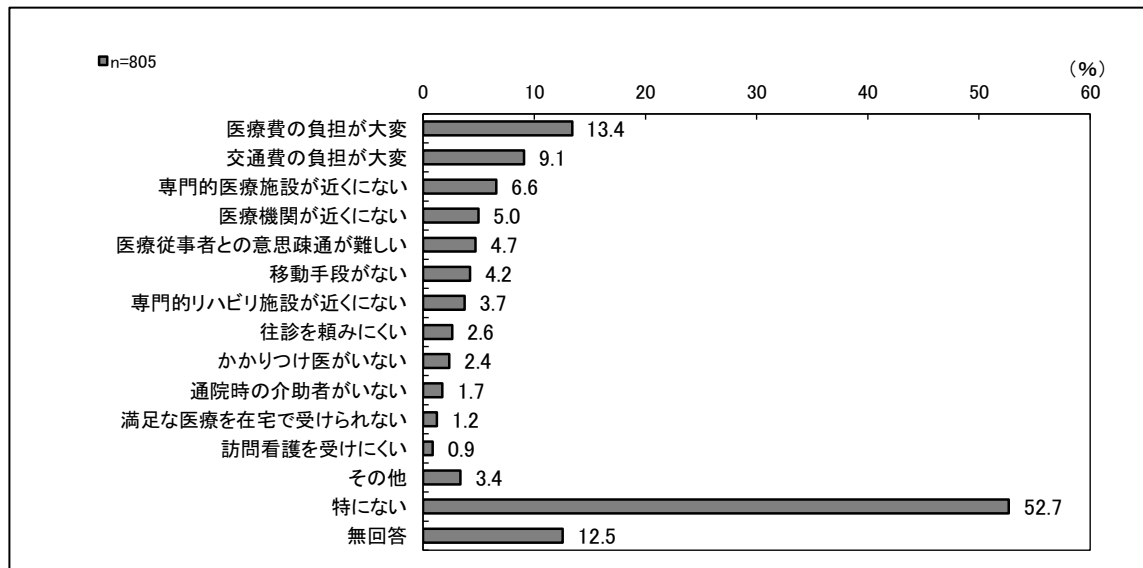
- 「医療費の負担が大変」が第1位。「特にない」は52.7%を占める。

医療のことで困っていることについてたずねたところ、「医療費の負担が大変」(13.4%)が最も多く、次いで「交通費の負担が大変」(9.1%)、「専門的医療施設が近くにない」(6.6%)、「医療機関が近くにない」(5.0%)、「医療従事者との意思疎通が難しい」(4.7%)、「移動手段がない」(4.2%)、「専門的リハビリ施設が近くにない」(3.7%)、「往診を頼みにくい」(2.6%)、「かかりつけ医がいない」(2.4%)、「通院時の介助者がいない」(1.7%)、「満足な医療を在宅で受けられない」(1.2%)、「訪問看護を受けにくい」(0.9%)となっている。なお、「特にない」は52.7%となっている。

年齢でみると、10代・20代では「医療従事者との意思疎通が難しい」、80歳以上では「交通費の負担が大変」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、知的では「医療従事者との意思疎通が難しい」が第1位となっている。

図表 医療のことで困っていること（全体／複数回答）



図表 医療のことで困っていること（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		医療費の負担が大変 13.4	交通費の負担が大変 9.1	専門的医療施設が近くにない 6.6
性別	男性	医療費の負担が大変 13.7	交通費の負担が大変 7.6	専門的医療施設が近くにない 6.5
	女性	医療費の負担が大変 13.2	交通費の負担が大変 10.1	専門的医療施設が近くにない 6.6
年齢	10代・20代	医療従事者との意思疎通が難しい 13.2	専門的医療施設が近くにない 9.2	専門的リハビリ施設が近くにない／医療機関が近くにない／医療費の負担が大変 7.9
	30代	医療費の負担が大変 14.8	医療従事者との意思疎通が難しい 11.4	専門的医療施設が近くにない 10.2
	40代	医療費の負担が大変 20.9	交通費の負担が大変 15.4	移動手段がない 6.6
	50代	医療費の負担が大変 15.2	交通費の負担が大変 9.6	専門的医療施設が近くにない 8.8
	60代	医療費の負担が大変 10.6	交通費の負担が大変 8.3	専門的医療施設が近くにない／医療機関が近くにない 5.1
	70代	医療費の負担が大変 15.4	医療機関が近くにない 4.8	専門的リハビリ施設が近くにない 3.8
	80歳以上	交通費の負担が大変 12.8	医療費の負担が大変 11.7	専門的医療施設が近くにない 7.4
居住地域	本庁管内	医療費の負担が大変 12.9	交通費の負担が大変 8.8	専門的医療施設が近くにない 6.3
	嬉野管内	医療費の負担が大変 17.0	交通費の負担が大変 9.8	専門的医療施設が近くにない 6.3
	三雲管内	医療費の負担が大変 16.4	交通費の負担が大変 11.5	専門的医療施設が近くにない 9.8
	飯南管内	医療機関が近くにない 24.1	専門的医療施設が近くにない／交通費の負担が大変 13.8	
	飯高管内	医療費の負担が大変 13.0	医療機関が近くにない 8.7	専門的医療施設が近くにない／専門的リハビリ施設が近くにない／交通費の負担が大変／移動手段がない／医療従事者との意思疎通が難しい 4.3
	その他	専門的リハビリ施設が近くにない／医療費の負担が大変／交通費の負担が大変 5.0		
障がい等の区分	身体	医療費の負担が大変 11.8	交通費の負担が大変 9.8	専門的医療施設が近くにない 6.5
	知的	医療従事者との意思疎通が難しい 11.0	医療費の負担が大変 9.7	医療機関が近くにない 5.8
	精神	医療費の負担が大変 17.6	交通費の負担が大変 13.7	専門的医療施設が近くにない 8.8
	その他	医療費の負担が大変 29.9	専門的医療施設が近くにない 7.5	交通費の負担が大変 6.0

(3) 歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるか

問 23 歯や口腔の健康について、悩みや困りごとがありますか。(1つに○)



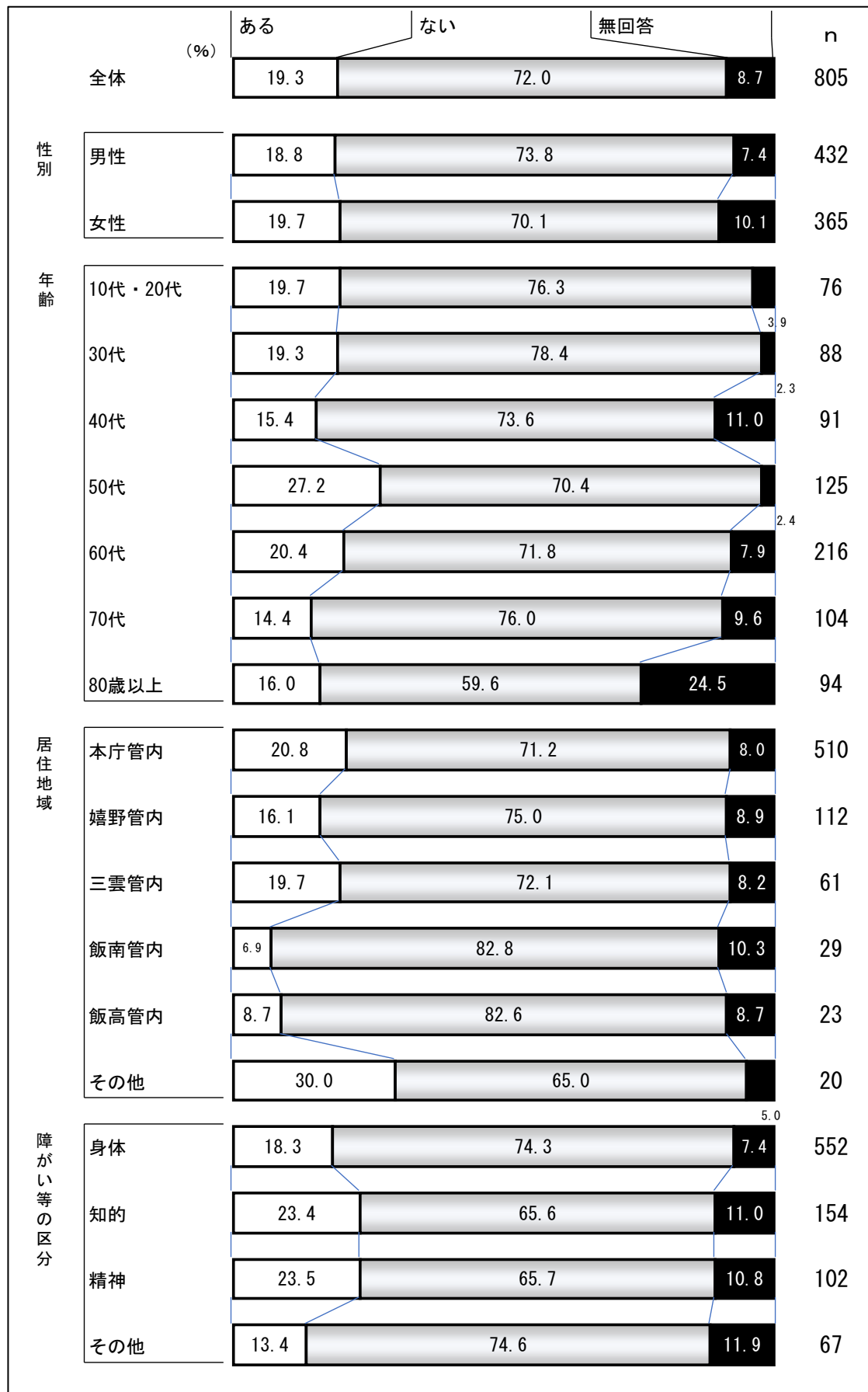
- 「ない」が7割強、「ある」が2割弱を占める。

歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるかたずねたところ、「ない」が72.0%、「ある」が19.3%となっている。

年齢でみると、50代では「ある」が27.2%となっており、他の年齢層よりも高くなっている。

居住地域でみると、飯南管内と飯高管内では「ある」が1割未満となっており、他の地域よりも低くなっている。

図表 歯や口腔の健康についての悩み・困りごとがあるか



7 相談相手について

(1) 悩みや困りごとを相談する人

問 24 あなたは普段、悩みや困ったことを誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

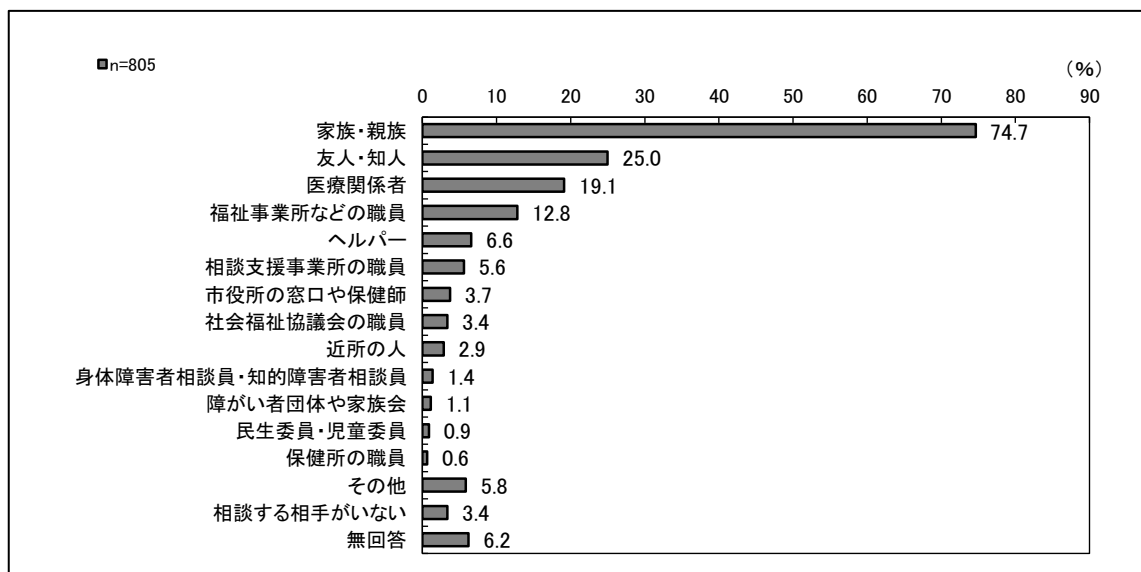


- 「家族・親族」が他を大きく引き離して第1位。

悩みや困りごとを相談する人についてたずねたところ、「家族・親族」(74.7%)が最も多く、次いで「友人・知人」(25.0%)、「医療関係者」(19.1%)、「福祉事業所などの職員」(12.8%)、「ヘルパー」(6.6%)、「相談支援事業所の職員」(5.6%)、「市役所の窓口や保健師」(3.7%)、「社会福祉協議会の職員」(3.4%)、「近所の人」(2.9%)、「身体障害者相談員・知的障害者相談員」(1.4%)、「障がい者団体や家族会」(1.1%)、「民生委員・児童委員」(0.9%)、「保健所の職員」(0.6%)となっている。

いずれの属性でも「家族・親族」が第1位となっている。

図表 悩みや困りごとを相談する人（全体／複数回答）



図表 悩みや困りごとを相談する人（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		家族・親族 74.7	友人・知人 25.0	医療関係者 19.1
性別	男性	家族・親族 73.1	医療関係者 21.8	友人・知人 20.6
	女性	家族・親族 76.4	友人・知人 30.7	医療関係者 16.2
年齢	10代・20代	家族・親族 78.9	友人・知人 31.6	福祉事業所などの職員 25.0
	30代	家族・親族 80.7	友人・知人 38.6	医療関係者 25.0
	40代	家族・親族 73.6	友人・知人 28.6	医療関係者 17.6
	50代	家族・親族 74.4	友人・知人 32.8	医療関係者 20.8
	60代	家族・親族 74.5	友人・知人 21.8	医療関係者 18.1
	70代	家族・親族 74.0	医療関係者 17.3	友人・知人 16.3
	80歳以上	家族・親族 68.1	医療関係者 14.9	福祉事業所などの職員 12.8
居住地域	本庁管内	家族・親族 75.5	友人・知人 25.9	医療関係者 19.8
	嬉野管内	家族・親族 73.2	友人・知人／医療関係者 25.0	
	三雲管内	家族・親族 73.8	友人・知人 24.6	医療関係者 13.1
	飯南管内	家族・親族 79.3	友人・知人 31.0	福祉事業所などの職員 13.8
	飯高管内	家族・親族 82.6	友人・知人 21.7	福祉事業所などの職員 17.4
	その他	家族・親族 70.0	福祉事業所などの職員 30.0	友人・知人／医療関係者 20.0
障がい等の区分	身体	家族・親族 77.0	友人・知人 26.4	医療関係者 19.0
	知的	家族・親族 65.6	福祉事業所などの職員 33.1	医療関係者 16.2
	精神	家族・親族 67.6	医療関係者 25.5	友人・知人 21.6
	その他	家族・親族 77.6	友人・知人 31.3	医療関係者 17.9

(2) 障がいや福祉サービスに関する情報の入手方法

問 25 あなたは、障がいのことや福祉サービスなどに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

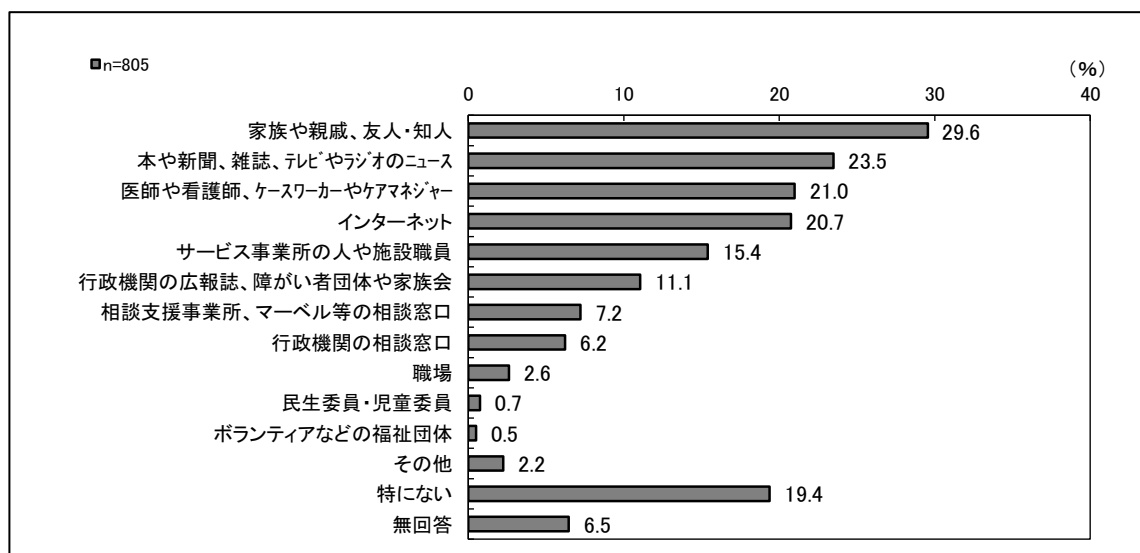
- 「家族や親戚、友人・知人」が第1位。「本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース」、「医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー」、「インターネット」などが続く。

障がいや福祉サービスに関する情報の入手方法についてたずねたところ、「家族や親戚、友人・知人」(29.6%)、「本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース」(23.5%)、「医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー」(21.0%)、「インターネット」(20.7%)、「サービス事業所の人や施設職員」(15.4%)、「行政機関の広報誌、障がい者団体や家族会」(11.1%)、「相談支援事業所、マーベル等の相談窓口」(7.2%)、「行政機関の相談窓口」(6.2%)、「職場」(2.6%)、「民生委員・児童委員」(0.7%)、「ボランティアなどの福祉団体」(0.5%)となっている。なお、「特にない」は19.4%となっている。

年齢でみると、30代～50代では「インターネット」、60代では「医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、身体では「家族や親戚、友人・知人」が第1位となっているのに対し、知的では「サービス事業所の人や施設職員」、精神では「インターネット」、その他では「本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース」が第1位となっている。

図表 障がいや福祉サービスに関する情報の入手方法（全体／複数回答）



図表 障がいや福祉サービスに関する情報の入手方法（全体・属性別－上位第3位／複数回答）
（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		家族や親戚、友人・知人 29.6	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 23.5	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 21.0
性別	男性	家族や親戚、友人・知人 30.1	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 22.9	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 22.7
	女性	家族や親戚、友人・知人 28.8	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 23.8	インターネット 19.2
年齢	10代・20代	家族や親戚、友人・知人 42.1	インターネット 32.9	相談支援事業所、マーベル等の相談窓口 25.0
	30代	インターネット 40.9	家族や親戚、友人・知人 33.0	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 21.6
	40代	インターネット 24.2	家族や親戚、友人・知人 23.1	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 19.8
	50代	インターネット 28.0	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 24.0	家族や親戚、友人・知人 23.2
	60代	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 28.2	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 27.8	家族や親戚、友人・知人 26.9
	70代	家族や親戚、友人・知人 35.6	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 26.0	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 24.0
	80歳以上	家族や親戚、友人・知人／ケースワーカーやケアマネジャー 27.7	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 27.7	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 22.3
居住地域	本庁管内	家族や親戚、友人・知人 28.4	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 24.1	インターネット 22.7
	嬉野管内	家族や親戚、友人・知人 33.0	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 25.9	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 25.0
	三雲管内	家族や親戚、友人・知人 37.7	インターネット 21.3	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 18.0
	飯南管内	家族や親戚、友人・知人 41.4	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 34.5	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 24.1
	飯高管内	家族や親戚、友人・知人／ケースワーカーやケアマネジャー 26.1	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 26.1	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 21.7
	その他	サービス事業所の人や施設職員 25.0	インターネット／家族や親戚、友人・知人／医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 20.0	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 20.0
障がい等の区分	身体	家族や親戚、友人・知人 29.7	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 24.8	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 21.9
	知的	サービス事業所の人や施設職員 33.1	家族や親戚、友人・知人 31.2	相談支援事業所、マーベル等の相談窓口 18.8
	精神	インターネット 28.4	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 27.5	家族や親戚、友人・知人 21.6
	その他	本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース 37.3	家族や親戚、友人・知人 35.8	インターネット／医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー 25.4

(3) 特に充実してほしい情報

問 26 今後、特に充実してほしい情報は何か。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



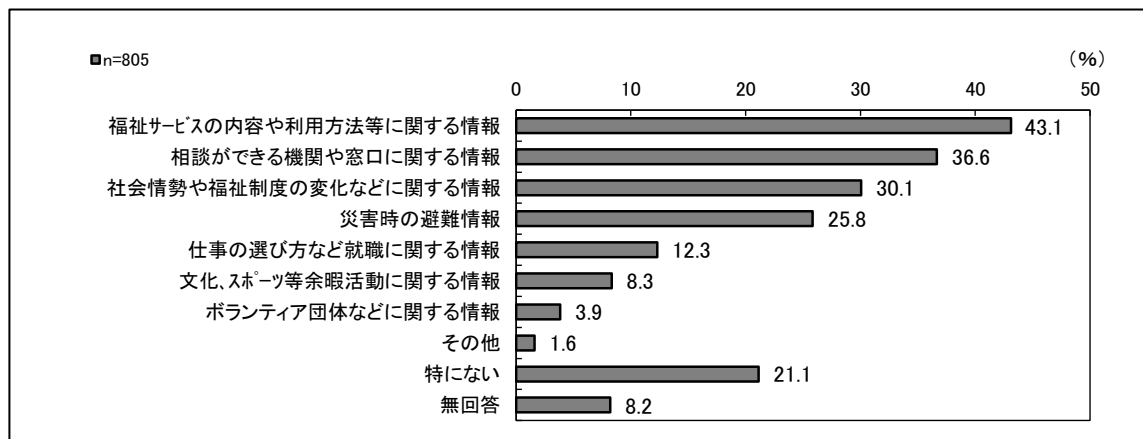
- 「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」が第1位。「相談ができる機関や窓口に関する情報」、「社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報」などが続く。

特に充実してほしい情報についてたずねたところ、「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」(43.1%)が最も多く、次いで「相談ができる機関や窓口に関する情報」(36.6%)、「社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報」(30.1%)、「災害時の避難情報」(25.8%)、「仕事の選び方など就職に関する情報」(12.3%)、「文化、スポーツ等余暇活動に関する情報」(8.3%)、「ボランティア団体などに関する情報」(3.9%)となっている。なお、「特にない」は21.1%となっている。

年齢でみると、10代・20代では「相談ができる機関や窓口に関する情報」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、精神では「相談ができる機関や窓口に関する情報」が第1位となっている。

図表 特に充実してほしい情報（全体／複数回答）



図表 特に充実してほしい情報（全体・属性別一上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 43.1	相談ができる機関や窓口に関する情報 36.6	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 30.1
性別	男性	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 43.8	相談ができる機関や窓口に関する情報 36.8	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 31.7
	女性	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 41.9	相談ができる機関や窓口に関する情報 35.9	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 28.2
年齢	10代・20代	相談ができる機関や窓口に関する情報 46.1	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 36.8	災害時の避難情報 32.9
	30代	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 55.7	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 42.0	相談ができる機関や窓口に関する情報 40.9
	40代	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 37.4	相談ができる機関や窓口に関する情報 33.0	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 30.8
	50代	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 45.6	相談ができる機関や窓口に関する情報 34.4	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 32.0
	60代	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 44.4	相談ができる機関や窓口に関する情報 37.5	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 30.6
	70代	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 41.3	相談ができる機関や窓口に関する情報 38.5	災害時の避難情報 28.8
	80歳以上	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 37.2	相談ができる機関や窓口に関する情報 25.5	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報／災害時の避難情報 19.1
居住地域	本庁管内	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 42.4	相談ができる機関や窓口に関する情報 35.9	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 32.7
	嬉野管内	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 49.1	相談ができる機関や窓口に関する情報 39.3	災害時の避難情報 27.7
	三雲管内	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 47.5	相談ができる機関や窓口に関する情報 42.6	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報／災害時の避難情報 34.4
	飯南管内	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 51.7	相談ができる機関や窓口に関する情報 48.3	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報／災害時の避難情報 27.6
	飯高管内	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 39.1	相談ができる機関や窓口に関する情報 30.4	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 26.1
	その他	災害時の避難情報 40.0	相談ができる機関や窓口に関する情報 30.0	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報／福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報／仕事の選び方など就職に関する情報 20.0
障がい等の区分	身体	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 45.8	相談ができる機関や窓口に関する情報 34.6	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報 30.1
	知的	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 42.9	相談ができる機関や窓口に関する情報 39.0	災害時の避難情報 27.3
	精神	相談ができる機関や窓口に関する情報 36.3	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 29.4	仕事の選び方など就職に関する情報 26.5
	その他	福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 37.3	社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報／相談ができる機関や窓口に関する情報 32.8	

8 災害時の避難などについて

(1) 災害時に一人で避難できるか

問 27 あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。(1 つに○)



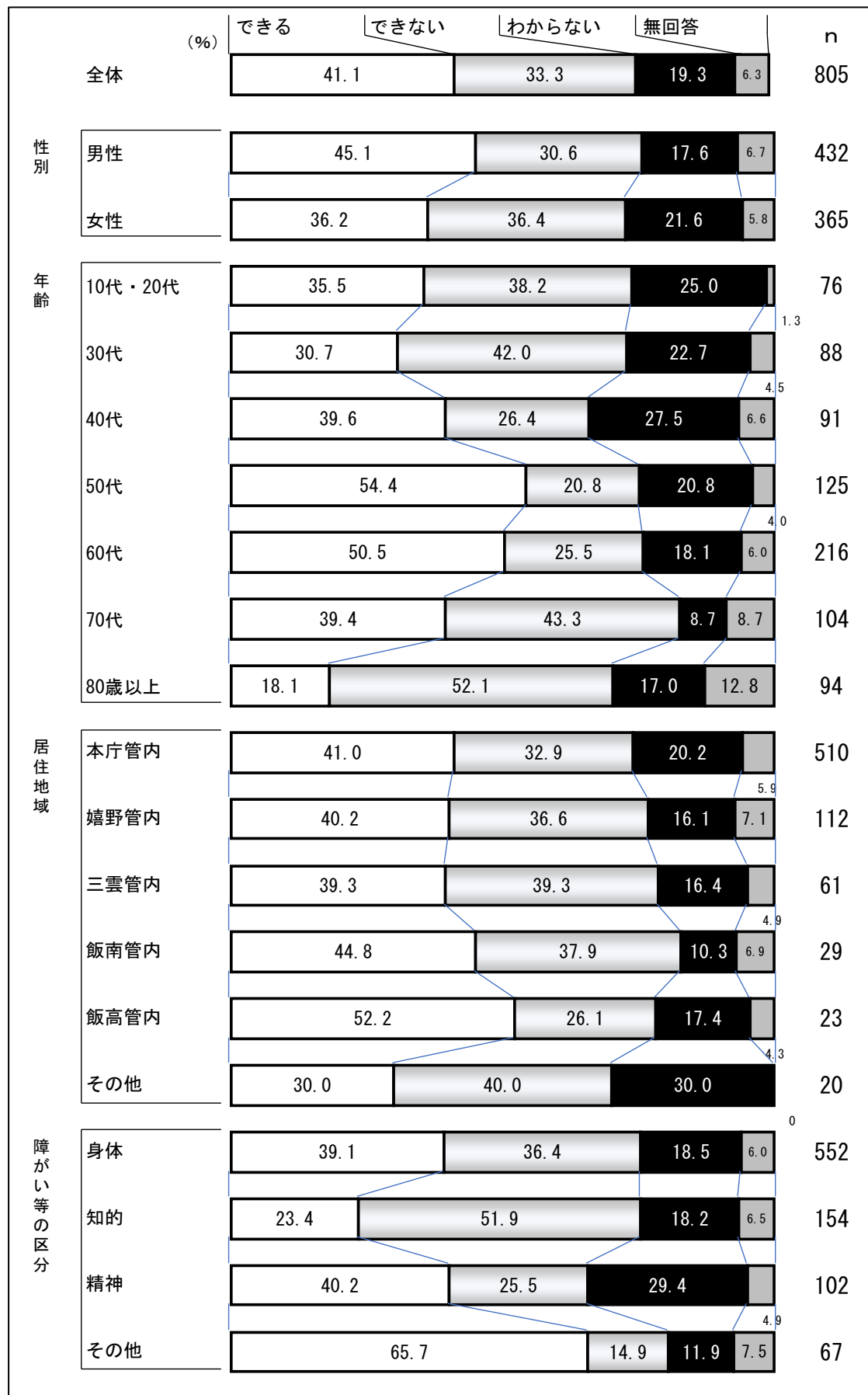
- 「できる」が4割強、「できない」が3割強を占める。

災害時に一人で避難できるかたずねたところ、「できる」が41.1%、「できない」が33.3%、「わからない」が19.3%となっている。

年齢でみると、50代と60代では「できる」が5割以上を占めている。

障がい等の区分でみると、知的では「できない」が5割強を占めている。

図表 災害時に一人で避難できるか



(2) 災害が起きた際に頼れる人

問 28 地震や台風などの大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人は誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

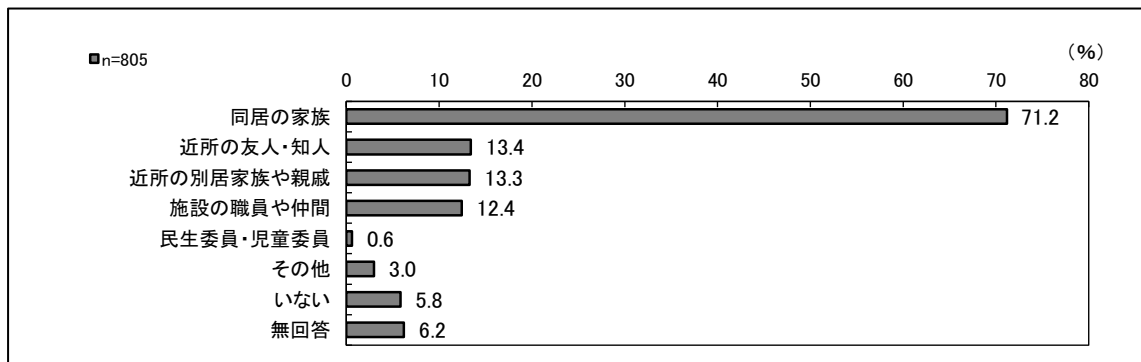


- 「同居の家族」が他を大きく引き離して第1位。

災害が起きた際に頼れる人についてたずねたところ、「同居の家族」(71.2%)が最も多く、次いで「近所の友人・知人」(13.4%)、「近所の別居家族や親戚」(13.3%)、「施設の職員や仲間」(12.4%)、「民生委員・児童委員」(0.6%)となっている。

いずれの属性でも「同居の家族」が第1位となっている。

図表 災害が起きた際に頼れる人（全体／複数回答）



図表 災害が起きた際に頼れる人（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		同居の家族 71.2	近所の友人・知人 13.4	近所の別居家族や親戚 13.3
性別	男性	同居の家族 71.3	近所の友人・知人 13.4	施設の職員や仲間 10.4
	女性	同居の家族 70.7	近所の別居家族や親戚 17.3	施設の職員や仲間 15.1
年齢	10代・20代	同居の家族 90.8	施設の職員や仲間 18.4	近所の別居家族や親戚 9.2
	30代	同居の家族 81.8	近所の友人・知人 18.2	近所の別居家族や親戚／ 施設の職員や仲間 14.8
	40代	同居の家族 75.8	近所の別居家族や親戚／施設の職員や仲間 13.2	
	50代	同居の家族 63.2	近所の友人・知人 16.0	近所の別居家族や親戚 14.4
	60代	同居の家族 70.8	近所の別居家族や親戚 15.7	近所の友人・知人 13.4
	70代	同居の家族 65.4	近所の友人・知人 18.3	近所の別居家族や親戚／ 施設の職員や仲間 13.5
	80歳以上	同居の家族 56.4	施設の職員や仲間 17.0	近所の別居家族や親戚／ 近所の友人・知人 6.4
居住地域	本庁管内	同居の家族 71.2	近所の別居家族や親戚 13.5	近所の友人・知人 13.3
	嬉野管内	同居の家族 70.5	近所の別居家族や親戚 14.3	施設の職員や仲間 12.5
	三雲管内	同居の家族 77.0	近所の別居家族や親戚 14.8	施設の職員や仲間 13.1
	飯南管内	同居の家族 75.9	近所の友人・知人 34.5	近所の別居家族や親戚 13.8
	飯高管内	同居の家族 73.9	近所の友人・知人 26.1	施設の職員や仲間 21.7
	その他	同居の家族 60.0	施設の職員や仲間 20.0	近所の別居家族や親戚／ 近所の友人・知人 10.0
障がい等の区分	身体	同居の家族 71.4	近所の友人・知人 15.0	近所の別居家族や親戚 14.7
	知的	同居の家族 70.1	施設の職員や仲間 35.1	近所の別居家族や親戚 3.9
	精神	同居の家族 60.8	近所の別居家族や親戚／施設の職員や仲間 10.8	
	その他	同居の家族 79.1	近所の友人・知人 23.9	近所の別居家族や親戚 17.9

(3) 災害時に困ること

問 29 火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】



- 「避難場所の設備や生活環境が不安」が第1位。「投薬や治療が受けられない」、「迅速に避難することができない」などが続く。

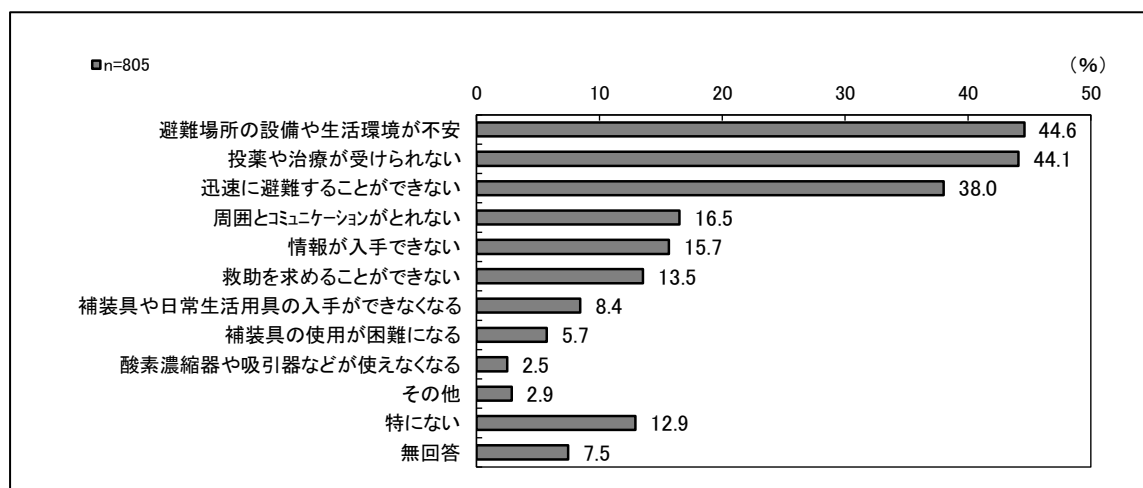
災害時に困ることについてたずねたところ、「避難場所の設備や生活環境が不安」(44.6%)が最も多く、次いで「投薬や治療が受けられない」(44.1%)、「迅速に避難することができない」(38.0%)、「周囲とコミュニケーションがとれない」(16.5%)、「情報が入手できない」(15.7%)、「救助を求めることができない」(13.5%)、「補装具や日常生活用具の入手ができなくなる」(8.4%)、「補装具の使用が困難になる」(5.7%)、「酸素濃縮器や吸引器などが使えなくなる」(2.5%)の順となっている。なお、「特にない」は12.9%となっている。

性別でみると、男性では「投薬や治療が受けられない」が第1位となっているのに対し、女性では「避難場所の設備や生活環境が不安」が第1位となっている。

年齢でみると、50代以下では「避難場所の設備や生活環境が不安」が第1位となっているのに対し、60代以上では「投薬や治療が受けられない」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、知的では「迅速に避難することができない」が第1位となっている。

図表 災害時に困ること（全体／複数回答）



図表 災害時に困ること（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		避難場所の設備や生活環境が不安 44.6	投薬や治療が受けられない 44.1	迅速に避難することができない 38.0
性別	男性	投薬や治療が受けられない 43.1	避難場所の設備や生活環境が不安 40.3	迅速に避難することができない 35.2
	女性	避難場所の設備や生活環境が不安 50.1	投薬や治療が受けられない 45.5	迅速に避難することができない 40.8
年齢	10代・20代	避難場所の設備や生活環境が不安 59.2	投薬や治療が受けられない／迅速に避難することができない 40.8	
	30代	避難場所の設備や生活環境が不安 45.5	投薬や治療が受けられない／迅速に避難することができない 39.8	
	40代	避難場所の設備や生活環境が不安 46.2	投薬や治療が受けられない 39.6	迅速に避難することができない 35.2
	50代	避難場所の設備や生活環境が不安 49.6	投薬や治療が受けられない 41.6	迅速に避難することができない 32.8
	60代	投薬や治療が受けられない 47.2	避難場所の設備や生活環境が不安 41.2	迅速に避難することができない 35.2
	70代	投薬や治療が受けられない 46.2	迅速に避難することができない／避難場所の設備や生活環境が不安 40.4	
	80歳以上	投薬や治療が受けられない 47.9	迅速に避難することができない 46.8	避難場所の設備や生活環境が不安 39.4
居住地域	本庁管内	避難場所の設備や生活環境が不安 46.1	投薬や治療が受けられない 45.5	迅速に避難することができない 38.6
	嬉野管内	避難場所の設備や生活環境が不安 46.4	投薬や治療が受けられない 42.9	迅速に避難することができない 36.6
	三雲管内	投薬や治療が受けられない／迅速に避難することができない 42.6		避難場所の設備や生活環境が不安 39.3
	飯南管内	迅速に避難することができない 44.8	投薬や治療が受けられない／避難場所の設備や生活環境が不安 34.5	
	飯高管内	避難場所の設備や生活環境が不安 47.8	投薬や治療が受けられない／迅速に避難することができない 30.4	
	その他	投薬や治療が受けられない 75.0	避難場所の設備や生活環境が不安 55.0	迅速に避難することができない 30.0
障がい等の区分	身体	避難場所の設備や生活環境が不安 45.1	投薬や治療が受けられない 44.2	迅速に避難することができない 40.9
	知的	迅速に避難することができない／避難場所の設備や生活環境が不安 46.8		周囲とコミュニケーションがとれない 39.0
	精神	投薬や治療が受けられない 56.9	避難場所の設備や生活環境が不安 35.3	迅速に避難することができない 18.6
	その他	投薬や治療が受けられない 53.7	避難場所の設備や生活環境が不安 49.3	迅速に避難することができない 26.9

(4) 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み

問 30 災害に備えて、市はどのようなことに力を入れる必要がありますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

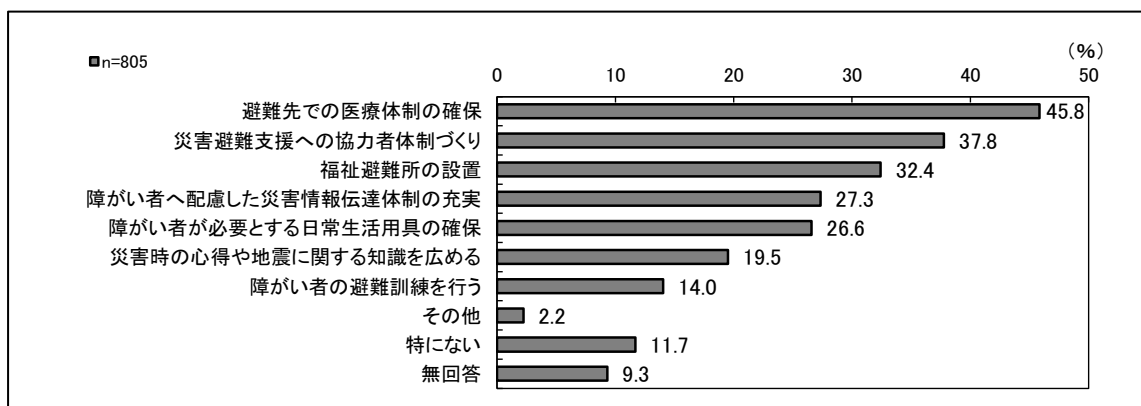
- 「避難先での医療体制の確保」が第1位。「災害避難支援への協力者体制づくり」、「福祉避難所の設置」などが続く。

災害に備えて市が力を入れるべき取り組みについてたずねたところ、「避難先での医療体制の確保」(45.8%)が最も多く、次いで「災害避難支援への協力者体制づくり」(37.8%)、「福祉避難所の設置」(32.4%)、「障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実」(27.3%)、「障がい者が必要とする日常生活用具の確保」(26.6%)、「災害時の心得や地震に関する知識を広める」(19.5%)、「障がい者の避難訓練を行う」(14.0%)となっている。なお、「特にない」は11.7%となっている。

年齢でみると、10代・20代では「災害避難支援への協力者体制づくり」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、知的では「福祉避難所の設置」が第1位となっている。

図表 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み（全体／複数回答）



図表 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		避難先での医療体制の確保 45.8	災害避難支援への協力者体制づくり 37.8	福祉避難所の設置 32.4
性別	男性	避難先での医療体制の確保 45.6	災害避難支援への協力者体制づくり 33.3	福祉避難所の設置 32.2
	女性	避難先での医療体制の確保 46.3	災害避難支援への協力者体制づくり 42.7	福祉避難所の設置 32.9
年齢	10代・20代	災害避難支援への協力者体制づくり 46.1	福祉避難所の設置 44.7	避難先での医療体制の確保 43.4
	30代	福祉避難所の設置／避難先での医療体制の確保 44.3		災害避難支援への協力者体制づくり 43.2
	40代	避難先での医療体制の確保 39.6	災害避難支援への協力者体制づくり 36.3	障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実 35.2
	50代	避難先での医療体制の確保 48.0	災害避難支援への協力者体制づくり 36.0	福祉避難所の設置 33.6
	60代	避難先での医療体制の確保 48.6	災害避難支援への協力者体制づくり 34.3	福祉避難所の設置 30.1
	70代	避難先での医療体制の確保 50.0	災害避難支援への協力者体制づくり 39.4	障がい者が必要とする日常生活用具の確保 26.9
	80歳以上	避難先での医療体制の確保 43.6	災害避難支援への協力者体制づくり 36.2	障がい者が必要とする日常生活用具の確保 31.9
居住地域	本庁管内	避難先での医療体制の確保 48.2	災害避難支援への協力者体制づくり 37.5	福祉避難所の設置 32.5
	嬉野管内	避難先での医療体制の確保 45.5	福祉避難所の設置 38.4	災害避難支援への協力者体制づくり 37.5
	三雲管内	避難先での医療体制の確保 45.9	災害避難支援への協力者体制づくり 39.3	福祉避難所の設置 32.8
	飯南管内	災害避難支援への協力者体制づくり 58.6	障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実 37.9	避難先での医療体制の確保 31.0
	飯高管内	災害避難支援への協力者体制づくり 43.5	避難先での医療体制の確保 34.8	障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実 21.7
	その他	避難先での医療体制の確保 50.0	災害避難支援への協力者体制づくり／福祉避難所の設置 40.0	
障がい等の区分	身体	避難先での医療体制の確保 48.0	災害避難支援への協力者体制づくり 37.1	福祉避難所の設置 31.3
	知的	福祉避難所の設置 45.5	災害避難支援への協力者体制づくり 44.8	避難先での医療体制の確保 35.7
	精神	避難先での医療体制の確保 42.2	災害避難支援への協力者体制づくり 29.4	福祉避難所の設置 24.5
	その他	避難先での医療体制の確保 52.2	災害避難支援への協力者体制づくり／福祉避難所の設置 34.3	

9 障がいのある人に対する理解、権利擁護について

(1) 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか

問 31 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思いますか。(1 つに○)

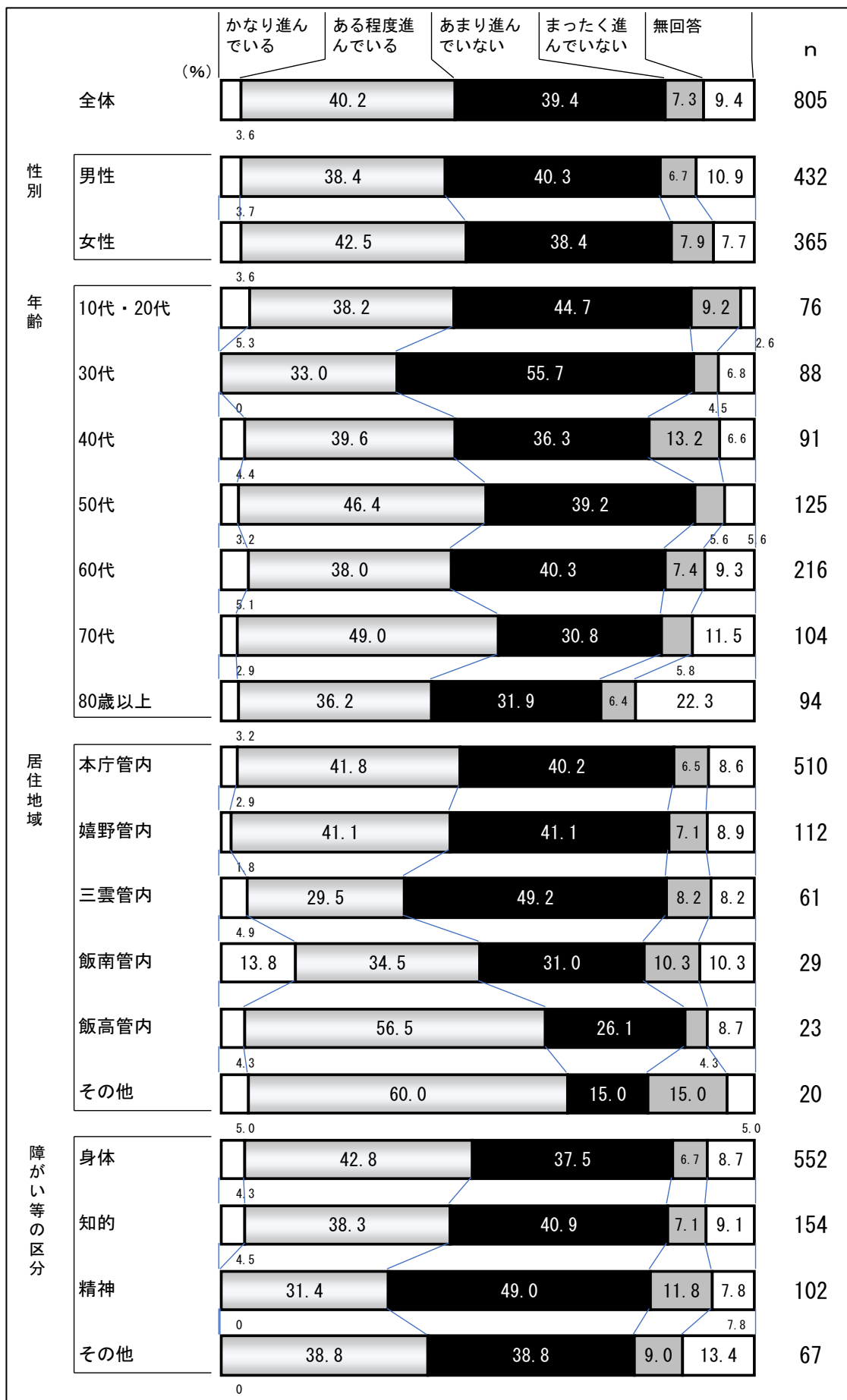


- “進んでいない” が “進んでいる” をわずかに上回る。

障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うかたずねたところ、「かなり進んでいる」(3.6%)と「ある程度進んでいる」(40.2%)を合わせた“進んでいる”が43.8%、「あまり進んでいない」(39.4%)と「まったく進んでいない」(7.3%)を合わせた“進んでいない”が46.7%となっている。

居住地域でみると、飯南管内と飯高管内では“進んでいる”が“進んでいない”を上回っている。

図表 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか



(2) 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか

問 32 日頃の生活の中で、差別や偏見を感じることはありますか。(1つに○)



- “感じない” が5割強、“感じる” が4割強を占める。

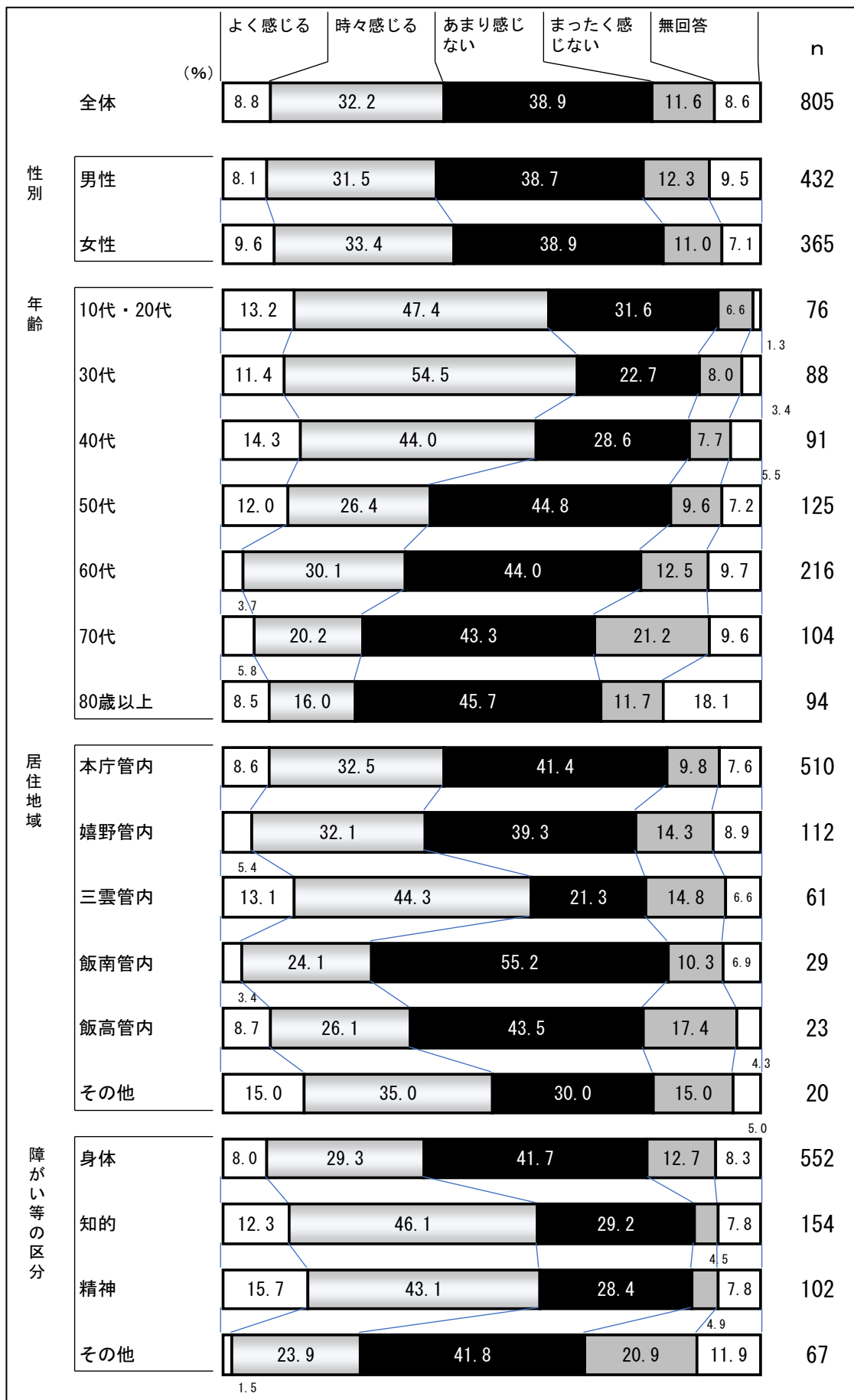
日常生活で差別や偏見を感じることはあるかたずねたところ、「よく感じる」(8.8%)と「時々感じる」(32.2%)を合わせた“感じる”が41.0%、「あまり感じない」(38.9%)と「まったく感じない」(11.6%)を合わせた“感じない”が50.5%となっている。

年齢でみると、若年層ほど“感じる”と回答している割合が高くなる傾向がうかがえ、30代では65.9%となっている。

居住地域でみると、三雲管内では“感じる”が57.4%となっている。

障がい等の区分でみると、知的、精神では“感じる”と回答している割合が他よりも高くなっており、ともに6割程度を占めている。

図表 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか



(3) 差別や偏見を感じる場面

【問 32-1 は、問 32 で「1. よく感じる」、「2. 時々感じる」に○をつけた方にうかがいます】

問 32-1 どのような点（場面）で差別や偏見を感じますか。（あてはまるものすべてに○）【複数回答】



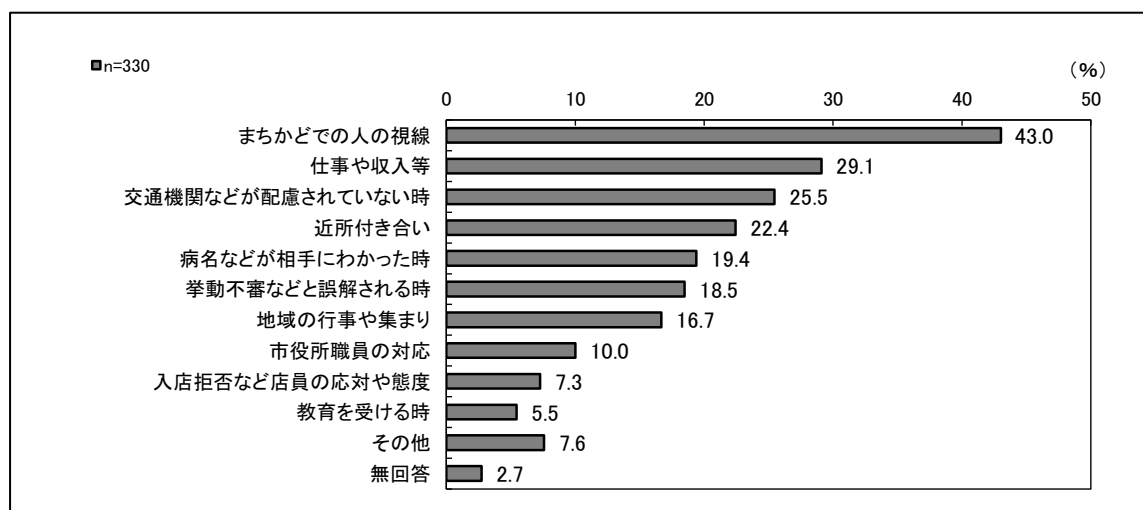
- 「まちかどでの人の視線」が第1位。「仕事や収入等」、「交通機関などが配慮されていない時」、「近所づきあい」などが続く。

差別や偏見を感じる場面についてたずねたところ、「まちかどでの人の視線」（43.0%）が最も多く、次いで「仕事や収入等」（29.1%）、「交通機関などが配慮されていない時」（25.5%）、「近所付き合い」（22.4%）、「病名などが相手にわかった時」（19.4%）、「挙動不審などと誤解される時」（18.5%）、「地域の行事や集まり」（16.7%）、「市役所職員の対応」（10.0%）、「入店拒否など店員の対応や態度」（7.3%）、「教育を受ける時」（5.5%）となっている。

年齢でみると、50代では「仕事や収入等」が第1位となっている。70代では「近所付き合い」と「地域の行事や集まり」が同率で第1位となっている。80歳以上では「地域の行事や集まり」と「まちかどでの人の視線」が第1位となっている。

障がい等の区分でみると、身体と知的では「まちかどでの人の視線」が第1位となっているのに対し、精神では「仕事や収入等」、その他では「病名などが相手にわかった時」が第1位となっている。

図表 差別や偏見を感じる場面（全体／複数回答）



図表 差別や偏見を感じる場面（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		まちかどでの人の視線 43.0	仕事や収入等 29.1	交通機関などが配慮されていない時 25.5
性別	男性	まちかどでの人の視線 43.9	仕事や収入等 33.3	交通機関などが配慮されていない時 25.7
	女性	まちかどでの人の視線 42.0	交通機関などが配慮されていない時 24.8	仕事や収入等 24.2
年齢	10代・20代	まちかどでの人の視線 54.3	仕事や収入等 41.3	挙動不審などと誤解される時 39.1
	30代	まちかどでの人の視線 41.4	仕事や収入等 36.2	交通機関などが配慮されていない時 25.9
	40代	まちかどでの人の視線 50.9	仕事や収入等 28.3	挙動不審などと誤解される時 28.3
	50代	仕事や収入等 39.6	まちかどでの人の視線 33.3	病名などが相手にわかった時 31.3
	60代	まちかどでの人の視線 45.2	交通機関などが配慮されていない時 34.2	近所付き合い 27.4
	70代	近所付き合い／地域の行事や集まり 29.6		まちかどでの人の視線 25.9
	80歳以上	地域の行事や集まり／まちかどでの人の視線 39.1		交通機関などが配慮されていない時 30.4
居住地域	本庁管内	まちかどでの人の視線 42.4	仕事や収入等 30.5	交通機関などが配慮されていない時 27.1
	嬉野管内	まちかどでの人の視線 50.0	交通機関などが配慮されていない時 31.0	仕事や収入等 23.8
	三雲管内	まちかどでの人の視線 45.7	地域の行事や集まり 25.7	近所付き合い 22.9
	飯南管内	仕事や収入等 75.0	まちかどでの人の視線 50.0	地域の行事や集まり／交通機関などが配慮されていない時 25.0
	飯高管内	まちかどでの人の視線 50.0	近所付き合い 37.5	地域の行事や集まり／挙動不審などと誤解される時 25.0
	その他	近所付き合い／まちかどでの人の視線 30.0		仕事や収入等／地域の行事や集まり／交通機関などが配慮されていない時 20.0
障がい等の区分	身体	まちかどでの人の視線 46.1	交通機関などが配慮されていない時 30.6	仕事や収入等 25.2
	知的	まちかどでの人の視線 54.4	挙動不審などと誤解される時 27.8	仕事や収入等 26.7
	精神	仕事や収入等 36.7	病名などが相手にわかった時 35.0	挙動不審などと誤解される時 26.7
	その他	病名などが相手にわかった時 52.9	仕事や収入等 41.2	まちかどでの人の視線／交通機関などが配慮されていない時 35.3

(4) 成年後見制度の認知度

問 33 成年後見制度についてご存知ですか。(1 つに○)



- 「名前も内容も知らない」、「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」がともに3割強を占める。「名前も内容も知っている」は3割弱を占める。

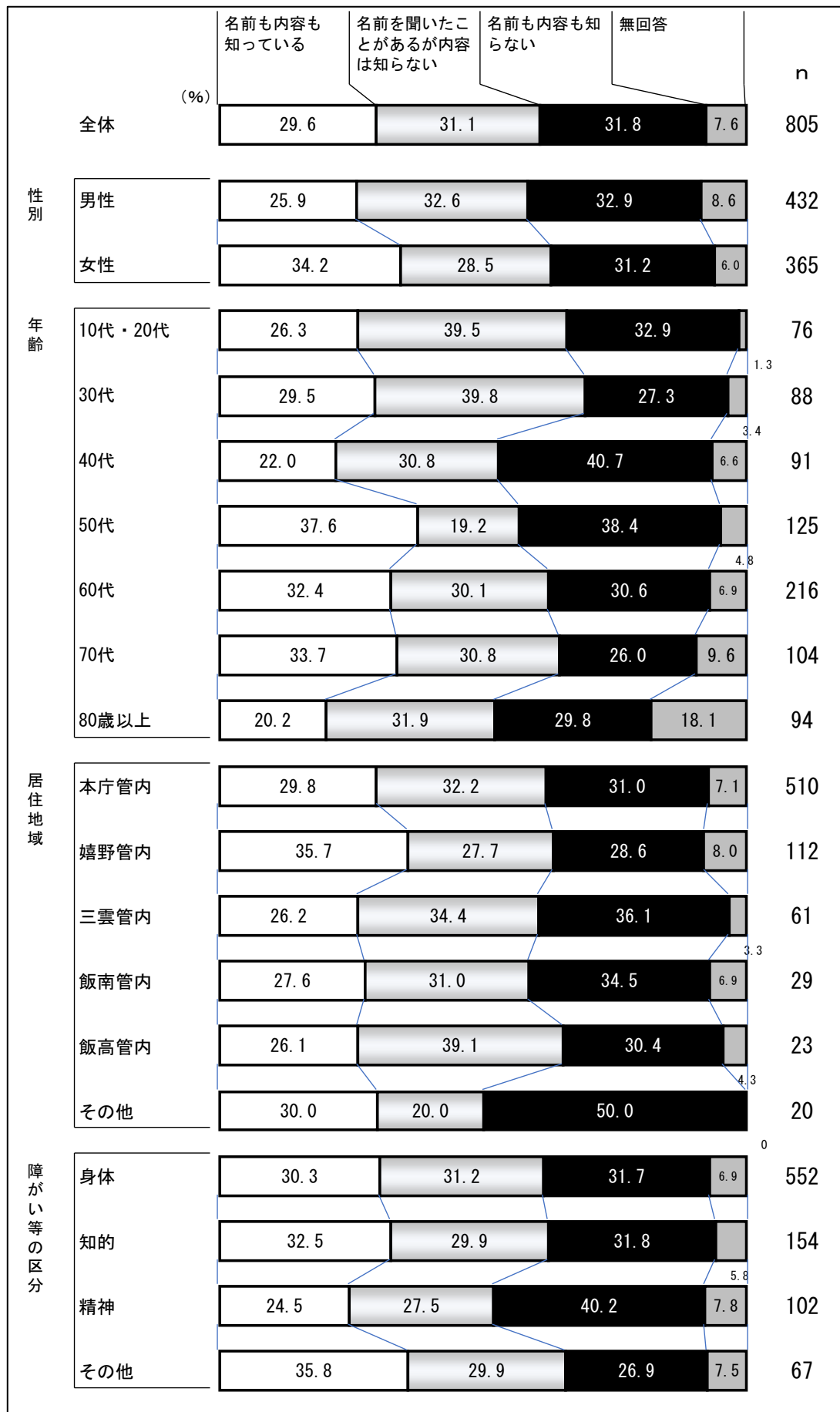
成年後見制度を知っているかたずねたところ、「名前も内容も知らない」が 31.8%、「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が 31.1%、「名前も内容も知っている」が 29.6% となっている。

性別でみると、女性では「名前も内容も知っている」が 34.2%となっており、男性の 25.9%を上回っている。

年齢でみると、50 代～70 代では「名前も内容も知っている」がいずれも3割台を占めている。

障がいの区分でみると、精神では「名前も内容も知らない」が4割強を占めており、他よりも高くなっている。

図表 成年後見制度の認知度



(5) 成年後見制度の利用意向

問 34 成年後見制度を利用したいと思いますか。(○は1つ)



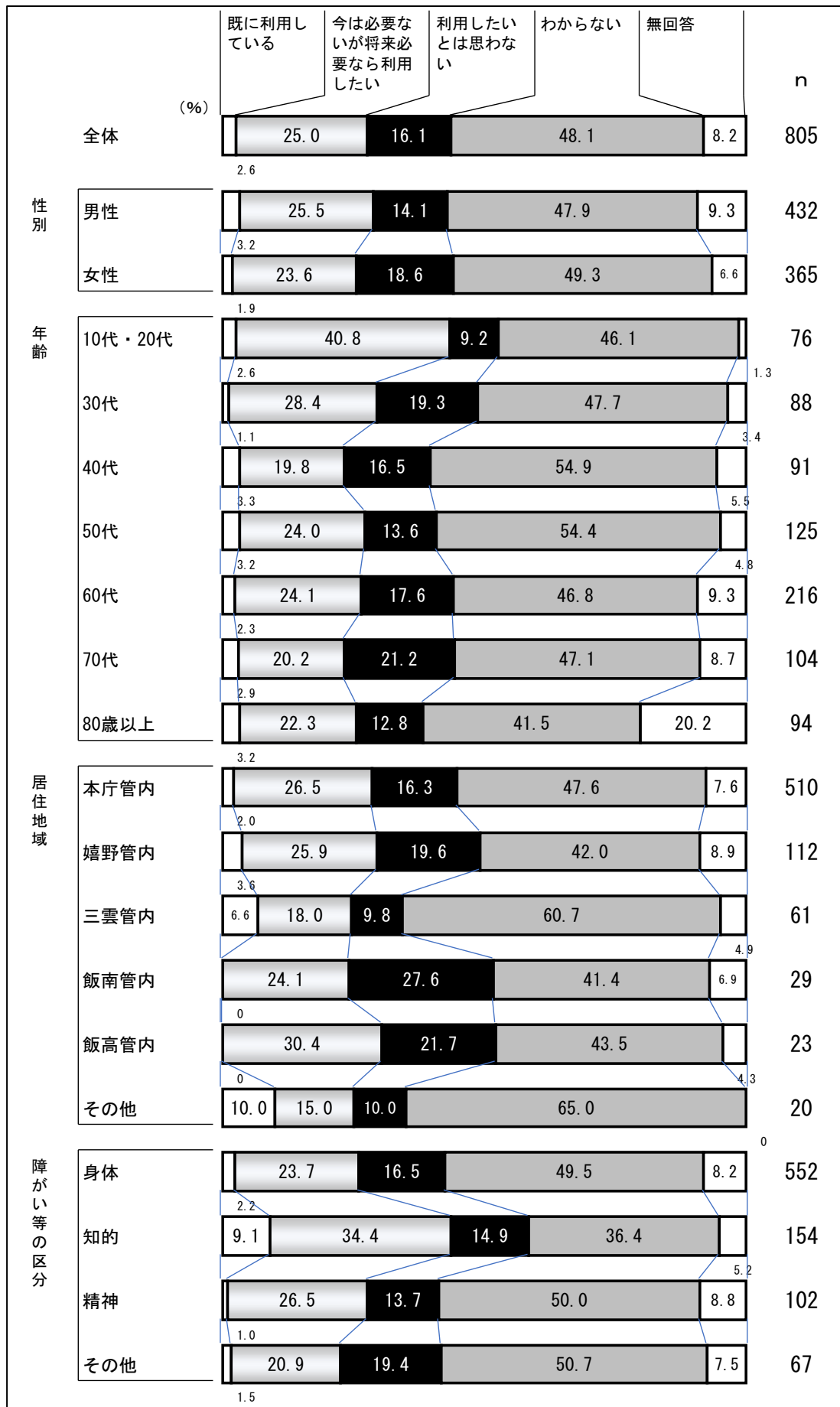
- 「今は必要ないが将来必要なら利用したい」が3割弱を占める。なお、「わからない」が5割弱を占める。

成年後見制度を利用したいかたずねたところ、「今は必要ないが将来必要なら利用したい」が25.0%、「利用したいとは思わない」が16.1%、「既に利用している」が2.6%となっている。なお、「わからない」は48.1%となっている。

年齢でみると、10代・20代では「今は必要ないが将来必要なら利用したい」が40.8%を占めている。

居住地域でみると、飯南管内と飯高管内では「利用したいとは思わない」が2割台を占めており、他の地域よりも高くなっている。

図表 成年後見制度の利用意向



10 市の取り組みについて

(1) 市が取り組むべき施策

問 35 障がいのある人もない人も、ともに住みやすいまちづくりを進めるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



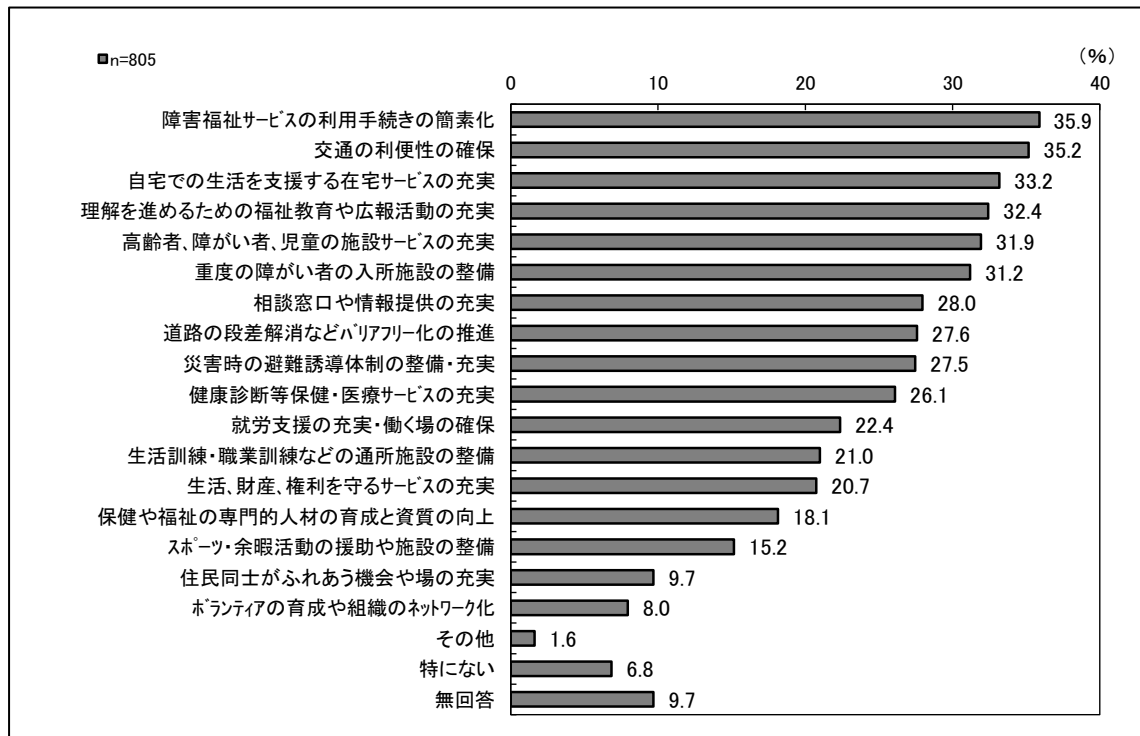
- 「障害福祉サービスの利用手続きの簡素化」が第1位。「交通の利便性の確保」、「自宅での生活を支援する在宅サービスの充実」などが続く。

市が取り組むべき施策についてたずねたところ、「障害福祉サービスの利用手続きの簡素化」(35.9%)が最も多く、次いで「交通の利便性の確保」(35.2%)、「自宅での生活を支援する在宅サービスの充実」(33.2%)、「理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実」(32.4%)、「高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実」(31.9%)、「重度の障がい者の入所施設の整備」(31.2%)、「相談窓口や情報提供の充実」(28.0%)、「道路の段差解消などバリアフリー化の推進」(27.6%)、「災害時の避難誘導體制の整備・充実」(27.5%)、「健康診断等保健・医療サービスの充実」(26.1%)、「就労支援の充実・働く場の確保」(22.4%)、「生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備」(21.0%)、「生活、財産、権利を守るサービスの充実」(20.7%)、「保健や福祉の専門的人材の育成と資質の向上」(18.1%)、「スポーツ・余暇活動の援助や施設の整備」(15.2%)、「住民同士がふれあう機会や場の充実」(9.7%)、「ボランティアの育成や組織のネットワーク化」(8.0%)となっている。なお、「特にない」は6.8%となっている。

年齢でみると、10代・20代では「理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実」、30代、40代では「障害福祉サービスの利用手続きの簡素化」が第1位となっている。50代から70代では「交通の利便性の確保」、80歳以上では「自宅での生活を支援する在宅サービスの充実」が第1位となっている。

居住地域でみると、飯南管内と飯高管内では「交通の利便性の確保」が第1位となっている。

図表 市が取り組むべき施策（全体／複数回答）



図表 市が取り組むべき施策（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 35.9	交通の利便性の確保 35.2	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実 33.2
性別	男性	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 36.8	交通の利便性の確保 35.9	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 32.6
	女性	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 34.5	交通の利便性の確保 34.0	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実 33.7
年齢	10代・20代	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 48.7	生活、財産、権利を守るサービスの充実 38.2	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実／就労支援の充実・働く場の確保／災害時の避難誘導体制の整備・充実／相談窓口や情報提供の充実 36.8
	30代	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 54.5	交通の利便性の確保 46.6	相談窓口や情報提供の充実 46.6
	40代	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 39.6	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 38.5	健康診断等保健・医療サービスの充実／就労支援の充実・働く場の確保 33.0
	50代	交通の利便性の確保 36.0	重度の障がい者の入所施設の整備／道路の段差解消などバリアフリー化の推進／障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 31.2	
	60代	交通の利便性の確保／障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 38.0	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実 35.6	
	70代	交通の利便性の確保 37.5	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実／重度の障がい者の入所施設の整備 35.6	
	80歳以上	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実 41.5	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 30.9	重度の障がい者の入所施設の整備 27.7
居住地域	本庁管内	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 36.9	交通の利便性の確保 36.1	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実 35.3
	嬉野管内	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 41.1	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／自宅での生活を支援する在宅サービスの充実／交通の利便性の確保 34.8	
	三雲管内	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 37.7	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 36.1	
	飯南管内	交通の利便性の確保 55.2	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実／重度の障がい者の入所施設の整備／就労支援の充実・働く場の確保／道路の段差解消などバリアフリー化の推進 34.5	
	飯高管内	交通の利便性の確保 52.2	重度の障がい者の入所施設の整備 43.5	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 39.1
	その他	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実・健康診断等保健・医療サービスの充実 40.0	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／重度の障がい者の入所施設の整備／就労支援の充実・働く場の確保 35.0	
障がい等の区分	身体	交通の利便性の確保 36.2	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 34.1	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実 33.3
	知的	重度の障がい者の入所施設の整備 41.6	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 40.3	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 37.0
	精神	障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 40.2	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 37.3	相談窓口や情報提供の充実 34.3
	その他	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実／交通の利便性の確保 41.8	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実／障害福祉サービスの利用手続きの簡素化 32.8	